大正六年九月十五日

關西建築協會雜誌

第一輯（第一号）

關西建築協會會則

第一條　本會ノ目的ハ我國建築界ノ發展ナル發展ヲ期スルニ在リ

第二條　本會ハ關西建築協會ト稱ス

第三條　本會ハ事務所ヲ大阪市ニ置ク

地方ニ支會ヲ設クルコトヲ得

第四條　本會ハ人格學識經驗アル建築家ヲ以テ會員トス

會員ノ氏名住所ハ會員名簿ニ之ヲ記錄ス

會員タラムト希望スル者ハ會員五名以上ノ紹介ヲ以テ入會希望書及履歷書ヲ本會ニ提出シ理事會之ヲ詮衡シ其諾否ハ例會ニ於テ之ヲ決ス

第五條　本會ハ其目的ヲ賛成シ事業ヲ援助スル者ヲ賛助員トス

賛助員ヲ分チテ左ノ三種トス

一、名譽賛助員　地位又ハ學識アル名望家

二、特別賛助員　金百圓以上又ハ之ニ相當スル物件ヲ本會ニ寄附スル特志家

三、普通賛助員　建築ニ關係又ハ趣味ヲ有スル者

賛助員ノ氏名住所寄附ノ金額又ハ物件ハ各賛助員名簿ニ之ヲ記錄ス

第六條　名譽賛助員ハ例會ノ決議ニ依リ本會之ヲ推薦ス

特別賛助員タラムトスル者ハ會員或名以上ノ紹介ヲ以テ申込書及寄附ノ金額又ハ物件ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

普通賛助員タラムト欲スル者ハ會員ノ紹介ヲ以テ申込書ヲ本會ニ提出スベシ其諾否ハ理事會之ヲ議決ス

第七條　會員ハ第十九條ニ關スル權利ヲ享有ス

名譽賛助員ハ第十九條ニ於テ賛ニ任ゼザルコトヲ得

特別賛助員ハ本會ノ經過ヲ受ケ第十九條ニ掲ク利得ヲ享ク

普通賛助員ハ第十九條ニ掲ク利得ヲ享ク

第八條　會員ニシテ脫會セムトスル者ハ其旨ヲ本會ニ申込ムベシ前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第九條　本會ハ會員ニシテ本則ノ規定ニ違背シ又ハ本會ノ名譽ヲ汚スノ行爲アリト認メラル者ニ對シ理事會ノ決議ヲ經テ其權利ヲ停止シ若クハ之ヲ脫會ヲ勸告シ又ハ例會ノ決議ヲ經テ之ヲ除名スルコトヲ得

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十條　脫會其他ノ事由ニ因リ會員タルノ資格ヲ失ヒタル者ハ既納會費ノ返還ヲ求メ又ハ其債務ヲ免カルコトヲ得ズ

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第十一條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

一、會頭　一名
二、副會頭　一名
三、理事長　一名
四、理事　六名

會頭ハ會務ヲ總攬シ本會ヲ代表ス

副會頭ハ會頭ヲ補佐シ會頭事故アルトキ其職務ヲ代理ス

理事長ハ會務ヲ總理シ會頭、副會頭事故アルトキ其職務ヲ代理シ理事會ヲ代表ス

理事ハ會務ヲ處理シ理事長事故アルトキ理事會ノ決議ニ依リ其職務ヲ代理ス

第十二條　役員ハ會員中ヨリ例會ニ於テ之ヲ選擧ス但シ會頭副會頭ハ名譽賛助員中ヨリ之ヲ選出スルコトヲ得

役員ノ任期ハ貳年トス

理事ノ改選ハ每年半數トス但シ引續重任スルコトヲ得ズ

第十三條　本會ニ左ノ職員ヲ置ク

一、主　記　一名
二、主　計　一名
三、編　輯　三名
四、編輯補　若干名
五、書　記　若干名

主記ハ庶務ヲ主計ハ會計ヲ編輯ハ編纂ヲ處理ス

編輯補ハ編輯ノ旨ヲ受ケ編纂ヲ分掌ス

書記ハ理事長理事ノ命ヲ受ケ會務ニ從事ス

第十四條　主記主計編輯ハ理事之ヲ互選ス

編輯補ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス

書記ハ理事會之ヲ任命シ有給トナスコトヲ得

第十五條　本會ハ調査研究ノ必要ニ應ジ例會ノ決議ニ依リ各部ノ委員會ヲ設ケ各部ニ委員長一名委員若干名ヲ置ク

委員長及委員ハ會員中ヨリ理事會之ヲ指名ス委員長ハ互選トス

理事會ハ特殊事項ニ關シ會員外ノ專門家ヲ嘱託委員ト爲スコトヲ得

第十六條　委員長ハ常設委員會ヲ代表シ委員長事故アルトキハ常設委員會ノ決議ニ依リ委員其職務ヲ代理ス

委員會ハ經過ハ例會ニ於テ之ヲ報告ス

委員會ノ調査研究報告ハ例會ノ決議ヲ經テ本會ノ名ヲ以テ之ヲ發表ス但シ緊急事項ニ付テハ理事會ノ承認ヲ經テ當該委員會ノ名ヲ以テスルコトヲ得

第十七條　本會ハ每月一回會員ヲ召集シ例會ヲ開キ重要事項ヲ審議シ報告會、談話會、討論會又ハ講演會ヲ催フ但シ理事會ハ必要ト認ムル時之ヲ開催スルコトヲ得

例會ニ於ケル議案其他ノ事項ハ理事之ヲ會員ニ報告ス但シ緊急事項ニ付テハ此限リニアラズ

第十八條　本會ハ春秋二季大會ヲ擧行ス

第十九條　本會ノ行フ事業左ノ如シ

一、建築ニ關スル諸般事項ノ調査研究
二、調査研究報告ノ發表
三、建築ニ關スル重要事項ノ議決
四、決議事項ノ實行促進
五、會誌ノ發刊
六、建築ニ關スル圖書ノ刊行
七　建築ニ關スル講演會ノ開催
八、建築ニ關スル展覽會ノ公開
九、建築ニ關スル視察
十、建築ニ關スル有志者ノ親睦會
十一、理想的建築ノ計畫
十二、其他建築ニ關スル有益ナル事項

第二十條　會員ハ會費年額金拾貳圓ヲ本會ニ提出ス會員タルノ承認ヲ得タル者ハ入會金貳圓ヲ本會ニ納付スベシ一時金百圓以上ヲ納ムル者ハ爾後會費ヲ免除ス

普通賛助員ハ賛助費年額金參圓ヲ本會ニ納付スベシ但シ六期以內ニ之ヲ分納スルコトヲ得

第二十一條　本會ノ經費ハ會費入會金寄附金賛助費其他ノ收入ヲ以テ支辨ス

第二十二條　本會ノ財產債務債務及每月ノ收支ハ主計其計算書ヲ作リ翌月理事會ニ報告ス

本會ノ財產債務及每年ノ收支ハ理事會其決算書ヲ作リ翌年一月例會ニ於テ報告ス

第二十三條　本會及本則ニ關スル詳細ノ事項ハ例會ノ決議ニ依リ細則ニ之ヲ定ム

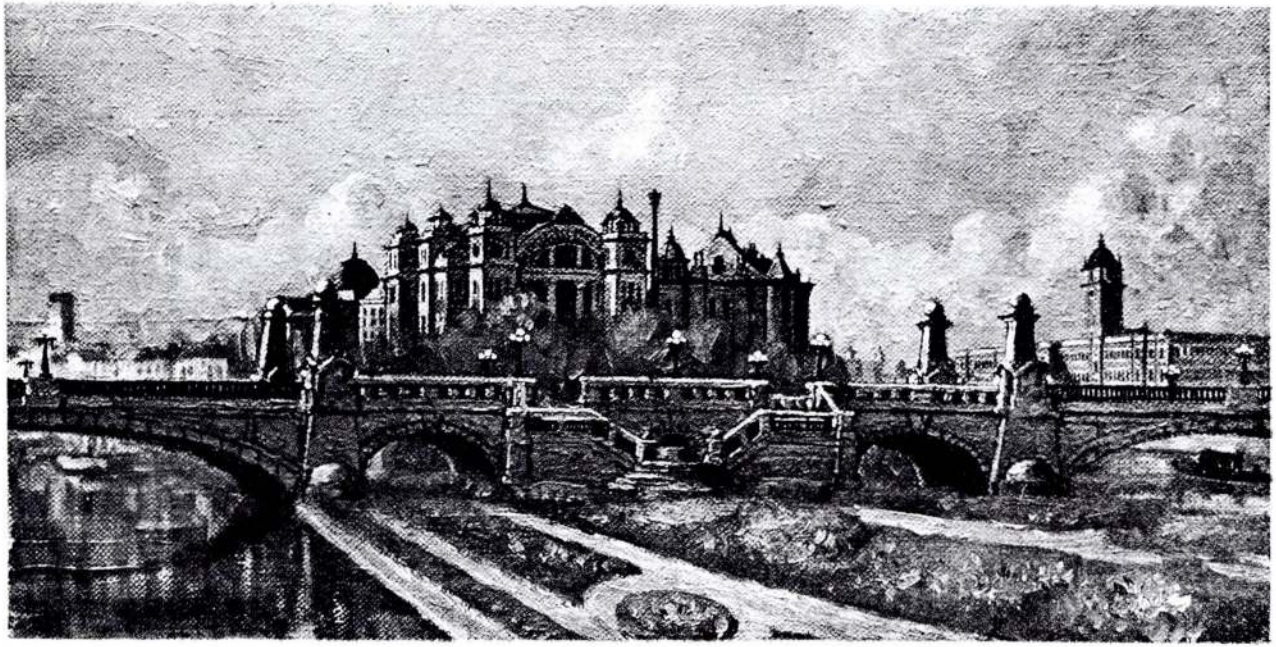
第二十四條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

役員及職員名簿　（イロハ順）

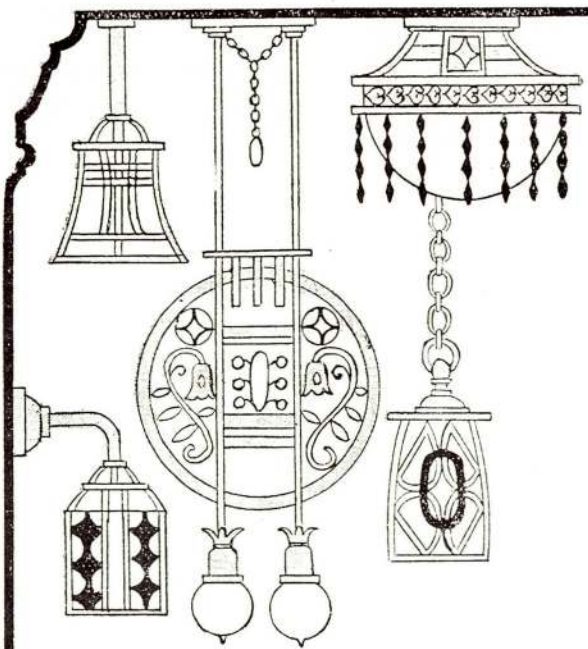
理事長　片岡安

理事　池田貞（主計）　葛野壯一郎（編輯）
武田五一（編輯）　宗兵藏（編輯）
渡江儀夫（主記）　設樂貞雄
編輯補　渡江儀夫　佐藤四郎
本野精吾
書記　山本辰郎

會員七十四名　理事長一名　理事六名　編輯補三名　書記一名



眺遠の帶一島之中阪大るあゝつれき化美りよに物造築きし新

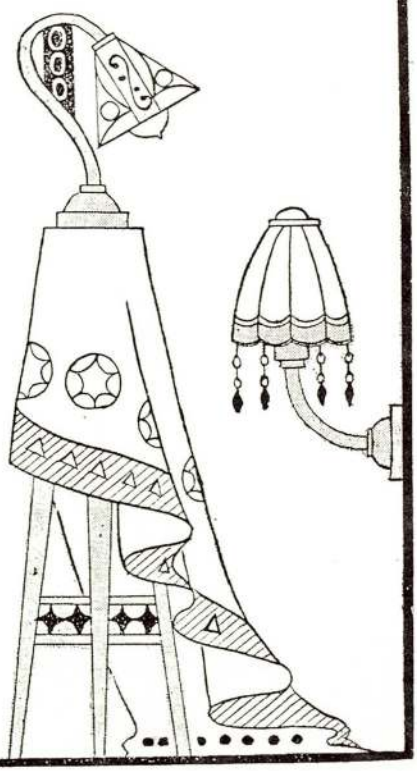


營業要目

電氣器具及機械部

電燈取付、電線路建設
電燈裝飾器具
電氣諸機械器具材料
電話、電鈴、避雷針
エレヴエーター（昇降器）
架空索道、諸機械器具
エンドレス運搬軌道
門柵、建築用諸金具

製造輸入販賣
工事請負
測量・製圖・圖案
設計　監督



A&K

合資會社 秋山小林商店

本堂龍三

本店　東京市京橋區三十間堀一ノ三　電話京橋一四七三番
大阪市東區今橋五丁目　電話本局二五九四番
出張所　愛媛縣北條愛宕二丁目一七一番戸　電話九五二番
工場　東京市芝區愛宕下町二丁目

關西建築協會雜誌 第壹輯 第壹號

目次

口繪
新裝されつゝある中ノ島一帶の遠望（三色版）
新裝せる歐米の二大都市廳舍（倫敦市 紐育市）
大阪朝日新聞本社
住友銀行大阪市船場支店
大阪市電梅田車庫及四橋交叉點の市電用建物

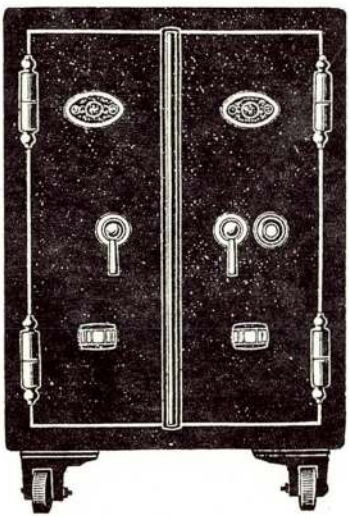
發刊の辭……①
都市大火の危險……會員：片岡安……②
家相問答……會員：葛野壯一郎……⑩
神殿建築と高天ヶ原……會員：波江悌夫……⑮
都市と建築……⑲

議院建築調査會に就て……淮　敬　生……㉙
コンクリート……會員：大　蘆　生……㉛
空中の庭園……須　藤　眞　金……㉟
蘆分倉庫の爆發事件調査報告書……第四部災害調査委員會……㊴
會報……㊷
◆序……◆本會の創立……◆第一回例會……◆特別委員會
◆第二回例會……◆第三回例會……◆特別理事會
◆第四回例會……◆臨時役員會……◆臨時例會

廣告
◆秋山小林商店……◆伊藤喜商店（以上前付）
◆建築事務所案内……◆建築請負業者案内……◆須賀商會……
◆松尾和助商店……◆米國貿易會社……◆大阪窯業會社……
◆齋藤省三……◆櫻セメント會社……◆みよし組大阪支店
◆高田商會……◆大阪煖房商會（以上後付）
◆コルク工業合資會社（裏表紙）

鐵扉 幷ニ 金庫

東京竹内製造



關西特約

大阪市東區平野町二丁目

伊藤喜商店

電話局本 一三九・四二三
二三九・三七三

九州支店 福岡市博多藏本町

京都代理店 烏丸六角南入

新裝セル

歐米ノ二大都市廳舍

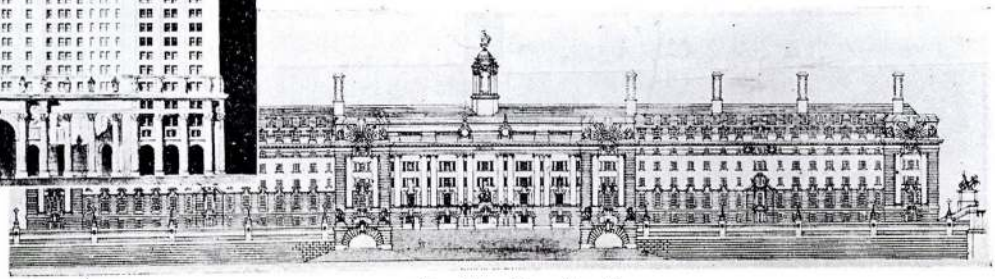
倫敦市廳舍ハ、テイムス河ノ右岸ウエストミンスターノ橋畔ニ新築サレタル倫敦ノ一大新建築ニシテ、國會議事堂ト相對峙シテ其雄偉ノ美ヲ發揮シ、紐育市廳舍ハ同市マンハツタン區ノ市公園ニ面シ、チヤンバー街ニ跨カリテ建テラレタル處ノ三十階ノ一大高層建築ナリ

前者ハ敷地買收費ヲ合セ一千五百萬圓ヲ要シ、後者ハ二千萬圓以上ヲ費シタリト云フ

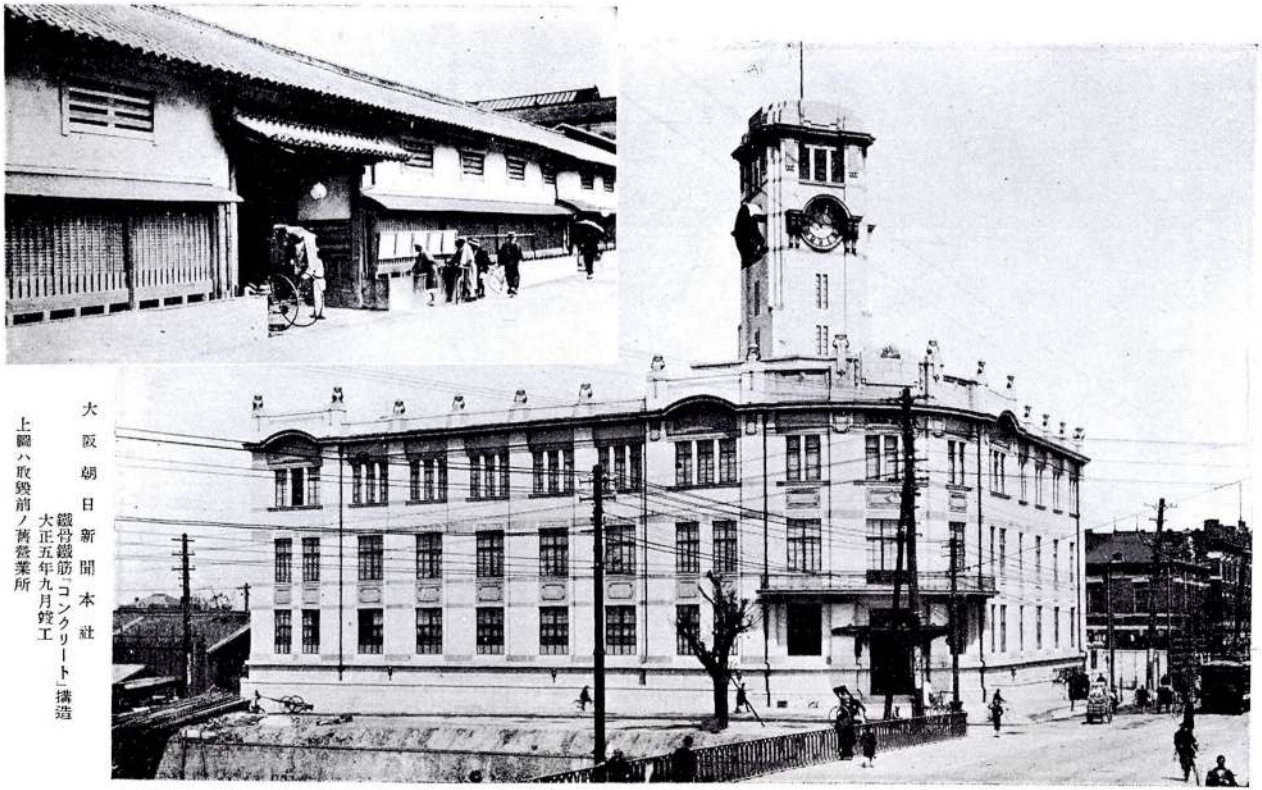
（圖面ハ約一千八百分ノ一）



紐育市廳舍



倫敦市廳舍



大阪朝日新聞本社
鐵骨鐵筋「コンクリート」構造
大正五年九月竣工
上圖ハ取毀前ノ舊營業所

都市建築ノ今昔、二



住友銀行大阪市内船場支店

鐵骨鐵筋「コンクリート」構造ニシテ大正六年一月竣成



取毀以前ノ同上建物

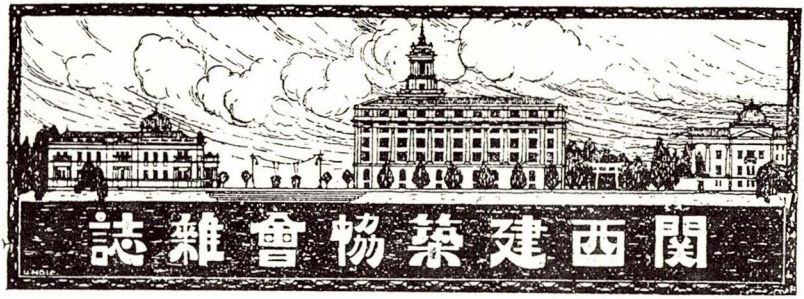
低級ナル都市建築ノ一



大阪市電ノ梅田車庫



四橋交叉點ノ市電用建物



發刊の辭

我が關西建築協會は、時代の機運に促がされ、建築技術家の覺醒に由り、大戰亂第四年の春、梅が香薫る關西の天に呱々の聲を上げたり。

思ふに、明治維新以來、我が國の文物は其のあらゆる方面に亘りて、空しく苟且主義の上に樹てられ、少しも確固たる基礎を有せず、所謂過渡時代の混沌たる狀態にありしが、時は絶ゑ間なく進みて黎明の氣は天地に漲りぬ、曉の鐘將に高く鳴らんとす。

此の進展期に際し、社會を指導する大抱負の下に、我が國建築界の堅實なる發展を期し、科學的に組織ある文明的都市の建設を計るべき急要の時期なるを覺悟し、以て將に鳴らんとする曉鐘第一の金鋼杵たらんと欲す、蓋し、其の事や大にして其の責や亦重しと云はざるべからず。

我が關西在住の建築技術家は茲に結束して起ちぬ、偏に其の任務の輕からざるを感じながら、專ら斯の偉いなる目的遂行に熱中し、從來我が國一般に措いて問はざりし都市建築の拘束改良、家屋政策、其の他文明的施設の刻下急要の問題にして苟くも建築に關連せるものは、凡て之が研究調査をなし、之を社會に發表して啓蒙の位置に立たんと期す。

天下有識の士、幸に此の誠意に同情し、斯の事業の成功に協力せらるゝあらば、豈獨り我が關西建築協會の利益のみなるならんや。

本誌は本協會活動の一部隊に過ぎずと雖も、其趣旨は本協會の目的遂行の一機關にして、今後紙面に現はるゝ熱誠なる努力は漸を逐ふて社會を刺戟し、吾人同志の目的の一部が達せらるゝ日のあらん事を確信して疑はず。

敢て抱負の一端を述べて發行の辭となす云爾。



都市大火の危險

會員　片岡安

火災防備＝倫敦の大火災＝北米合衆國十年間の火災損害高＝我國最近十年間の火災損害高＝人口一人當損害高＝歐洲と北米との比例＝何故に米國の罹災高は著大なるか＝問題の要點は二つ＝火災の襲來を天災視する習慣＝都市大火は失火が中心＝失火の度數＝人口割より觀たる日本及歐米の火災度數＝歐洲と北米との火災度數に著しき差異ある所以＝我國の火災度數も今後增加せむ＝大火襲來期は？＝明曆大火の慘絶＝幕府の火災輕減策＝大火を容易に防禦し得るもの〻做せる一般の誤解＝將來の都市大火が齎し來る經濟上の打擊

都市の火災は、古來恐るべきものとして取扱はれ、其防備に就きて可なり深き注意を拂はれたことは事實である。殊に歐大陸の都市に在りては、西曆千六百六十六年の倫敦大火以來、大火らしきものは之を見ることなき程其防備の目的を達したのである。

倫敦大火は、倫敦の目貫の場所を四晝夜に亘る暴風の間に灰燼に歸せしめたる有名な出來事にして、其損害の幾何なりしやは、今日より之を推定し得ないのであるが、其教訓に依りて、爾來大火を絕滅し得た利益は、却つて其損害よりも大なるやに思はる。

我國の都市が、古來、火災の爲に受けたる損害は、直接と間接とを併せたならば、非常な金額に達したのである。殊に、人命の損害に至りては、世界に其比を見ざる程度のものであつた。歐米各國にては最も悲慘な事實として傳へらるゝ處の、二三十年前維那の王立劇場の火災に數百人の燒死者を出したるに、十年前市俄古のイルコア劇場にて二百人以上の燒死者を生したるを記錄されども、我國の明曆三年正月十八九日の江戸大火は、實に、數萬の士民を燒死せしめたのである。現時、世界を通じて火災の最も

著しき損害を受けつゝあるは、北米合衆國にして、人命の損傷に於ても、我國を除けば或は記錄を示すものかも知れない。人命損傷の問題は之を他日に讓り、財産の損害のみに就て之を見るに、最近の歐洲大都市は、其罹災高非常に小にして、北米都市の夫れに比すれば、五分の一以下に位し、我國の損害高と相伯仲するのである。北米合衆國が從來蒙り來りたる火災損害高は、可なり多額のものにして、千九百年より千九百九年まで十箇年の間に受けたる實損額は、左の如き數字を示す。

一九〇〇年	一六〇、九二九、八〇五弗
一九〇一年	一六五、八一七、八一〇
一九〇二年	一六一、〇七八、〇四〇
一九〇三年	一四五、三〇二、一五五
一九〇四年	二二九、一九八、〇五〇……（バルチモア大火を含む）
一九〇五年	一六五、二二一、六五〇
一九〇六年	五一八、六一一、八〇〇……（桑港大火を含む）
一九〇七年	二一五、〇八一、七〇九
一九〇八年	二一七、八八五、八五〇
一九〇九年	一八八、七〇五、一五〇
合計	二、一六七、八三二、〇一九弗　一箇年平均　二一六、七八三、二〇二弗

卽ち、多きは五億弗以上、少きも一億六千萬弗を下らず、平均一箇年の損害高二億一千六百七十八萬三千弗（邦貨にすれば約四億參千五百萬圓）となる。之に消防費及防火用の設備費を略ほ同額のものとして、一箇年約八億七千萬圓は火災の爲に消費さるゝのである。斯くの如き著大なる犧牲は、何故に北米都市にのみ限らるゝかは、吾人の最も深き注意を拂ふべき點である。

試みに、最近十箇年間我國に於ける火災損害高を見るに、

明治三十七年	八四八、四七六坪	（罹災坪數）
同　三十八年	六三六、七五四	
同　三十九年	七三六、九八五	
同　四十年	九一五、九一九	
同　四十一年	八一四、九〇七	
同　四十二年	八八八、九七三	
同　四十三年	七一二、〇三五	
同　四十四年	八〇八、四六一	
同　四十五年	七〇八、九八五	
大正元年	一、二二七、七五〇	
大正二年		
合計	八、二九九、二四五坪	平均一箇年　八二九、九二五坪

之を一坪五拾圓と見るときは、一箇年罹災高約四千貳百萬圓と成り、之を參拾圓と見るときは貳千五百萬圓となる。更に、之を人口六千萬に割當つれば人口一人に付一箇年の罹災高平均四拾錢乃至七拾錢の系數を得るのである。

歐洲各國に於ては、此系數は伊太利の貳拾四錢を最小とし、大抵は六七拾錢内外なるに、獨り亞米利加合衆國の夫れは著しく大きく、千九百九年の統計に據れば、各一人當りの罹災高實に五圓四拾錢にして、當に我國の十倍以上に達し、殊に、其主要都市二百五十二のものを平均すれば、六圓貳拾錢にして、歐洲に於ける三十の主要都市の夫れが壹圓〇貳錢なるに比すれば、矢張り六倍以上に達するのである。

北米合衆國の罹災高が何故に斯る著大なる數字を示すやは、煉瓦造の建物を主體とする國柄として不可思議の現象であるが、之を詳細に觀察するときは、亞米利加の如く、急速に發展したる都市の通弊として、表通りは可なり宏壯堅牢なる建築を以て充當さ

るゝも、二等三等街路に面する家屋は、内部には主として木材其他の可燃性材料のみを使用し、中には全部木造のものも混じ、殊に、倉庫や商店内に蓄積する莫大の貨物は、全部可燃性のものなるが故に、一度烈風に伴はれたる失火に出會せば忽ち一面の火焔と成り、木造建築都市と相似たる結果となるからである。それにしても、我國の如き木造建築を主體としたる都市が、其罹災高の比較的に少きは奈何なる理由なるや、之れ我輩の此處に痛論せむとする問題の要點である。

問題の要點は之を二つに分ちて考ふるを順序とす。卽ち我國過去十箇年の罹災坪數一箇年平均八十二萬九千坪は、將來も此狀態に著しき變化なきものと認めて可なるや。之を詳しく云へば、歷史上屢繰返されたる都市大火は、將來決して來ることなきやの問題を第一とし、更に、其罹災は、從來の如き輕易なる損害にて事濟むや否やの問題を第二とする。

我國の最近十五六年間に於ける火災損害高は上述の如き數字を示し、我國の富の程度より之を觀れば比較的輕易のものにして、餘り深く意に介する價値なきやうにも考へられるけれども、若し之を以て火災被害を極度と看做す者あらば、之れ由々しき誤解である。而して、現時、我國一般社會の者が概ね斯の誤解に陷りつゝあるを知る毎に、我輩は、其淺慮無謀に嘆かざるに得ない。我輩は、毎年全國の都市村落を通じて現はるゝ火災損害に就きては、餘り深く憂ふる者にあらざれども、歷史上に數次現はれたる所謂都市大火が、今後若し東京大阪其他の大都市を襲ふやうのことなきやを恒に深く慮る者である。

都市大火の襲來は、一の天災として諦められぬことはない、併し乍ら、其結果が、今後經濟上に及ぼす大影響を稽ふるときは、唯之を以て天災と看做したる野蠻時代の習慣を株守すべきものではない。

都市大火は、何時でも失火が中心と成り、偶々烈風の吹き荒む爲に漸次延燒を早め、普通の消防機關にては之を喰止むる術のなきことに起るのであつて、都市が其人口を增すに從ひ其機會を多くするのみならず、活動の旺盛なるに從ひて亦其度數を增すことは、常識にて之を判斷し得るのである。

失火の度數は、卽ち大火襲來の危險率と直接比例するものにして、我國の失火度數が近年漸次增加の傾向あるは、殊に注意すべき現象である。

明治三十八年	一萬四千九百〇九回
同　三十九年	一萬五千四百九十四回
同　四十年	一萬六千三百五十一回
同　四十一年	一萬五千三百五十一回
同　四十二年	一萬七千八百五十回
同　四十三年	一萬七千五百十回
同　四十四年	一萬七千七百三十回
同四十五年	一萬八千〇五十四回
大正元年	
大正二年	一萬八千六百九十六回

失火度數は、各個人の注意深き行動に由り漸次之を輕減し得る筈なれども、數千年の昔より洋の東西を問はず絕對に之を無くする方法無きのみならず、却つて增加するの傾向あるは、之れ人事の常態こして已むを得ざる結果である。今後こ雖も、其輕減を圖らねばならぬのであるが、或は、增加するの場合をも考へ置くの要がある。今之を人口割こして其濃度を見るに、

我國の火災度數	人口千人に付	〇、三強
歐洲各國の火災度數	同	〇、八六
北米合衆國の火災度數	同	四、〇五

右の系數を見るこきは、火災は一般社會の活動烈しきに從ひ其度數を增すものにあらざるかを疑はざるを得ない。而して、歐洲各國こ北米合衆國この火災度數の差の甚しきは奈何なる理由に基くやを、此處に考へ置かねばならぬ。

北米合衆國の社會活動狀態が、歐洲各國の夫れよりも一層甚だしきものあるは、新進國の常こして之れを認め得ざるにあらざれども、〇・八六こ四・〇五この差は、亦餘りに甚しきに注意せねばならぬ。今其理由を一言にして說明すれば、兩者の都市村邑の建

築狀態に著しき差があるからである。之等を考へ合せるこ、我國の火災度數は、今後之を輕減せしめ得る望みは甚だ少くして、寧ろ、其增加は自然の勢である如く思はれる。殊に可燃性化合品の輸入されて、其需用益々多からんこする現代の狀態は、之を避くる譯には行かないのである。近時、數次耳にする爆發の如きは其極端の例に過ぎず、輕油、火藥等は、大都市到る處に散在して、市民の活動を助けつゝあるの狀況を考ふれば、火災度數は人口增加こ與に益々頻繁ならこする傾向を認めざるを得ない。

維新前の我國大都市の大火を觀るに、世界的記錄たる明曆三年の大火を除くも、東京は開都以來數十回の大火に見舞はれ、京都及大阪は、共に十數回の大火に遭遇したここは歷史に明かである。維新前社會活動の比較的緩漫にして、可燃性貨物の少かりし時代に尙且つ斯る大火に遭遇したのであるから、現在我國の大都市が、火災瀕度の增率こ都市人口增殖の趨勢こより稽へて、今後も到底大火の襲來を免るゝここの出來ないものこ念はねばならぬ。其襲來期は果して奈何、是れ重大なる問題にして、之を豫想するには餘りに寂漠なる如く思はるゝけれごも、一朝の失火こ颶風こが一致した時、其時が卽ち其怖るべき機會が到來する時である。

維新前に於ける大火は、東京にては三百年間に四十回、平均八年內外に襲來し、大阪は、比較的に大火に乏しこ雖も、尙且つ明治四十二年の北區大火より更に怖るべき大火に出遇ひしここ三回以上を數ふ。又京都の大內裏災上は、維新までに數十回を下らぬのである。之等の事實を綜合すれば、我國都市大火の可能率の比較的著大なるを信ぜざるを得ない。我輩は、失火の時間こ烈風こ一致するが如き天然こ人爲この偶然の出來事を豫め推定するは、人智の及ぶ處にあらずこ考ふるものなれごも、極大体の系數を或程度まで信じ得るものこすれば、東京には三十年每に一回、大阪には五十年每に一回、京都には百年每に一回の大火の來るを想像して大過なきものこ思ふのである。素より防備の方法漸次進步するに隨ひ、大火の損害程度を輕減し得るここ勿論である。明曆三年の大火は、江戶開都以來建築の未だ甚しく粗末なる時代なりしを記錄に據りて識る時に、特に其感を深ふする。明曆三年正月十八日及十九日の兩日は烈風吹き荒み、本鄕區の本妙寺よりの失火こ、小石川傳通院前よりの失火こ、更に麴町七丁目よりの失火こが共に西北風に煽られ、江戶城は僅に西ノ丸を殘して、本城二ノ丸三ノ丸を燒失し、麴町、神田、牛込、日本橋、京橋、芝等殆んご全部灰燼に歸し、萬石以上の屋敷五百餘、旗本百名以上のもの百六十、其他、小姓書院番、大番組、小十人組等合計すれば七百

七十三屋敷、町家の燒失せしもの四百町、一家悉く燒死の者八百五十七、燒死者十萬と稱せられた古今未曾有の大火であつた。其罹災程度の甚しかりしは、主として家屋構造の缺點であつたことを想像するに難からぬのである。爾後幕府にては屋上に制限を加へ、種々の布令にて多少の輕減策を講じたことは、記錄にて之を識ることを得る。併し乍ら、唯僅少の輕減たるに過ぎずして、其後も江戸大火は數次繰返されたのである。

今日我國大都市の建築は、多少改良されて火災に對する抵抗力を增したことは、或程度までは之を承認し得られぬことはない。又、街路幅員の幾分擴築されたのも、罹災面積を縮少するに効力あるものと想はれる。其他、水道防火栓の到る處に布設されて消火を便にし、消防喞筒の設備も一と通り揃ひて、消防隊の活動を助くるに至りし事實は、凡て之れ罹災程度を輕減するものと觀るを至當とする。併し乍ら、斯くの如き些少なる設備と便利を以て大火とを防禦し得るものと思ふ者あらば、そは恐るべき危險なる誤解であることを此處に十分に說明し置きたい。

最近の大阪北區大火の時、大江橋北詰附近が延燒しつゝありし際は、同火災の最も激烈なりし時刻にして、其風速は、正さに一秒に付三十六米突を示し、颶風としては最も小なるもの、部類に屬すべきものなるに拘らず、現在の如き消防機關にては全然拱手傍觀するより外に策の出づることが出來なかつたのである。一九〇四年の北米合衆國バルチモア大火は同市の中樞區域全部を燒失し、其直接損害八千萬圓以上に達したと云はるゝ大火災なりしが、其延燒の際には、烈風に煽られたる火焰は、容易に消防機關にて防ぐこと能はざりしを證據立てた。

要するに、都市の大火は、木造又は內部木造の建築を以て充さるゝ都市に在りては到底免るゝことの出來ない現象であつて、其襲來の時機は、天然の烈風と失火と一致する時に起るのであることを覺悟せぬばならぬ。

第二の問題として論ずべきは、將來の都市大火が齎し來る經濟上の打擊にして、現時我國都人士の最も深く慮からねばならぬ重大な事柄である。古來我國の大火は、家族的には悲慘なる事情を生じ、社會的には不景氣を誘發したのは事實なれども、事業界の發展を害したるか、經濟的活動を妨げたるかいふ國家の經濟に大損害を與へた例には乏しい。寧ろ、或者は、之を燒太りと稱し

て、一時的の苦痛が却つて將來の發展を早める如く考へる者なきにあらず。隨つて大火防禦が都市施設の急務なるを識らざる者の多きには驚くの外はないのである。試みに思へ過渡時代の既に過ぎ去りたる我大都市の各種の事業が、一朝火災に襲はれて滿目焼土に化したるときに奈何に其復舊に苦しむかを。事業の種類に依りては殆んど復た立つことの出來ない破目に陷るものもある。殊に、銀行業の如き其位地に拘泥すべき方面の事業に至りては、其營業所の焼失は、蓋し致命傷たるべく、官衙の公館、自治體の公廳焼亡は、現時の如き事務の方面廣き時代に於ては、其苦痛は容易ならざるものあらん。其直接の損害も、舊時代と異り大都市中樞區に於ては、一朝の大火に喪ふ處數千萬圓に上るべく、火災保險會社の破産、老店舗の壞滅等、經濟上の悲慘なる事情等を續出するなしとは限らぬのである。是を以て一の悲觀論と看做す者は、歐米大都市が凡ゆる方法を以て都市建築に耐火構造を強ひつゝあるを見れば、其眞意を解するであらうと想はれる。

今や、都市の建築法規の重大なる意義は、從來其日暮し主義なりし我國都人士の頭上を壓し來つたやうに思はれる。都人士たる者、斯の怖るべき都市大火に對しての防備を一日も早く施設せんことに努力せねばならぬ。

諸君は皆建築家になれるのである、建築は萬人の學ぶべき藝術であつて又學ぶに甚だ易い、之を知らないのは恰も文法綴字を知らないと同樣である、諸君が將棊骨牌を學ぶ程の勞力を以てすればゴシック寺院の構造の主要な原理はすつかり學ぶ事が出來しかもそれに劣らぬ興味を感ずるに相違ない。

（ラスキン）



家相問答

會員　葛野壯一郎

A、建築依頼者
B、建築士
C、A夫人

『壹』

A。家相吉凶の問題について、少々伺いたいと思ふので有りますが……、全体家相の吉凶といふ様な事は、信ず可きもので有りませうか、或はまた全然信ず可からざるもので有りませうか、先づその邊から伺ッてみ度いと思ふので……。

B。是はお答するのに一寸難しいお尋で有ります。信ずるとか信じないとかいふ様な事實になると、或程度まで理論を超越したところに問題を押進めた上のお談で、私が家相信ずべからずと申したからとて、アナタはアナタの立場から觀てオレは信ずると云はるれば、問題はそれ迄のもの、様に私は考へて居りますが……。

A。或は私の問ひ方が概括的で、漠として餘りに要領を得ないかも知れません……。兎に角私の信ず可きや否やといふのは信ずるに足るだけの其處に相當根據が有るか如何か、その邊をお尋したいので有ります。

B。勿論舊來の家相法にも、各相當の根據とするものは具つて居ります。しかし世の中には、必ずしも根據のあるもの而已が信ぜられて、根據のないものはすべて信ぜられないかといふに、私は決して左様ではないと觀察して居ります。石が浮んで木の葉が沈むと云ッたやうな矛盾は、毎々世間に有勝ちの事實のやうに見受けられます。由來多數の人が、信ずると

か信じないこかいふ様な事は、理論上合理的で有るからこいふよりも、寧ろ主こして感情的で、實際問題に多く其基礎を置いて居るやうに思はれます。理屈だけで斯く〳〵こィクラ詳しく說明しても、多數は中々それだけでは滿足しない、單に說明こして了解したに止まるので有りますが、反對に是を實際問題こして、事實かくの如しこ一二實例でも示されるこ、一も二もなく滿足し信賴するこいッた様な傾が有るので有あります。假令ば吾が家相吉凶の問題の如きも、是をかりに理論上、何等正當の根據の無いものこ斷定して仕舞ッたからこて、單にそれだけでは所謂家相吉凶に關する信賴は、決して根絕しないのが普通で有るこ考へられます。

C。主こして感情的こおッしやるのは……。

B。例へばです、一軒の家で家內に始終病人が絕ないこか、連年不幸がつゞくこか、何か異狀のある場合、第三者から、それはァナタの家の家相が惡いからでは有りますまいか等こ水をさゝれるこ、殊に御婦人等はッィ其んな心持になり易いので、或は左樣かも知れないこ兎に角家相家のこころへ出掛けてみるこいふやうな順序こなります。家相判斷を看板こして居る多數の賣卜者流は、ヨク此邊の呼吸をのみ込ンで居りますから、人に應じ身分によッて巧に是を說服し、彼等の畑にダン〳〵深く、誘ひ込むやうにつこめるので有おります。

A、人情の弱點こでもいふのでせうか……。

B、左樣です。全体弱い者は、獨り婦人のみに限る譯ではなく大抵の男子も亦同樣で有ります。君の家は家相がごうもよろしくない、主人が短命だこか家運が傾くこか、相續人が絕ねるこか、火災が起らなければよいが等こ、何人も平素から避けたい〳〵こ思つて居るやうな事を幷べられて見るこ、サテ大抵の人は、別段それを信じない迄も、決して愉快な氣分にはなれないので有ります。ソコへ持つて行つて急に小供の一人でもなくするこか、思はぬ風波が家庭に起りでもするこ、何だかいはれた事がピッタリ當つたやうな心持がする。コンな順序で全然家相の吉凶を信ずる譯ではないが、一應家相家の說も聞いて見るこいふ樣な事に落付きます。また中には多數を相手にする營業上の政策こして、必要上家相家の說を入れるこいふ向もあります。京都の或銀行で、鬼門に塔屋が有つたこころから、客受けが面白くない、ついに改築するに至つたこいふ樣な例も聞いて居ります。

C。しかし皆さんが凡て、ソンナ方ばかりでは有りますまい。中には初から、相當據る可きものこしての信仰を持つて、家相家に相談をなさるのも有りませう。

B。勿論有ります。易だの五行九星方鑑だの、多少家相法の基礎學……はチト大袈裟だが、兎に角陰陽說の一般智識を持ちまた特にその方の趣味を持つて、あたまから家相を信賴してかゝつて居る人も多分に有ります。現狀から家相判斷依賴者の色別をするこ、大体三種に區分せらるゝ譯であります。

(一)、家相吉凶に全然信賴するもの

(二)、信賴するこいふ譯ではないが、兎に角何等か理由のあるものこして、つこめて隨順せんこするもの

（三）、全然盲從するもの

の三つで、（一）は主として舊い思想の型に捕はれた、一世紀前に屬す可き連中、（二）は現代多數の中産者、（三）は下級の愚民と云つては失敬だが、先づザットその邊の程度の連中で有ります。

A。信ずる側にも色々の種別が有るが如く、家相判斷者にも亦樣々の系統階級が有る譯でせうネ。

B。勿論非常に多岐にわかれて居ります。その根據とするところから觀ても、易斷を主とするもの、五行九星に據るもの、口傳秘事を楯として俗傳を主とするもの、自家の新說を立てゝ全然それによらんとするもの等樣々で有ります。また身分階級からからしても下は大道に幕を張つて客を呼ぶ、大道易者の類から、立派な門戶を張り貴紳豪商を常客とする、堂々たる連中まで數へあげると、是亦千差萬別で有ります。

C。東京邊にも中々盛んに營業して居るのが有るさうで御座いますネ。

B。有ります。私の友人の話しに、高臺に居る或家相方位の大先生の如きは、マルで醫師の玄關といつたかたちに、一人〳〵番號札か何かもらつて控へて居ると、順序に呼び出されて診斷……ではない判斷を受ける、それは〳〵エライ見識なものださうです。曾つて私が在京時代にも、ある富豪の邸宅の計畫に當つた時、一寸物置を動かすにも、一々右の大先生のところへお使者が立つて、悉しく其指圖をうけてから實施するといふ樣な、隨分と馬鹿々々しい經驗をした事がありました。

『貳』

C。全体家相判斷は、何時頃から行はれたもので御座いますか。

B。基礎は古くから傳つて居た事勿論で有りますが、一般民間に最ひろく唱導せられたのは、元祿年代以後ザット二百年來の事實の樣で有ります。德川末期に於ける、最頽廢せる文明が產んだ、一ッの產物として觀れば餘程興味が有ります。

A。私の最不思議でならないのは、現代の如く科學的に建築術も進步し、立派な建築士が世間に澤山出て居るにも係らず、一面家相判斷といふ一種奇体な營業者が、依然存在して多數の人がその門をたゝくといふ事實は何の爲でせうか。或は未だ吾が邦の建築家が、一般から充分認められる權威のないことを、說明するものでは有りますまいか……。

B。御說御尤です。貴方が左樣お考になるが如く、現代多數の人が、その樣に考へて居ります。私共は吾々の努力の足りないところだと、甚だ遺憾に思つて居ります。

A。アナタは建築家として、家相吉凶の問題に對して、如何いふ風に考へて居らるゝので有りますか。

B。他の建築家は知りませんが、私一個の考として無論家相の吉凶はあると主張するので有ります。建築家の主要なる仕事は、依賴者に最福利を增進す可き、最吉相の家屋を提供するのにあると私は平素信じて居ります。しかし吾々現代技術者としての家相吉凶は、古い型の陰陽觀から出立する、家相判

斷そのまゝを是認するといふ樣な意味では、勿論無いので有ります。假りに吉とし凶とするところが、全然舊家相法に一致の場合が有つたからとしても、現代技術の懷に生れて、吾々の唱導する吉凶可否の結論は、世間賣卜者流の判斷とは、まるで觀察の出發點が異つて居なければならないので有ります。

C。家相といふ文字の意義が、私には、ハッキリ解りかねますが……。

B。家相といふのは、私の釋義では家屋の種々相といふ事で有ります。人相の例に因つてお談し申せば、人の顏かたちが、黑白赤黃と人種に應ずる種族的の異同は勿論、お互日本人の間柄でも例令ば奧樣の樣な美くしい方もあり……。

C。是れは恐れ入ります……。

B。美くしい方もあり、また醜い人もあり、福々しいのやら、貧乏面やら、愛らしい憎らしい尊い賤しいと、此ヤット八寸足らずの顏の內だけでも、眼鼻肉附の具合で樣々に相異り相別れるといつた樣に、家屋に在つても亦かくの如しで、和洋東西の大別は勿論として、同一の日本風の建物でも、千樣萬態、大少高低、方に圓に凸に凹に、愛すべく安んず可きもの、樂しむ可く親しむ可きもの、嫌ふ可く賤しむ可きもの、各々其特質を異にして、互ひに相異り相距るといふ事實、これが卽ち建築の種々相で有ります。

C。造化の妙とでも申しませうか。如何してソンナ具合に、種々相が現出するのでありませうか。

B。ソレは人間生活と自然、卽ち環境との交涉が、かくの如き相異を餘義なくする程、複雜であるに外ならないので有ります。美人には美人の悅びと悲しみが伴ひます……。

A。美人薄命といふのですゥ……。

B。左樣。醜婦には醜婦の安穩と不遇がつきまとつて居ります外面如菩薩內心如夜叉などと申しますが、是れは除外例として、大凡人は其顏かたちを觀て、その氣分性格の大体が測量せらるゝが如く。家屋に於ける種々相も、生活と建築、自然と建築、この二ッの因緣に通達する事に因つて、是れに住する人間の運命の一端を窺ひ知るといふ事は、必ずしも不合理だと排斥する譯には、行かない樣に考へられます。

『參』

A。それではアナタの主張せらるゝ家相吉凶とは如何いふ事實に歸するので有りますか。

B。すでに家屋の種々相といへば、自然その內に吉凶可否の問題が、當然生じて來なければなりません。元來家屋は木だの土だの石だので造りあげた、一ッの死物で有ります。しかしそこに人間が住ふ事によつて、それが一ッの機能を持ち、客間は客間、玄關は玄關、臺所は臺所としてそれ〴〵の働をなし、明るいとか暗いとか、風通しがよいとかわるいとか、季節の變化に應じて暑いとか涼しいとか、暖いとか寒いとか、實際使用上の便不便の事實にはじまつて、保健衞生上適否の問題に至るまで、さま〴〵の可否善惡の論議を生ずる。吾々

の主張する家相吉凶の問題は、ツマリ此範圍を出る必要はないので、要は生活と建築との適應、自然と建築との調和如何ということに歸着するので有ります。

A。舊來の家相吉凶にも、やはり左樣云つた一面は、持つて居るので有りますまいか。

B。左樣勿論あります。家相法の根據とする陰陽觀も進めて行けば、ツマリ環境と建築の調和ということに歸し、井戸だ湯殿だ便所だ竈だと位置だの方位をヤカマしく云ふのも、詮ずれば生活と建築の適應ということに歸するかもしれません。元來お互は常にその周圍に支配せらるゝが如く、またその周圍を自己に最都合のよい樣な形に、造り出す能力を持つて居るもので有ります。世間の家相判斷者は人間の運命ということを、出來るだけ高調し、イヤ主人が短命だの家運が衰微するのと家屋に必然左樣なければならない家相が有つて、運命そのものを支配するかの如く、主張するので有ります。是れがソモ〳〵誤解の初まりで、甲と乙が同一の吉相だからとて、それが必ずしも同一の福利を受ける譯ではなく、丙と丁が凶相を共にしたからと云つて、常に災害相隣するということ事實もないので有ります。現代から二百年も距つた、世想の單調な、舊德川時代の生活に在つては、所謂家相判斷者が、唯一の建築指導者となつたからとて、別段不思議はない、中には相當見識を具へた博學の士も有つたので有りますから、寧ろ信賴す可きもので有つたかも知れないので有りますが、是をその儘現代の複雜な世の中に傳唱し、主張するに至つては、其愚や元より論ずるまでもないので有ります。

A。家屋に吉凶の家相なしということになると、家は何んな物を建築してもよろしいということになるので有りますか。

B。決して左樣では有りません。人と時と處により、石と木と鐵とにより、一々の觀察が一々の是非を生ずるところに、可否吉凶の事實は存するので、吾々の家屋を大成するため、技術の最善をつくし、實生活と自然との適應をはかるためには地理地形を觀じ方位の察す可きは勿論、間取の凹凸大少廣狹厠井戸臺所湯殿物置の位置から、小は物入戸棚の配置に至るまで、竪に橫に、至細に考慮し周到にその吉凶可否の研究を要する事は勿論で有ります。（未完）

若し夫れ堂塔相呼び、樓閣相答へ、全都をあげて協和融合、一大音樂を爲すに至りては、今日よりして殆ど想像だも及ばざる偉觀であつて、恐らく藝術上最も深大なる感動を起さしめるに相違ない。

（ラスキン）



神殿建築と高天原

會員　波江悌夫

一、序　論
二、古代思想と神殿建築
三、古代研究と高天原
四、古代思想と高天ヶ原
五、結　論

序　論

賴山陽先生は國史の大家であつたけれども『日本政記』の初めに『鴻荒之事。和漢同然置而不可論矣。』と簡單に幕を下されてゐる。實にや吾國上代の歷史は深く神秘の扉に閉され今に史實を求むるの至難なるは云ふまでもない、從つて淺學菲才の徒が輕卒の筆を弄し淺薄な憶測を以て之を窺ふ事は大に愼むべきである、されば山鹿素行先生も『中朝事實』に敬虔の体度を以てかゝる輩を叱せられてゐる。然し、德川時代の中葉に至つて眞摯なる復古思想の潮流は日に月に熱烈になつて先づ國學者の覺醒となり、吾國古神道の大義は明かにせられ、次いで勤王思想の勃興となつた、本居宣長先生が『古學復興』に絕倫の精力を盡された偉業は今に其光を放つてゐると思ふ。

明治になつて泰西文明の輸入と共に歷史はいつか科學的研究の時代に入り、上代の思想よりは上代の史實といふ事に重きを措く事となつてから吾國上代の神秘の扉は數多の學者の訪問する處となつたが、今日の科學的研究は歷史學に動かすべからざる力とはなつても史實に遠い吾國上代の神話は尙考察の餘地が充分に在る。謂はゞ今日數多の學者の數多の學說と云ふのも結局は今日各方面からの觀察はこれ丈あると列べて見たに過ぎない樣な感がある。

神代の大舞臺たる高天原の所在に就いても異說多樣にして遂に解決を見ないでゐる。此の中心の大舞臺が明かでない以上建

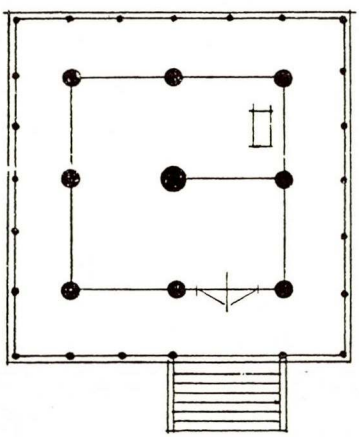
國の偉業萬國に冠絶する淵源を明かにする事は至難である。自分は勿論黄口の兒である、諸先生の尊い學説に嘴を容るべき限りでないかも知れぬが建築學上より見たる觀察に基いて聊か愚見を開陳して見たい。

古代思想と神殿建築

建築が、國家を建設してゐる國民にとつては其思想の反映である事はいふまでもない。例へば現代の建築が混沌として歸一する處のないのは反面に現代の國民思想が泰西文明の影響を受けて多種多様である事を明瞭に示してゐるものである。吾國過去の文化の跡を溯つて見ても國民思想の統一せる時代の建築は明かに統一せる形式を持つてゐる。平安朝の和様建築に於ても鎌倉時代の禪宗建築に見ても、それは首肯する事が出來る、されば上古の國民思想を窺はんとすればどうしても上古の神殿建築について充分觀察することを忘れてはなるまい。

吾國上古の建築は木造なるが爲めに今日其遺物について研究すべき完全なる材料のないのは、文獻に於て完全なる材料のなのと同様であるが、幸に永久的性質を持たぬ木造建築は却つて改築に手數のかゝらぬ特長を有するが爲めに、其形式の手法、構造の按配に多少の變遷は認められても主要なる部分は今に保存されてゐるのが多い。殊に吾大和民族の思想の中心であつた神殿建築は上古に於ては熱烈なる信仰の對照であり眞摯なる敬神の殿堂であつた爲めに最も純潔な思想の形式美を今の代に殘して居るのは誠に幸である。

何となれば如何に奈良朝の佛教が新興の時代思潮を國民の頭腦に注入しても、簡明にして純潔な古神道の信仰を根底から破壞する事は何うしても出來なかつた。本地垂跡の便法を用ひて神佛混淆の結果は擧つたにしろ、いざとなると國民の思想の歸趣は神殿の神詮に據るの外はなかつた。禪宗の一世を風靡した鎌倉時代にも最後は神風の威に打れたのであつたではないか。

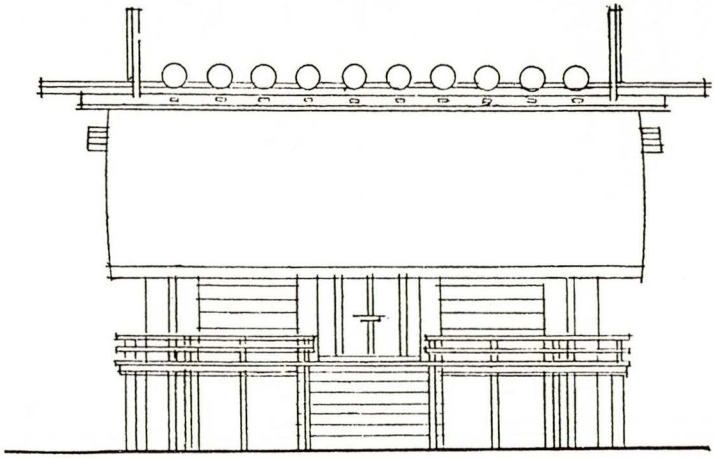


大社造平面

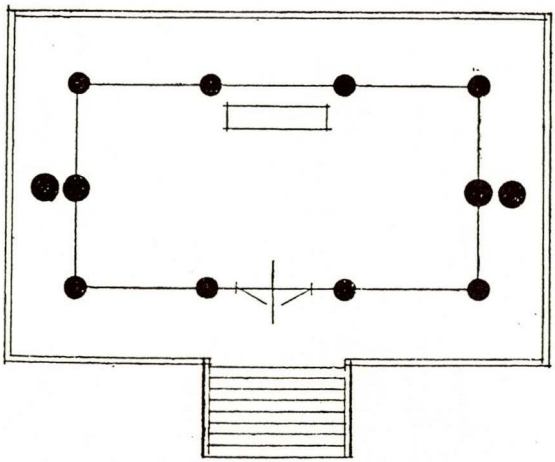
殊に出雲の國は昔から神ながらの國であつたために、神殿建築の最も古式であるとせらるゝ大社造の結構がそのまゝの『間取り』を今日に殘して居る、又和泉の國の大鳥神社攝津の國の住吉神社は大社造から變遷されて來た形式と見られてゐる。神風の伊勢の大宮は亂雜なりし戰國時代の末世にも昔ながらの儘を殘して織田信長の時に完全に復古の形式を保存せらるゝ事となり今に上代の神威を國民の思想になげられて居る。建築學上では之を神明造といふ。

茲に自分は神殿建築の詳細な說明を省きたい唯本文に必要な主要の形式について述べる事にする。若し建築の具体的形式美が國民思想の僞らざる告白を後世に語るものゝせば希臘建築の形式が現世的國民信仰の具体化ゝせらるゝ如く峨峙時代の建築が熱烈な中古の宗教の天帝に喝仰する崇高な信念を語るものゝすれば、明かに吾國上代の神殿建築は國民思想の天地の間に一貫せる信仰を示すものであらねばならぬ。

上代神殿建築に重要な形式美の第一は其簡明な原始的構造にある、『宮柱太しく建てたる神殿は所謂堀立柱から成り立つてゐる後世の神社建築は佛寺建築の影響を受け必ず礎石の上に柱を建てゝゐるが上古の神社の宮柱は動きなき基を建つる爲めに地中に深く根を埋むる方法を執つなゐるこれや現世に離るゝ事を欲しない神代思想の根諦である

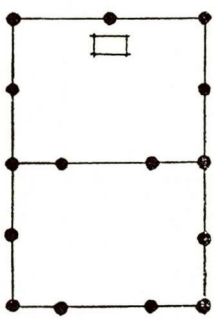


神明造正面



神明造平面

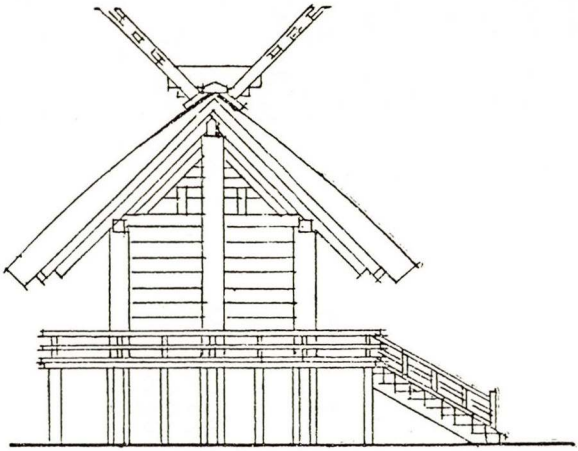
第二には其雄大崇高な信仰を具体化したる千木及勝男木の手法に在る、『高天原に千木高知りて』空間を明確に區劃した意義は、深淵幽玄であつて、末世の凡眼を以て窺ふ事を許さぬ大思想を包含してゐる、千木は後世別に棟の上に取付けられて居るが原始の形式は破風を造れる材の上方に突出し



住吉造平面

たるものであつて一點に會する二つの強い直線の交叉したる形であつた。これは天地の間に安心立命の魂を宿す神殿建築の最も重要な形式であつて、同時に上古の雄大な思想の現はれである。

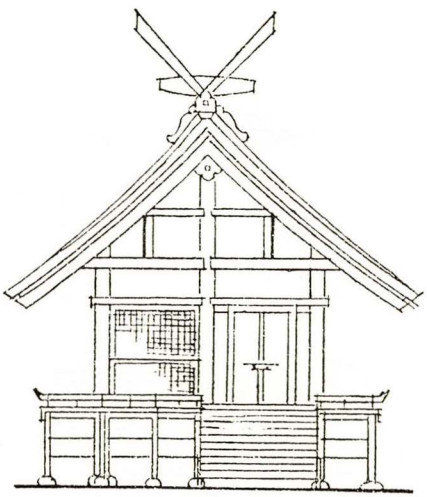
筧克彦先生の『續古神道大義』には、此の重要な形式について綿密な說明を與へられてゐる。千木の尖端は高く上天の大を抱容し盡さねば止まぬ精神の發現であり、其の勝男木は廣く地上の世界を一括統治せんとする大抱負を具象するものである。此の明確な意義を有する千木は棟木の下で一點に交叉してゐるし、勝男木は更に其上に橫はつて何處迄も公平な水平面を劃す、卽ち之れ此二大精神の渾然として統一されてゐる重大な意義を最も明快に現はしてゐるものではなかろうか。先生は此形式美は世界の何れの建築の形式美も比肩する事の出來ぬものであると極言せられてゐる。



神明造側面

上古神代の思想信仰は斯くして何處までも天地の統一を貫徹するに在つた。祭祀は同時に政治であつた祭政一致の上代思想は是を文書の上にのみ吾々は傳へ聞くのみでない動かすべからざる神殿建築の形式に最も雄大崇高に現はれてゐるのであつた

天祖が畏くも天孫に傳へ給ひたる三種の神器の深淵なる意義を說く學者が多いが同時に此建築上に現はれたる意義について多く語る人のないのは如何なる譯であろうか。神代の遺寶は万世不磨の大詔と共に、歷代の天皇は同床に在らせられて祭政の統一、天地の總覽を計られ給ふたのである。崇神天皇の御代初めて神威を惶れ給ふて、遂に神殿と宮殿とを別にせさせ給ふに至るまで神殿は國民信仰の中心であつた。然り國民思想は明快に神殿建築に現はれてゐたのであつた。



大社造正面

（未完）



都市と建築

■大阪市役所内に於ける都市改良調査會
■倫敦市内の交通問題
■京都市の接續町村併合問題
■勞働者住宅公營の機運
■雜　感

大阪市役所内に於ける都市改良計畫調査會

■都市計畫の聲きは、遠く海外より我國の識者を動し、我大都市は、今や當に三十年前の英國市民覺醒期に達せしにはあらずやと想はれる。然るに、識者階級の者にして、唯其急要なるを口にする者あれごも、進んで其事項を研究調査し、何等かの意見を發表せんこする勇氣ある者の鮮きには驚かざるを得ない斯る都市永遠の大問題に對し、犧牲的努力を吝んで相當の成果を擧げんこするは、猶、木に據りて魚を求むるが如きものであつて、決して現代の都市改良計畫なる難問題を解決し得る所以ではない。

■由來、我國識者階級の弊害は、勞せずして功を擧げんこするに在り。極めて利巧な態度なれごも、奈何せん、凡ゆる科學的研究の結果こ推理を基礎こして、確乎たる永遠計畫を樹てるには、蓋し一通りの努力で以て出來上るものではない。我大阪市の理事者は、此處に見る處あり、本年に入りてより、急に斯

の研究を專らとする調査會を設けて委員を任命し、三月より毎月二回會合を催ふして各委員の意見を交換し、漸次調査の歩を進めつゝあり。事調査を主眼とし、實施の問題には立入らざるが故に、市役所内に設置さるゝに拘はらず、自由なる態度を以て大膽なる永遠的施設を發表し得るこゝ信ぜらる。委員の顔觸れは左の如く、我會員よりは片岡氏囑託として加入し、大に建築士側の意見を披吹し得るの便を有す。

委員長　關助役

委　員　有田助役、直木港灣部長、杉山電鐵部長、澤井水道課長、岩田土木課長、天野衞生課長、野田衞生試驗所長

囑託委員　大藤高彦、片岡安、伊藤眞雄、

調査事項として左の項目を擧げ、各委員分擔及び報告を爲すことに決定し居れども、各項目共に可なり廣汎なる問題にして前記の委員のみの力にては到底十分なる結果を得ること困難ならん。市の凡ゆる智識階級の者の後援を俟つにあらざれば、精確なる統計も得られざるべく、又、正當なる改良計畫も六ヶ敷ことならん。殊に、建築技術家や園藝專門家の熱心なる研究討議は、最も必要なる後援にして、歐米各國都市に於ける都市計畫の輿論の中心が、恒に建築家の團体なるに見ても、此回の調査會は、今後我建築家一般の努力を俟つべきことを知らねばならぬ。

調査事項

(甲)街路系統及街衢に關する事項

(イ)物貨集散、公衆發展、群集運滯等に關する影響
(ロ)街路系統の變更、開鑿、擴築、閉塞
(ハ)土地區分の取締＝市内並に市外三哩に亘りて
(ニ)街路配置に關し接續市町村との協同
(ホ)街路の等級別＝重貨物道、遊歩道、住宅街等
(ヘ)各種樣式の街路、舗道及人道等の綿密なる計畫
(ト)街　燈
(チ)街路掃除
(リ)公益團體の街路使用
(ヌ)街路掘鑿及修繕に關する法規
(ル)街路裝飾＝殖樹、電柱、電線等の除去

(乙)公衆利益及衞生

(イ)給水＝家事用、防火用
(ロ)瓦斯及電力供給＝家事用、動力用
(ハ)電話＝電柱及暗渠の共用
(ニ)下水＝雨水と汚水
(ホ)塵芥の處分
(ヘ)家屋衞生及排水條例

(丙)運　動

(イ)市街電車
(ロ)郊外線
(ハ)貨物運搬＝水運、陸運
(ニ)工業地帶

(丁)商業狀態と地區、倉庫と實業、港灣廻漕業
(イ)現時狀態と習慣
(ロ)方法、必要、擴張の費用と其收益

（ハ）地價の階級、課稅と評價
（戊）食料供給
（イ）市場と給配
（己）家屋問題
（イ）現在狀態
（ロ）建築と衞生規定
（ハ）建築制限
（ニ）地帶制
（ホ）防火區
（ヘ）建物の高さ其他制限
（庚）保養と娛樂
（イ）學校と其開放
（ロ）公衆運動場と學校運動場の共用
（ハ）公園、廣道及車馬道
（ニ）河岸遊園
（ホ）公衆浴場
（ヘ）娛樂機關＝與行
（申）公共建物の配置
（イ）主要集團、市中心
（ロ）二等集團＝學校、圖書館分館、社交中心等
（ハ）彫像、噴水及其他の裝飾物
（ニ）半公共建物及樹蔭路、逍遙場

倫敦市內の交通問題

（一九一三年）

左の論文は、昨年の桑港大博覽會の萬國工學大會に際し、サー、アルバート、スタンレイ氏がなしたる講演の一部を、譯述したるものにして、我國の都市交通問題に稗益する事、決して少からざるものと信ず。

■一九一三年度の倫敦市內交通機關乘客人員は、合計二十三億七千二百五十三萬九千二十七人にして、之を、鐵道、軌道及乘合自働車に三分するときは、左の如くなる。

鐵道に便る者　八二七、二一〇、五〇九……約三割五分
電氣軌道に便る者　八一一、三九七、三一七……三割四分
乘合馬車及自働車に便る者　七三三、九三一、二〇一……三割一分

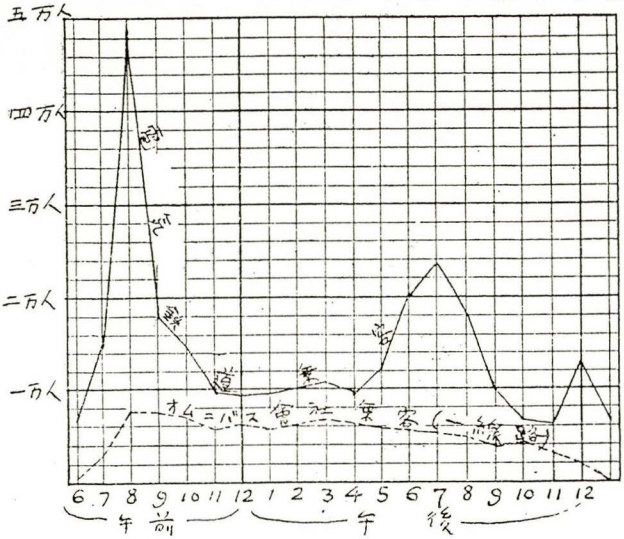
但し此內には三十哩以上の遠方より發着する鐵道乘客を含まず之を、倫敦の人口八百四十七萬一千百四十六人に割り當れば、人口一人に付き一箇年二百八十回の乘車となる。之れは一九〇六年に電力を鐵道に使用したるのと、モートル、バス事業の勃興とにより急に交通を增し一箇年一人に付百六十四回の乘車なりしものが、一九一三年に至る八箇年間に七割を加へて、既記の如き驚くべき多量の數字を示すに至りしなり。

■更に其の乘客の膨脹に就きて之を稽ふれば、大都市の交通量激增は、獨り倫敦のみにあらずして、紐育の如きは人口一人に就き一箇年三百三十八回の乘車を爲し、其他の北米都市にては三百回級のもの四五を數ふ。歐洲にても伯林は最近に二百九十三回の記錄を發表せるを見る。故に倫敦が二百八十回を以て驚くべき數字となせるも、數年ならずして三百回と成り、倫敦市の乘客全數一箇年二十五億を超ゆるに至るべきは明かである。

⊙乘客の不平均なる狀態が、交通機關に甚しき苦痛を與ふるこ

ミは少しく注意深き人の常に睹る處なり。倫敦にては五月末より六月を中心ミして七月の初めまでを好時候ミし、八月は最も惡しく、九月には稍回復し、十月には、軌道は繁昌せざるも、鐵道は繁忙ミ成り十一月には、天氣都合にて不平均甚しく、十二月には大に緊張して年を終る、一月には、クリスマスより正月の祝等の爲に一般に景況良く、二月には、最も惡しき月にして、三四五の三箇月は、鐵道には惡しきも、軌道乘合車には漸次成績を擧ぐる月なり。

■週日の日取りに就て觀むに、日曜には、交通最も寥しく、鐵道は二分の一、モートルバスは五分の四位の見當なり。土曜には交通最も多く、金曜には、迷信に由り、交通を多少阻害さるの傾向あり。其他、祝賀大會祭日等の特殊の日に於ける交通の大なるこミ別に記するの要無し。



倫敦市一日の交通量圖表

■一日中に於ける交通客の不平均は、亦甚しきものあり。殊に鐵道に至りては、其不平均到底軌道及バスミ比較し得るものにあらず。唯、軌道は鐵道ミ大体相一致せるの傾向あれごも、バスに至りては全然其增減の線を異にせるを看る。

■圖に示す如く、午前八時を中心ミせる時刻の乘客は殊に著大にして、之を、出勤時刻の流れミ見做すべく、歸宅の流れは、午後七時を中心ミして大に其頂點を緩和さるゝを見るべし。又午後十二時の山の高きは、正に娛樂場よりの歸宅を示すものなり。而して、モートル、バスの乘客數曲線は、鐵道乘客の如き著しき曲折なきを看る。

京都市の接續町村併合問題

■近來我國の大都市は、現代經濟の發展に連れて、旺に外部へ膨脹しつゝあるは著しき現象にして、其名は郡部なれごも、實際は大都市に接續して市の外廓を形成する町村の非常に多く、其衞生、警察等の施設は市ミ分離すべからざるの狀態である。然るに、行政上の手續ミして、市は市の區域内のみの施設に沒頭し、其事實上の市外廓地帶を處理する譯にゆかない。斯る不合理の狀態は、何時までも其儘に差し置くべきものでないのは最早議論の餘地無き確定義なれごも、奈何せん、我國の都市行

政は、主として現在の整理に逐はれつゝあり。其發展改善の急務なるものに向つても、容易に手を觸るゝの勇氣無き有樣である。

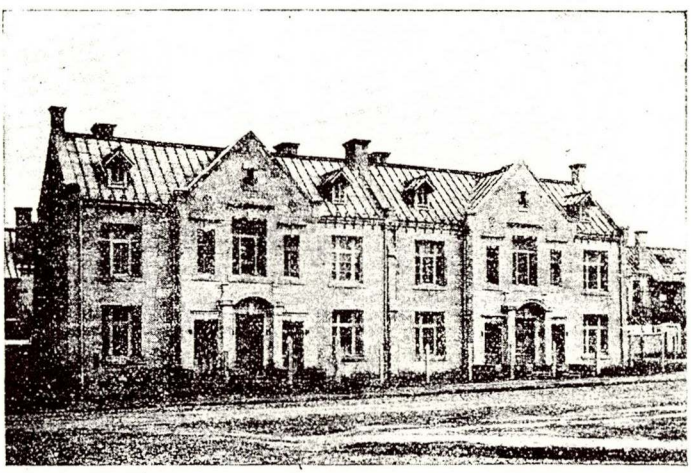
■素より、接續町村の課稅負擔增加の虞れあるとか、郡部の經濟に危殆を生ずるとかの故障の爲に、成る可く之を避けつゝある當局者の心事は、必ずしも理由なきことにあらざれども、若し一步進んで、都市の將來を稽へ、衞生上の危險增加、風紀の弛廢等を思はゞ、唯最初の僅少なる故障のみを楯として其日暮し主義を採るべきものではない。

■京都府知事木內氏は、此回、京都市の爲に其將來を慮り、現在の不秩序を救はんとの考より、接續町村併合の議案を樹てゝ之を關係市町村に諮問し、今や其關係者一同は、之が利害を研究中である。

■其詳細の問題に至ては、十分の調査を經ざれば、急速に之を實行すべきものなるや否やは、茲に之を斷言し得ざれども、其發案の動機と之を斷行せんとする勇氣に至つては、蓋し、近來稀に觀る善良の企畫と云はざるを得ない。次號には木內知事の發案の詳細事項を紹介する筈であるが、差當り吾人は其成功を期待し、全國の大都市關係者の覺醒を促したい。

勞働者住宅公營の機運

■都市改善と社會增福との兩方面の時代要求は、今や歐米の都市をして、一齊に勞働者住宅の公營を承認せしむるこゝとなり、各國共に、其設備には多大の經費を投じ、其向上を期して居るのである。殊に英吉利は千八百七十五年の國民保健法の設定以來主として、都市村邑の部落改善を企て國民衞生の向上を企畫し、傍ら勞働者の生活狀態の改善に最も力を致したことは現代の民衆傾向の急先鋒として大に賞讃すべき施設たるを失はない。之を衞生上の統計に觀るも、英吉利の如き、國民の八割以上が都會に密集せる國柄に於て、其死亡率が近年著しく遞減し、千人に付十四以下にまで降りし

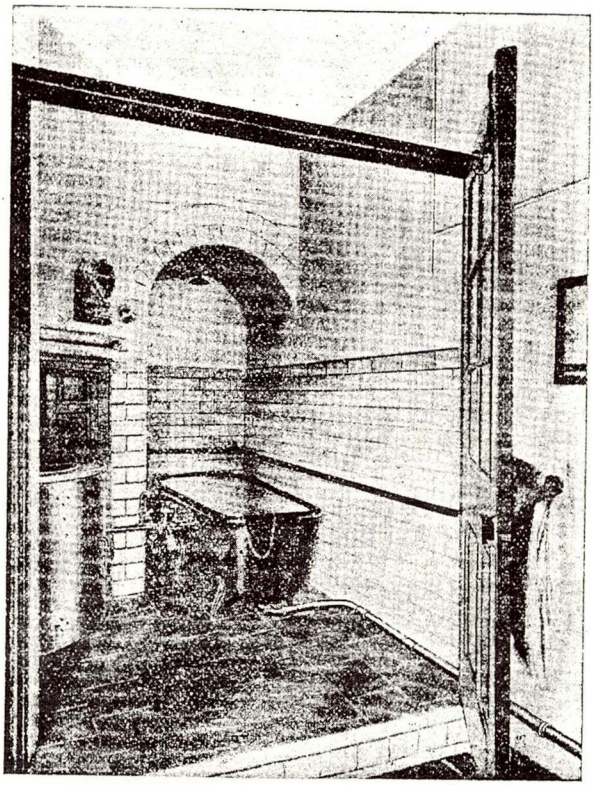


滿鐵經營沙河口工場附屬社員住宅（八軒續）

は、國民一般に衞生思想の發達した結果とは云ひながら、其直接の原因は、勞働者住宅の公營が着々實施された爲である。（我國の大都市の死亡率は何れも十七以上である）

■勞働者の住宅問題は、工業の發展と共に、又都會集中の傾向盛なると共に、其解決は、社會的に國家的に重大な意義を有つのである。英吉利は、千八百七十五年の『國民保健法』の發布以來數次之を改竄訂正して、遂に千八百九十年の『勞働者住宅法』なる一大法典と成つたのである。彼の有名なるジョン、バーンス氏の議會に於ける斯法案說明の演說は社會政策論者に珍重されて居るのみならず、一般社會にも强き印象を與へたのは事實である。尋いで、千九百〇九年の都市計畫法は、更に、斯の住宅法を都市計畫の根本と並行せしめるまでに漕ぎ付けた。

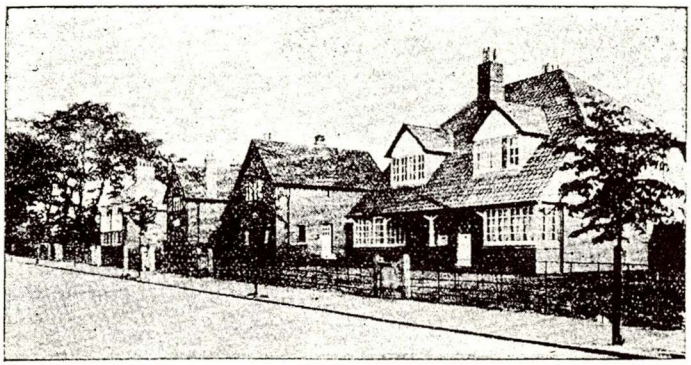
■今や、都市計畫の聲は、歐米を通じての凡ゆる社會に行き渡りたる緊張の一大コーラスであるけれども、之を實際的に社會增福の目的と並行して着々成功しつゝあるものは、蓋し英吉利を以て其白眉とせねばならぬ。唯、都市計畫の大系統樹立、交通系統の整理等に就ては、却つて、獨逸、亞米利加の新進都市に及ばざるものあり、今後大に努力を要することは、英人自身大に覺醒しつゝあるのは事實である。



例一所臺宅住者働勞營市敦倫

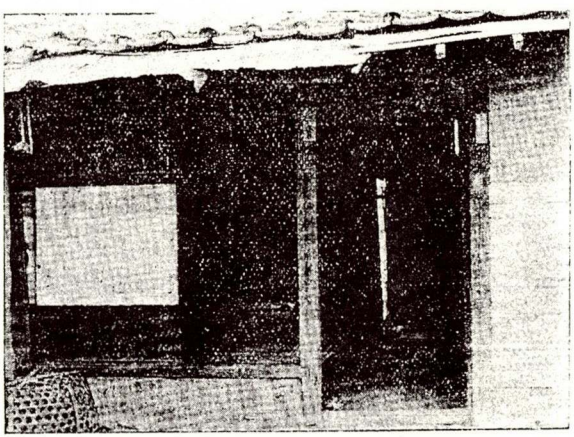
⊙住宅公營は、必ずしも、慈善團體や大工業會社の住宅經營を否認するものではない、寧ろ、後者の足らざる部分に公營を實施するのである。獨逸のクルップ工場附屬の住宅經營英吉利のリーバー石鹼會社の經營になるポート、サンライト町や、カドバレー氏經營のボールン、ビル町の如きは、公營以前よりの實施であつて、其成功は既に世人の認むる通り、勞働者羨望の的であるのみならず社會政策論者の感歎措かざる處である。

■顧て、我國の勞働者生活の狀態に少しく注意せん歟、二三十年前歐米各國が其改善の急務なるを覺醒せるときこ、果して幾何の差あるや、或は其等よりも更に著しく悲慘にして非衞生的なることなきや、若し然りとせば、社會は其儘に之を抛棄して措くべきものではない。東京にて有名なる萬年町や鮫ヶ橋は奈何。大阪にては椎寺町や關屋町の貧民部落、京都にては柳原の細民部落は共に、其改善を急ぐべきものゝ中に屬する。



ボルンビル職工町住宅

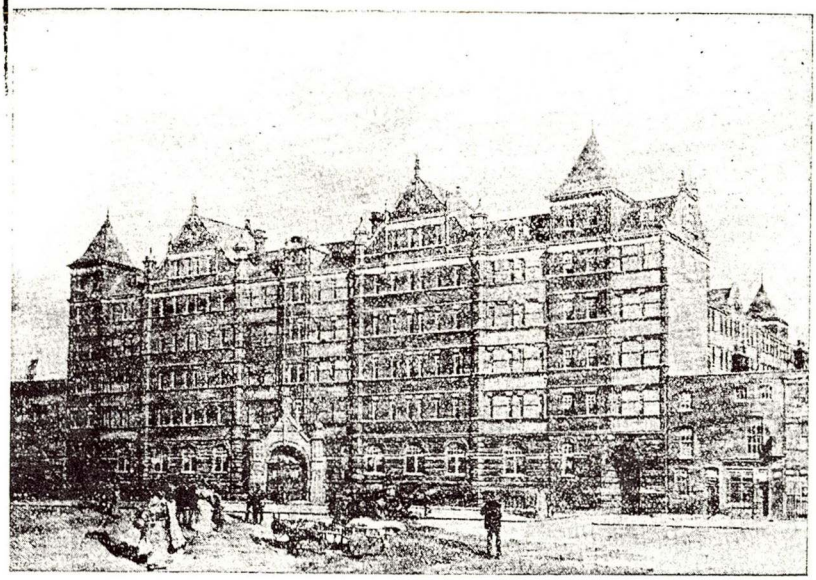
■本年春、德川公爵は、濟生會の要務にて下阪されし際に、大阪の貧民部落を親しく檢分されしと聞き、余輩は、窃に、往年英京倫敦の貧民窟を視察し其慘狀を察して急に貧民ホテルの建設を企てしロートン鄕の逸事を連想し、早晩德川公爵の如き貴族にして德望高き資產家に、斯る計畫あるを期待しで已まぬのである。ロートン館は、今や、倫敦グラスゴー等に其宏壯なる建物を有して、貧民の實費投宿を歡迎し以て、公營住宅の足らざるを補ひつゝあるこいふことである。



大阪市貧民住宅實例

■我國にては勞働者住宅に關する研究は、是まで社會こして少しも之に觸れて居ない。唯各地の紡績會社、製鐵所、滿鐵の工場等が稍大規模の計畫を有するのみである。而して、都市内にては、未だ全く之を看ないのであるが其急要の度は、都市の密集地部落に於て最も切迫して居ることを知らねばならぬ。本會に於ては、我國に適當なる勞働者住宅

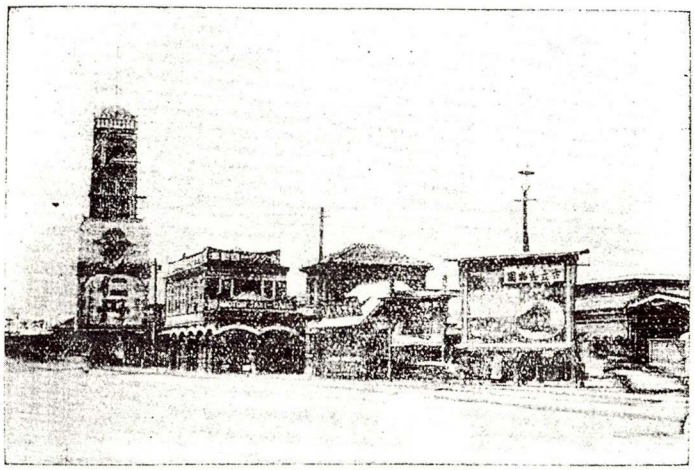
供給の問題に關して種々研究を始めたから、漸次其結果を發表し得るこゝゝ信ずる。



貧民ホテル・ロートン館

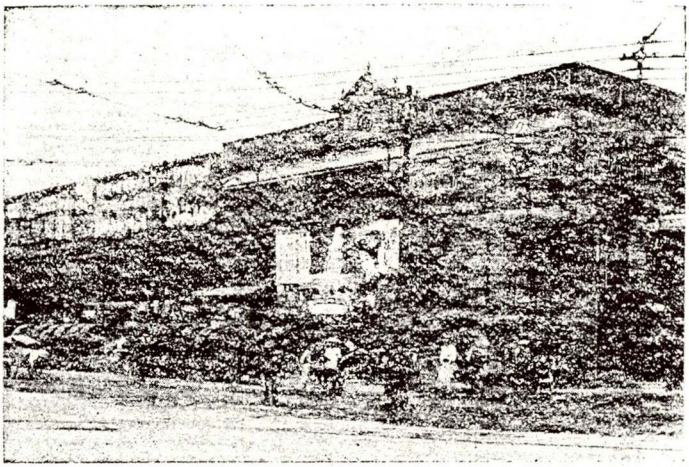
雜感

■我國都市目貫の場所に於ける亂雜醜惡なる廣告と廣告的建物の墮落は官憲の取締なきに乘じて、今や增々甚しからんとするは、奈何にも苦々しきこゝである。東京に於ける淺草大阪に於ける千日前の如きは、先づ之を大目に見るこしても、大阪停車場前廣場に面する各種の廣告板はごうであらう、賣藥



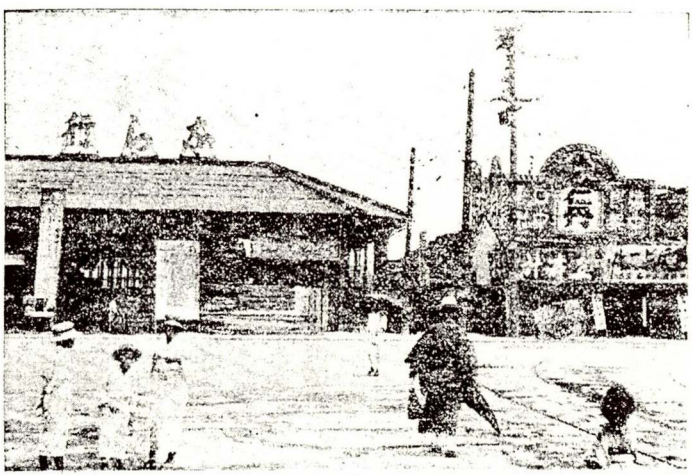
大阪停車場前の亂雜なる廣告（向つて左）

化粧品を始め、電車の廣告に至るまで一こして自己本位ならざるはなく都市大廣場を何等念頭に置かざる爲其不調和こ其亂雜こは、心して見る者を顰蹙せしめるここ夥しい。現代の文明都市は、實質の向上こ之に伴ふ美觀を要求するここ、猶軍隊の正服や各種の會合に於ける秩序こ少しも變らぬのである社會の先覺者は、爲政家こ共に斯の問題に觸れねばならぬ。時は既に業に到着したのである。建築技術家、圖藝家、美術家は



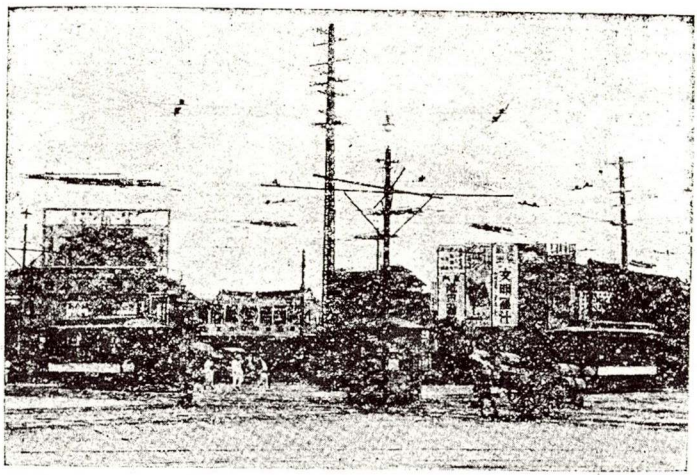
築面電鐵終點驛前

率先して其前驅こ成り、輿論の喚起に努むるの覺悟を要する。官憲の公廳、自治體の建造物は、主こして、都市の美觀や其堅實なる發展の中心こ成りて、一般民衆の指導こならねばならぬ。縱令それが一私立會社の建造物にしても社會的に重要なる地位を占むるものは、矢張り其覺悟を以て之を建設すべきは、都市文明こして當然の事である。殊に、夫れ等の建物は都市の中樞に於ける最も優勝の地位を占領するに於ては、



上本町六丁目大阪軌道終點驛前

更に一層其責任の重大なるを感ぜざるを得ない。然るに、我國の大都市に於て、官廳の公館なるものが、果して斯く徹底したる方針を持するや否やは、之を尋ぬるまでもない程に亂雜至極のものである。辯ずる者は財政難、過渡時代の常態なごゝ之を掩護すれごも、事實は、行政官吏の文明都市を解せざる爲に斯る結果に立至りつゝあるこゝ、最早一點之を疑ふ餘地が無いのである。



日本橋一丁目大阪電鐵交叉點

我々は、最近紐育市に於ける一棟にして數千萬圓を費した停車場や事務室建築の模倣を、貧弱なる我國の經濟界に强ゆるものではない。併し乍ら、堅實なる又調和よろしき公館を經營せんこする大方針は何處までも文明都市の採るべき途であるこゝを固く信ずるものである。見よ、東京に於ける一逓信省所屬の建物にても、其不統一、亂雜なるには驚くべきものあり。殊に燃燒質建物を臆面もなく都市中樞區に建設して、民間の覺醒を引き戻さんこするが如きは、寔に不謹愼な態度である。東京市役所の大木造建築を初め、大藏省、內務省の中央官省より、下つては、警察署、學校々舍等に至るまで苟且主義の權化たるもの、累々たるを看ては、其行政上の不統一不徹底を掩ふ能はざるにあらざるか。

大阪市に於ては、更に一層甚しきものを發見する。大阪府廳舍及其管轄の各學校、市經營の各建造物等にして、文明都市こ相添ふ如きものは、皆無であるのみならず、今後こ雖も、增々其傾向を甚しくするかの疑なきにあらず。苟も公共の義務を知る者は、斯る誤れる都市行政の方針を一刻も早く匡正せんここに努力すべきである。

『又油を賣りに來あがつた、怠け者』
『私の方はタイルが無うなつてもう仕事が出來ぬしまへんねん』
『ちや小舍にすつこんでろ、何もブラ〳〵して見せびらかさなくともいゝやないか』
『タイル渚の身な捨小舟だんがな』



議院建築調査會に就て

淮敬生

我國現時の國會議事堂建築物は、ほんの間に合せものを其儘幾十年か我慢をしながら使用しつゝあるので、一刻も早く本建築に着手して、一面には、立憲國の體面を保ち、他面には、我國の過渡文明革新の標本たらねばならぬことは、十數年來の問題である。而して、其事柄の緊急なると同時に重大なるに由り從來屢々調査會を置かれたことは事實なれども、財源缺乏とか建築技術家の不一致とかゞ累を成して、何時でも小田原評議に終つたから、今更取立てゝ過去の調査會の品評をするの要はない。唯、這回突如として右調査會の發表されしことに就き、聊か意見を述べて措きたい。

此回議院建築調査會を設けた意味は、別に敷衍するまでもない程十分に了解されてゐるから、此處には唯右調査會の内容及委員に對する希望を主として記述する。先づ最初に委員の顔觸れを觀るに。

委員長　大藏次官、委員　貴衆兩院書記官長二人、大藏省主計局長一人、大藏省書記官一人、内閣書記官一人、内務省地方局長一人、
技術家側委員　大藏技師二人(矢橋、丹羽)帝國大學教授一人(塚本博士)司法技師一人(山下)
民間技師二人(辰野博士、横河博士)

右委員を分ちて、素人と專門家とに分割するときに先づ第一に起るべき疑義は、議院建築の何たるものかを解さざる事務官而も國務上責任を持たざる事務員が奈何なる發言權を揮ふかといふ點に在る。技術家の意見を纏めて、其長を採り短を捨て、之を國務上の財政關係に稽へ、將來の國運と並行すべき案を選擇して、其實行の準備を確立する爲に素人委員の必要なるは云ふまでもなきことなれども、幷は政務官の仕事にして、單純なる事務官の仕事ではない。右委員中の貴衆兩院書記官長、大藏内務兩省の二屬長、内閣の書記官等は技術家の研究案を左右すべき謂はれがないのみならず、各室の配置に就き其便不便を討議するに必要なる參考人に過ぎない。若し、參考人を委員と同一視すれば、それまでなれども、別に幹事として事務取扱や參考人たるべき貴衆兩院の書記官各一名と大藏省事務官一名が任命されてゐるのを見ると、委員と幹事は明瞭に區別さるゝのである。して見ると、素人委員は、右調査會では實に不明瞭小な姑の如き邪魔者たること云はずして明である。

議事堂の如き大建築は、國家財政上に可なり苦痛を與ふるのであるから、大藏省が其中心と成り、大藏大臣が自己管轄のも

のごとして承認すれば、閣議を通過するに最も便利であるのは事實である。併し乍ら、議院建築の如き國家永遠の重大事を高等工業の增設のやうに取扱はれては、國民は甚だ迷惑するのである。

先づ、吾人の希望を露骨に云へば、素人委員としては、政府より內務、大藏、司法の各大臣位を任命し、政黨よりは各政黨の首領一人乃至二人、貴族院の代表者を二三人各選拔し、首相自ら委員長と成り、技術家を以て成立する委員會の經過に對し大体の方針を示して其案を作らしめ、素人委員に於て其採否を決するを至當とする。現任の委員は、主として事務員として之に加はり、技術家の參考になるべき意見を十分に提出し、仍つて以て、設計內容の充實を圖るべきである。

又、技術家の選任に就きては、大藏省內の下馬評を基礎として任命さるゝが如き官僚式の遣り方は、餘り感心が出來ない。併し、其結果、代表的の技術家が網羅さるゝならば、其形式には餘り拘泥するの要はないけれども、事實は之に反した結果を現はして居るのは甚だ遺憾である。唯、今後之を懸賞に附する考より有力なる技術家を故意に逸し、之をして應募せしめん魂膽ならば、或意味に於て賢明なる遣り口であるが、夫れは餘りに隱險過ぎる。若し、又、之を懸賞に附して一般の圖案を募集せんとするも、從來の經驗に據れば、其實施は矢張り當選者にあらずして、別に有爲なる建築士の手腕に俟つべき結果に終るこゝ、蓋し、想像に難からぬのである。殊に、議院內部の事務連絡は甚だ簡明なる如くにして、却々容易に外部にて知悉することは出來ない。唯一片の案內事項を辿つて設計を爲すが如き學校教室の製圖の如きものは、採點上に於ては相當のものと見らるゝかも知れぬが、實際の施工に際しては、隔靴の感なきを得ない。斯る理由に依りて、懸賞の如きは、當分我國の現狀にては唯或る參考となるに過ぎないことを豫想せねばならぬ。臺灣總督府廳舍、大阪市役所、三菱本社、大阪市公會堂、明治神宮寶物殿等皆然らざるはない。

上述の意味を少しく吟味すれば、此回の議院建築調査會は、餘程貧弱のものにして、果して、克く現代の要求を充たし得る計畫を樹て、之を實施するまでに至り得るや否や、大に疑問とせざるを得ない。吾人は議事堂の建物が、現在貧弱なる木造假建築にして、我國現時の國運と並行せず、殊に、明日にも燒亡に因りて其存在を期することの出來ない慨然たる現狀を憶ふ毎に、一刻も早く其計畫の確立と實施の運ばるゝのを鶴首希望して已まざるものであるから、其準備にはもう少し眞面目な態度を以て進みたいと考ふる。

今や、我國の財政は議院建築を考慮出來ない程貧弱なものではない。又、我國の技術家は、何時までも吳下の阿蒙ではない相當の見識と經驗を兼ねたものも可なり出來たやうである。建築技術家が國家に貢獻するの時機は、今や吾人を追跡し來つたのであるから、貧弱なる調査會に向つては、此際、更に各自の高邁なる意見を發表して、之を鞭韃するの必要がある。從來の如く小問題や感情論を以て同窓墻に相鬩ぐが如き低級なる態度は固く相戒め、小異を棄てゝ大同に合し、以て國家の進運に貢獻するの結果を收めねばならぬ。



『コンクリート』

會員　大蘆生

題してコンクリートといふ、必ずしも學究的理論を述べんとするのではない、亦漫筆を弄して貴重の紙上を徒らに埋めんとする考もない。幸に誌上の一隅に自分の所感を開陳し得れば足る次第である。

■セメント、砂及び砂利を適當なる割合に混合し之れに水の適量を加へて目的の形体に硬化せしめたるものをコンクリートと名づけてゐる。別名を『混凝土』といふてゐる。若しセメントと砂丈を混和して水硬せしめる場合にはこれをモルタル又は『膠泥』と稱してゐる。

■コップやランプが外國から輸入されてからもはや半世紀以上も經てゐるのみならず盛んに内地で製造されてゐるからさまで目障り耳障りでもなく態々『洋杯』『洋燈』の漢字を使用する人も少なくなつた樣に後から輸入されたコンクリートも早晩吾國の人々に親密な關係が出來るだろうと思ふ。いや現にコンクリートの名は三才の兒童も心得て居る時勢であるべきだと信じて居る。

■がさて實際は中々さうは行かない直接關係のある專門家でもコップやランプに親しんでゐる程コンクリートに對しての情愛は薄い樣である。從つてモルタルに至つては世間では名も知らない人の方が多くはなからうか。名は聞いても實物を見ない人もあるべき事と思はれる。

■セメントにしても其通り日本で製造し始めたのが明治の七年だから可なり古い方ではあるけれども其割合に世間に同情されるには尚多少の年月を要する事であらうか。現に東京では深川の淺野セメント會社即ち日本で最初の會社に其創業の地から立退きを命じた位である。

■尤も外國だつて大した變りはなかろうと思はれる。其昔石や煉瓦を積み上げるに使用したモルタルは主に石灰と砂とであつたのにポートランド・セメントを英人ジヨセフ・アスピヂンが發明したのが今から九十年餘り前であるからさまで古いとはいはれない。コンクリートが今の世に新しい活動を開始したはそれからであつた。

■コンクリートが新しい時代に生れ變つて來てから新しい舞臺に名乘を上げた以上はどうしても新しい時代の人間に愛顧を受ける順序である。新し好きの佛蘭西人、拔け目のない獨逸人や、突飛を喜ぶ米國人がやんやとコンクリートの肩を持つてくれた。其中で最も思い切つて親切を盡してくれたのは佛人だし、細密な取扱を與へたのが獨人で、無暗に歡迎をしてくれたのは亞米利加人である。コンクリートが鐵と結合をして一大飛躍をしたのは正に近代人の愛顧を受けてからである。

■セメントは青白い一種の妙な色を持つてゐる從つてコンクリートの色合は日本人には何となく物足りぬ感じを與へる樣である。淡青い色はいやな凄味のあるものである。幽靈の色である、狐火の光である、乍然其茫漠たる調子は大象の姿を思はせる天を摩す公孫樹の幹の膚に似てゐる。

從つて茫大を喜ぶ米人が同情を寄ぜるのは自然である。茲にも日米感情の差を明確に觀察し得るものと自分は思ふ。

■餘計な話ではあるけれども古い古い大昔、今戰亂の歐羅巴各國が汨巴と鏑を削つて戰つてゐる大舞臺が、古羅馬大帝國の領土であつた時分の（今から丁度二千年前）羅馬人は天下に敵なき覇氣を以て盛んにコンクートの家を建て町を劃し水道を通じたものである、遺跡は今尙嚴存して驚歎の對照物となつてある、其頃のセメントは天然産の石灰の一種で今日のものと比較にはならないが茫大なコンクリートと大國民との關係に見逃し難き面白味があるのである。

■今大正の聖代に生れ合つたる一等國民は新しい時代の産物に進んで親しみを持つて欲しいものである、顧みると明治聖代の前半期は泰西文明の滔々として亂入して來た時代であつたに係らず多くの輸入名詞は難解な漢字を盛んに代用してゐる倫敦や巴里や紐育や桑港や皆然りである多くは漢音を利用したに過ぎないが中には意譯に苦心したのもある劍橋は折衷で牛津にはさすがの中村工學博士も持てあまして居られる樣である

■コンクリートも御多分に漏れず『混凝土』といふ漢字名を頂戴してゐる物質名詞丈に内容迄も說明しやうとした苦心の甲斐あつて、大に成功してゐるが漢字で說明する事が既に無理である、コンクリートはコンクリートで差支はない樣である殊に此頃の若い人間には苦しんで漢字を用ふる必要がなくなつた、御國で發明された文字を利用する事に不足はない筈である從つてもうむつかしい新文字も出來さうにない中村博士も安心されてよかろうと思ふ。

■コンクリートを片假名で書く事に贊成な自分は更に今一つの理由を述べて見たい。コンクリートの原語（Concrete）には一言にして盡せない深い面白い意義が蓄へられて居ると思ふからである自分は語源の詮鑿を茲には述べずしてコンクリートなる物質から執へらるゝ教訓を味つて見たいのである。

■コンクリートの主成分は勿論セメントに在る從つてコンクリートの强力を支配するものはセメントであらればならぬ。コンクリートが今日世界に其名を廣めたのはセメントの御陰である石灰がコンクリートを指導して居た間は實際無慘な有樣で地面から上には顏が出せなかつた樣の下の力持といふ譬があるか正にコンクリートは樣の下や建物の基礎で無名の努力を實行して居たのである。

■日本でも明治二十四年の濃尾地方の大地震や同二十七年の關東地方の强震が起るまでは石灰と一所に煉瓦の間や地面の中で働いては居たものゝ大に信用を失墜してからはモルタルやコンクリートはセメントを親分とする樣になつて見る見る顏が賑れて來た。最近には鐵筋と結婚をする樣になつて鐵筋コンクリートは正に大手を振つて土木建築界の大立物となつてゐる。

■日本人とコンクリートがありまり氣の合はない爲でもあるまいが鐵筋コンクリートも日本では一般にはまだ〳〵信用がないのみならず時々其信用を裏切る樣な事件が勃發するので少なくも大阪では變な眼で睨まれてゐるのは氣の毒である、何となれば鐵筋コンクリート其物に惡い所はないからであるコンクリート其物の偉大な力は世界の具眼者の等しく認めて居る處であるからである。

■コンクリートは第一次に强い耐火性を持つて居る今日耐火構造にはコンクリートに比敵する物はないのである第二に何んな山奥にでも砂や砂利が在る以上はセメントの力によつて易く出來上る頗る簡便なものである第三には經濟的に安價な費用で素人にも製造の出來る特點がある第四にはどんな變手古な形でも亦どんな大きな物にでも變通自在に硬直する頗る不思議な術を供へてゐる第五には白蟻や鼠を閉口させる特質がある第六には第七にはと數へ立てると寶藥の效能書より中々多いが要するに

人間の發明工夫した材料の中で最も偉大な力を持つて居る事は爭はれないこと、思ふ。

■乍然さいひたい此の偉大なコンクリートも製造の術をうまくやらないと其通力を失ふ事になる頗る取扱のむつかしい代物である事を注意したい、第一にセメントである、今日では其製法が熟達の域に達して當初の製品とは比べ物にはなるまいが此頃の樣に高價で羽が生へて飛ぶ樣な時代には粗製濫造が行はれぬとも限らない、そこで各國共一定の試驗方法に依つて使ふ前に檢査をする事になつてゐるが其成績は大小異同の結果を呈するのでゆるかぜに出來ぬ面倒な手數を掛けねばならない。

■それのみならずセメントと水と仲が好い、水さへあれば硬直する性質を持つてゐるので貯藏するにも濕氣のない物置に蓄へなければならぬ厄介物である、『時雨』を厭ふ何とかとあるが正にセメントは箱入娘の樣な取扱をしなければならない、若し夫れ水氣を充分に吸い込んだ奴に至つては箸にも棒にもかゝらない、硬くなつて世の中を狹く暮らす無慘な最後を遂げてしまふ。

■コンクリートの主人公がセメントでありさせば砂は正に女房役である從つて砂利は子分と見立てなければなるまい、そうなると女房役たる砂の働きは中々骨の折れる役目である、劇や狂言でもワキ役はむつかしいものである、況んやむつかしい主人公を持つて居るコンクリートは單純の樣でも砂の選擇に相當の注意を拂ふ必要がある、モルタルの場合は夫婦の關係丈である丈に主人公と折合さへつけば圓滿な結果が擧がる譯であるけれども砂利さいふ子分を一方に持つてゐるコンクリートの砂は女房役として細心な注意を必要とする子分の味方になつても困るし、主人公は主人公として何處迄も立てゝ置かねばならない、此の點から見て砂利の性質に近い砂は排斥しなければ良い結果が擧らない、由來女房役は主人公と協力して子分を守り立てる義務がある、換言すればセメントの硬直性を緩和する目的に用ひられるのであるから砂利に近い荒め勝な砂は用ふる前に除く必要を認めるのである。

■子分役たる砂利に至つては大に選擇の必要がある、勿論子分が如何なる連中でも主人公の威力さへ強ければ結局團結の功果は立派なものであるが近代の思想が平民的に傾きつゝある如く專制の國家が漸次に倒れて民主的政治が行はれ行く如く近代の經濟的生産界が平等を主張するが樣にコンクリートの相互關係は漸次に經濟上の壓迫を受けて濃厚な配合を保つて行く事がむつかしくなつて來て此等三者の割合は實際に於て苦心を要する事となつた。

■こうなると主人公の權力を何處迄も大にする事が事實に於て不可能となつてセメントの量を減じて尙且つ良効の結果を得んとするから砂利の選擇に大なる注意を拂ふ必要が起る、例へば露國の專制が滅亡して之れに代つた中心勢力が尙統一の偉力がない爲めに國民の分裂は延いて國家の安定にも關係しやうとしてゐる樣なものである、此際此時亂雜な子分と主人公との關係を圓滿ならしむる爲めに如何に女房役が苦心しつゝあるか、又同時に子分の各分子を如何に選擇識別するの要があるかゞ解るであらう。

■然らば平民的社會的民衆的性質を有する砂利の資格は何うなければならないかいふ迄もない溫健な中堅となるべき中等社會の存在を必要とする如く約六割の中堅分子の大切な事を忘れてはならない、亡國的分子の少なきを望み貴族的分子の大ならざるを望むが如く砂粒の大小は大に過ぎず小に過ぎざるを選ぶの必要を認めない譯にはゆかぬ、さればさいふて國家に貧民と金持のある如く砂利にも小大兩者の小量が混入する事は分子の融合社會の平和を保つ上には寧ろ必要の事柄である。

■かくて一立方尺の砂利が一立方尺のコンクリートを造り同時に强固な

る團結を形成する爲めには國家は其國民に潑溂たる元氣の有用なる如く砂利の各粒が稜角の多い程有力なコンクリートが出來上る、稜角の多い砂利は互に切磋琢磨といふべきか之れを升に量る場合か嵩張る傾がある從つて各粒の間隙が多い、しかも愈コンクリートとして出來上るときに強固な團結を得る結果となる事は經驗ある專門家は認めて居る事實である、却つて升に量つたとき各粒の間隙の少ない砂利、稜角のない砂利は圓滿過ぎて團結力の發揮を充分にする事が出來ない傾がある、

■今度の戰爭で見ても個人主義の理想的に發達した英國が圓滿な團結を遂げて居るに係らず武力集中の效果は案外である樣なものである、反之聯邦國家の獨逸が稜角の多い國民から出來上つてゐても其團結の威力を歐洲の天地に振ふてゐる樣なものである、支那に至つては民衆の內容が雜多であるのみならずセメントの威力も女房役の役者にも缺乏してゐるのであるから話にならない。

■斯く觀察して見るとコンクリートも案外な眞理を含蓄してゐると思ふ佛語に三位一体といふ言葉があるさうだが正にコンクリートは三位一体の內容を俱有してゐると思ふ、人格の完成には智情意の合致を必要とする樣にコンクリートは三者の合一に充分な注意を拂はねばならぬ、今更に自分は之れを吾建築界の現狀に比較して見たいのである。

■現今吾建築界の指導者は唯一の建築學會である、明治時代の建築界が如何なる活動をしたか、そは實に建築學會が中心人物である、いはゞ建築界のセメントであると謂ひ得ると思ふ、學理的研究の努力に於て社會的指導者の立場に於て正に理想的セメントの役目を務めて居るのであるそれと同時に最も大切なそして最も重要な位置にある事は誰しも認めてゐる事である、乍然時勢の流動に對し社會の風潮に關し最も銳敏であるが爲めに稍もすれば硬直する傾がありはせぬか。

■回顧的建築觀が進化主義を標榜して進まむとする學會は社會の風雲を叱咤して日本主義の指導者となる根本的建築觀が構造主義を宣明するとなると時勢の急潮は忽ちにして新旗色の向ふ所に風靡せられる、斯くして建築界の嚮背は一に係つて建築學會の双肩に在ると同時に責任は頗る重大であらねばならぬ。

■若し建築界のセメントに女房役目が必要であると時勢が要求するならば吾建築協會は正に砂の役目として生れて來た運命を持つて居るのであるまいか、然らばそれは最も雜役たる事を自覺するに必要がありはせぬか、同時に又主人公たるセメントは此の女房役たる砂の役目を理解して理想的モルタルの成果を擧げればなるまいと思ふ、砂は何處迄も其內容を充實して主人公の御役に立つ事を心掛けねばなるまいと思ふ、此主人公にして此の女房を厭ひ此女房役にして此の主人公に滿足せざらんか建築界の事火を觀るよりも明かな結果を齎らすであろう、加ふるに女房役たる吾建築協會は進んでは健全なる子分を養成し依つて以て强力なるコンクリートを作成しなければならない義務がある。

■思へ社會的民衆の訓練養成の至難なる事業を、少なくも六割の智識階級の趣味を涵養して選良なる砂利を訓練しなければならないと同時に主人公の硬直性を緩和して有力にして效果ある團結を打出さなければならない、果して然らば內は砂の內容を充實し外は砂利の性質セメントの特質を研究按配して大コンクリートの大團結を大成しなければならないのである。

■若し夫れ近時代時勢の風潮に掉さしながら民主的傾向の奔流や社會的平等觀の黑潮やの存在を無視して高價なる不生產的の努力を拂ふならば吾建築協會の事業は啻に建築學會の活動力を妨ぐるのみならず、延いて吾國建築界の前途をあやまつものである、願くは吾建築界のコンクリートよ、協力一致大なる偉力を大正の新時代に發揚されん事を。



空中の庭園

――建築史ローマンス――

須藤眞金

『佳耦よ、ちと晴やかな顔を見せてたもれさ何ぞ又心にそぐはぬ事でもおざるか』

バビロニア王ネブカデネザルはさも儚なげに、后アミチスの面帕をのぞき込んだ。アミチスは谷川の水のほとりにゐる鴿の様な美しい眸を長筵製の花絨氈の上に落した儘、かすかに頸項を顫はせて仄かな聲で答へるのであつた。

『妾は此國へ迎へられましてからは、もうユーフラテスの川より深い御情に浸つて居ります、室は埃及の木匠も及ばないと云ふカルデアの建築師に紅玉の様な色瓢で築かせて戴きました。身はイスラヱルの織物に白銀や黄金珠玉を縫め、ナルダ、番紅花、菖蒲、桂枝、さまざまの乳香の木や沒藥、蘆薈の貴い匂で飾り立て、戴きました。そして兎もすれば雲の様に妾の心を曇らそうとする望郷の情をミデアの伶人からは聽けない様な喇叭、簫、琵琶、琴、瑟、篳篥などの美妙な樂器の音で慰めようとして戴きました。だけども妾は』

『だけども妾は、おゝ何とおいやる』

王は膝を進めて美しい后のくれない色の糸縷の様な唇を凝視めた。

『だけども妾は……』

后は又云ひ淀んで不圖眸を窓の外へ向けた其處には日干の煉瓦の厚ぼつたい二重の城壁が嚴めしく屹立して、黄銅の門には生獸革の鎧を着けた勇士が、劍を光らして警戒してゐる。

城壁の外は無制限な廣野で、森もなく丘もなく只灰色の沖積層が單調に眼に見ゆる限りを茫漠と擴がつて居る。

影が形に隨ふ様に后の眸の向く方を、王の視線も辿つて行つた。

『だけども妾は、その次の言葉を聽かせてたもれ』

武勇を以て鳴るネブカデネザル王も、美しい后の愁ひの前には凜々しい顔が次第に曇つて來た。

『だけども妾は、妾に取つては、青い樹と清い水とが唯一の心の慰めなので御座います。怎麼に貴い寶玉も、怎麼に床しい樂の音も、此荒涼な景色の衝立にはならないので御座います。妾のたつた一つの御願ひは、ミデヤの山に茂つて居る様な蒼々とした檀の樹の一本

と、小鹿の様に唄って流れる溪川の一流れを此のバビロニアの城中に移して戴き度いので御座います』

『何、此の城中に樹を植ゑろと、泉を造れとな』

王は驚いた様に叫んで手を拱いた。此の粘土層のバビロンの土に何で檀の樹が根を下そう、而してユウフラチスの水面から八十キュビトも有る此の城中に怎うして泉が作れようだが又蒼々と茂つた山に圍まれて、到る處に清い溪川が爽やかな音を立てゝ流れてゐるミデヤの國の王女に生れたアミチスの衷情も決して無理な事では無かつた。

深い沈思に陷つて居た王の頭にふと閃いたのは近頃に征服したユルサレムの事であつたそこには名君ソロモンがレバノン山の良材を持つて築いた壯麗な神殿がある。所謂ソロモンの榮華なる黄金殿である。日干の煉瓦ばかりで家を築いてゐるカルデア人の頭には檜や松や白檀の木材で建てた家屋と云ふ物に非常に好奇心をそゝられたのである。そして其處に后の慾求との調訂を見出してネブカデネザル王は勢づいてハタと膝を打つた。

『のう佳耦よ、甎石を造るに重寶な此のバビロンの粘土がミデヤの山に無い様に、檀を育てるミデヤの黒土が此のバビロンの國に出ない事をわきまへて、由無き願望を棄てゝ吳りやれ。その代り木造の宮殿を佳耦の爲めに營んで進ぜう』

『木造りの宮殿』

后は面帕の裡から涼しい瞳を輝かせた。

『おゝさ、木造りの宮殿で我慢して吳りやれ若し其れで、佳耦の愁を晴らして給ろう程なら、直ぐにも待衞の長ネブザラダンを遣いてソロモンの宮殿を、此バビロンに遷いて進ぜう』

木造りの宮殿、それも后の甘い追臆の一つであつたのだ。然かもソロモン王が一宇の堂に豪奢の限りを悉したその聖殿を、己れが日常寢起きの宮室に充てがはれるとは思ひ掛けない果報になつて來た。后アミチスは夢ではないかと身の幸福を疑つて見た。

『バビロンの宮殿と申せばあのレバノン山の檜で造り、黄金で蔽ひ包んでその上を寶石で飾つてあると云ふ、家の事では御座りまぜぬか』

『おゝさ、そして其家の前には高さ十八キュビトの銅の柱二本、洗盥とそれから十二の銅の牛とが並んでゐる、それも殘らず遷いて進ぜう』

『でもあの宮殿は何でも聖靈な場所だと云ふではありませぬか。なんだか果報の程が……』

流石に女の氣の弱さ、后は一寸躊躇つた。

『ユルサレムの神に何の遠慮が有ろうぞ、ユルサレムの王は朕が囚人である様に、ユルサレムの神はもう此バビロニアの神の奴僕でおざる。あゝわれも早くあの純金の祭壇に膝打ち掛けて、金銀の祭器に酒を酌んで祝筵を開き度い事でおざるわ』

王ネブカデネザルは后の心痛を事も無げに打ち笑つて待衞の長を麾いた。

やがてソロモン王が七萬人の木工と八萬人の石工と其れから三千三百人の監督員を使役して建立させたと云ふ、バビロンの宮殿とユホバの宮室とは待衞の長ネブザラダンに依つて取り崩されてバビロニアに運び來られた。宮殿内の寶物は元より一切の祭器も携へ來られた。それ計りでは無くつて忠誠なるネブザラダンは又ユルサレムの一切の民と、一切の牧伯等と一切の能力者並びに工匠と鍛冶とを一萬人、皆バビロニアへ虜へて行つてユルサレムに殘つて居る者は貧困者と葡萄作りの百姓ばかりにして了つた。――婦人の最も美はしき者よ、わが佳耦よ、なんぢの臉には鏈を垂れ、なんぢの頸には珠玉を陳れて玉も美はし、われら白銀の星をつけたる黄金の鏈索をなんぢのために造らん、王其席につき給ふ時わがナルダ其香味をいだせり、わが愛する者

は我にとりてはわが胸のあひだにおきたる沒藥の袋のごとし、わが愛する者はわれにとりてはエンゲデの園にあるコペルの葉華のごとし、あゝ美はしきかな、わが佳遇よ、あゝうるはしきかな、なんぢの目は鴿のごとし、わが愛する者よ、あゝなんぢは美はしくまた樂しきかな、われらの牀は青綠なり、われらの家の棟梁は香柏、その棰は松の木なり、その柱は白銀、その欄杆は黃金、その座は紫色にて作り、その內部にはイスラエルの女子等が愛をもて繡いたる物を張付く、シオンの女子等よ、出できたりてソロモン王を見よ——。

ソロモンの頌歌は其儘ネブカデネザルの頌歌となつた。伶人達の合奏の裡で后は來る日も來る日も、王の樂しい訪れを迎へた。

愁ひの影は后の美しい顏から拭はれて了つた。瓢と咲く花と彫んだ檜の壁を心ゆくばかり打ち眺めて思ひを美しい追憶の上に趁つてゐる后の橫顏を盜み見ては、王は人知れぬ歡びに情をとよめかして居た。だが然しその歡びは餘り長い壽命を持つて居なかつた。

夕陽が曠野の果てに沈んで行つて、灰色のバビロニアに黃昏の帳が下りて行く樣に、后の大理石の樣に白く輝いた顏に紗の樣な愁ひの影が漂つて、それがだん〳〵暗さを增して行つた。

『怎うしても此バビロニアの城に樹と水とを移さゞあならぬか』

王の人知れぬ歡びはやがて人知れぬ苦惱に變つて來た。だがミデヤの樹と水とはエルサレムの家と人との樣に容易くは此地に移されなかつた。

王はとう〳〵夢を見た時に相談をする樣に博士や法術士や覗術士、カルデア人等を召して解明を求めた。

『數度の戰捷で今や俘囚人が牢獄に充滿しました。渠等を使役してユーフラテスの水を運ばせれば此の城中に樹を培ひ泉を湛ふる事は左程難事でも無い樣に存ぜられます』

博士は徐ろに口を開いた。

『そうですれ、水を汲み上げる方法さへつけば此問題は解決するんですれ、よろしい。そうした機械を設計しませう』

法術士は譯も無く云ひ切つて最う解決をつけた氣になつて了つた。

『だが地面の上に營む事では此高い城壁の窓から見やるのに骨が折れようぞ、成らば牀の上から丁度ミデヤの王宮の姬の室房から眺め暮してゐた樣に蒼い森を窓一杯に茂らせ、耳の傍りに溪の囁やきを聞かせてやり度き物でおざる』

王の要求は途方も無い難題になつて來た。

『それでは空中に庭園を作ろうと云ふ思召で御座りまするな』

覗術士はこいつは俺の繩張りだぞと云つた調子で身を乘り出した。

『空中の庭園』

カルデア人は口の裡で呟いて小首を傾けて瞑想した。覗術士も呪文を唱へては考へ込んでゐる。

『よろしいカルデヤの建築者をして空中の庭園を作らせませう。それでは法術士さん空中の庭園に水を汲み上げる器械の方は御賴み致しますよ』

カルデア人は何か心に確信を得た樣に、キツパリとした口調で怎う云ひ放つた。

『カルデアの建築者か、ハツハツハ、又天へ屆かざる塔の樣に途中でオヂヤンに成りやあしないか』

覗術士は嘲る樣にカルデア人の顏を見て笑つた。カルデアの建築者は嘗て天に屆く樣な塔を築く事を計畫して甎石を石漆で密着けては積んで行つた事があつた。だが其計畫は失敗に歸して混亂の塔と云ふ名を授けられて世の物笑ひとなつた事があつたのだ、覗術士は早速それを引合に出して自分の繩張りの浸害者を蔑にしようとしたが、ネブカデネザル王は嘗てエルサレムを攻めた時に敵の城邑を取

園んで周圍に雲梯を建て、攻め立てたのであつた。その時王はカルデアの建築者の技術を篤と見究めて居たので隙さず勅許を與へた。

『カルデア人よ余はお前の建築者の技柄を信ずる、片時も早う空中の庭園を築いて后の願望を遂げさせてたもれさ』

『有難う存じまする、私は責を負つて此工事を完成致させまする、何卒茲暫く御后の御哀愁を支へてゐて下さりませ』

カルデア人は泪を流して王に感謝して工事の完成を誓つた。カルデアの建築者はその特殊の材料である日干の煉瓦を高く積み上げて行く事が大好きであつた。そして又それを得意としてゐた。それに此頃は穹窿建築術を案出して其施工法も大變發達してゐたので今度の空中庭園には早速それを應用して材料の節約を計り且つ建築術の巧妙を大に世に誇ろうと云ふ下心であつたのだ。

翌る日から早速バビロンの城壁の外にその計畫は起工された。カルデアの建築者は勇躍して日干の煉瓦を積み初めた。

后アミチスは閑さへあれば窓際に身を凭せて其工事の有樣を眺めてゐた。同じ間隔を置いて細長い煉瓦の柱が延びて來るとやがて其等の間に彎形の迫持が架渡された。そして又其上に日干の煉瓦と石灰土のモルタルとの柱は延びて行つた。一階又一階、幾層のArcadeは遂に一百三十五米突の巨壁の上に屹立したそこで其頂に黑土を深く覆ひ被せて草花や樹木を移植した。又アツケデアの文明を繼承して爛熟の域に達して居たバビロニアの科學の力は能く機械的作用に依つてユーフラチス河の水を此空中に送り上げた。元より其動力は奴隷や浮擔であつた。

斯くて噴水の泉、香木の森は后アミチスの窓前に造り出された。のみかは其空中の森林中には后の冬の御殿をさへ造營された。此バビロニアは熱帶の事だから夏は壁厚き屋内に深く閉ち籠つてゐて庭園を散歩すると云ふ事もしないのであつた。

冬、暖かい陽の元で、白絹の輕い衣の裳を引いて其庭園の水に凭り木陰に憩ふ后の心はミデヤの山に白百合を摘んで遊んだ少女の昔の潔さ清さに歸つてゐた。

しづ心なく少女の樣に嬉び遊ぶ后の匂やかな姿を夢見る樣に恍惚と打ち見衞つては、王はカルデアの建築者に感謝の涙を拂つたのであつた。

空中の庭園の杜はバビロニアの烈日の下で繁りに茂つて行つた、后の顏の色はその橿の葉の樣に何日も輝いてゐた。王宮の裡にはそれから春の麗ら日の樣な和かい雰圍氣が永く立ち罩めた。

皆んな、カルデアの建築者の、功績であつた。(完)

チグリス及ユーフラチス兩河の沖積層に建設されてるカルデアの全土は深厚な粘土層から成り立つてゐるのでその土地には岩石が無い又絕へて樹木が生育しないから從つて煉瓦を凡ての建築材料としてゐた。

その煉瓦は日干の物(Kiln-Burnt)で又化粧には種々の色彩の Glazed Briokを使ふ樣な事もあつた

其れを積むには最初の頃にはユーフラチス河の三角洲から見出した瀝青土を煮沸して接分材料に使つてゐたが后期に及んでは石灰質の土から造つたモルタルで積む樣になつた。



蘆分倉庫の爆發事件調査報告書

第四部災害調査委員會

第一章　序言
第二章　蘆分倉庫の爆發
　イ　爆發前の蘆分倉庫　ロ　蘆分倉庫に收藏貨物
　ハ　爆發の原因と經過　ニ　爆破後の蘆分倉庫
　ホ　爆發の影響と被害
第三章　建築界より見たる蘆分倉庫
　イ　關西建築協會と蘆分倉庫　ロ　建築學會と蘆分倉庫
　ハ　蘆分倉庫と倉庫建築　ニ　普通貨物と倉庫建築
　ホ　危險貨物と倉庫建築
第四章　結論

第一章　序言

大正六年五月五日午後四時五十五分大阪市西區安井町蘆分橋附近に在りし東京倉庫大阪支店蘆分倉庫に於て運搬入庫中の鹽酸加里より發火し鐵筋『コンクリート』造と稱するＧＨＩ三戸前一棟の倉庫は順次三回の大爆發をなし、大爆音と共に黑煙天に沖し市民を震駭せしめたり。附近一帶は大振動の爲に瞬時に倒壞顚破し、猛火之に伴ひ、加ふるに破壞せる壁、柱、軒桁等の『コンクリート』塊、煉瓦其他の破片は主として西南方面に飛散落下、爲に狼狽逃走せる附近住民、出火に駈け付けたる消防夫、人夫見舞人野次馬等の死傷する者頗る多し、折から西南の强風に煽られて同倉庫は忽ち紅蓮の火焰に包まれて大半烏有に歸し、更に蘆分小學校及大阪電燈會社製作所をも燒き拂ひたり

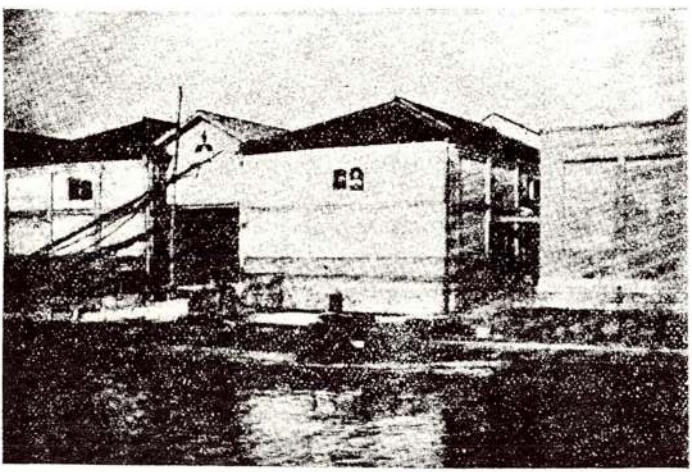
かくて安治川沿岸の諸建物、木津川逆川兩岸に在りし船舶民家工場等は殆んど損害を受けざるなく、電燈電話電信線は不通と成り、水道管線亦蘆分橋中央にて切斷し、消防隊は兼平町方面に來援防火に努めたれども、蘆分橋の顚破によりて西九條方

面に活動する能はず、混亂と恐怖と狼狽とは宛も阿鼻叫喚の焦熱地獄を現出したり。

幸にして風力強烈ならず同日午後九時半鎭火し翌日は降雨となりしを以て往年の大火とは比すべくもあらざれど其慘狀の悲慘酷烈なる其損害の甚大なる殊に死者約五十傷者亦二百餘名を算するあり其爆音は遠く京都奈良神戸に達したりといふ、蓋し前代未聞の大事件たり。

我關西建築協會は其成立の日淺く斯の大事件に關する調査委員を選出する暇なかりしも、五月例會に於て漸く災害調査委員の任命あり、災後の調査材料の收集に努力し、漸く之が報告書を作製する事を得たり。本事件は之を社會上より見るも、建築學上より見るも頗る參考に資すべきもの多く、出來得る限り詳細なる調査を完成し置く必要あり。乍併各委員は夫々公務多忙の餘暇を以て事に當りしなれば、固より完璧を期すべからず。今姑くこゝに本稿に止め、尙後日を待ちて之が補足をなさんとす。

附記　本稿は今回本會雜誌初號編輯に際し、特に主要なる部分を採錄して以て第四部委員會の擔當せる調査研究の一部を發表せるものなれば本事件の報告書としては滿足を得る能はざるべし、殊に學術的研究に亘るべき事項は建築學會特派諸員の建築雜誌に公表せらるべき報告を待つ事とし、本稿に在りては主として社會の誤解を防がんため特に鐵筋「コンクリート」造倉庫に關して稍詳細なる觀察を掲げたり。讀者諸君の諒とせられん事を望む、



爆破前の蘆分倉庫（右端が①倉庫）

第二章　蘆分倉庫の爆發

イ、爆發前の蘆分倉庫

蘆分倉庫は西區安井町に位置し敷地構內三〇七五坪を算し建物總坪數二二九三坪餘、倉庫十八棟あり、更に各棟を二分三分して合計三十八番とし、各番夫々一戸或は二戸を有す。北部は主に煉瓦造にして二番より二十五番に亘り十一棟あり、小屋木骨、屋根瓦葺平屋建にして鼠疫豫防の爲め大阪府令第四十八號納屋取締規則及建築取締規則に準據し、主として防鼠設備を施したるものなり。構造舊式にして窓及出入口は鐵扉を付し西部に在るものには界壁ありしも東部に在るものにはなかりき。次に數地の南部を占め入江の兩岸に建て連ねられたる平屋建倉庫は合計四棟にしてA

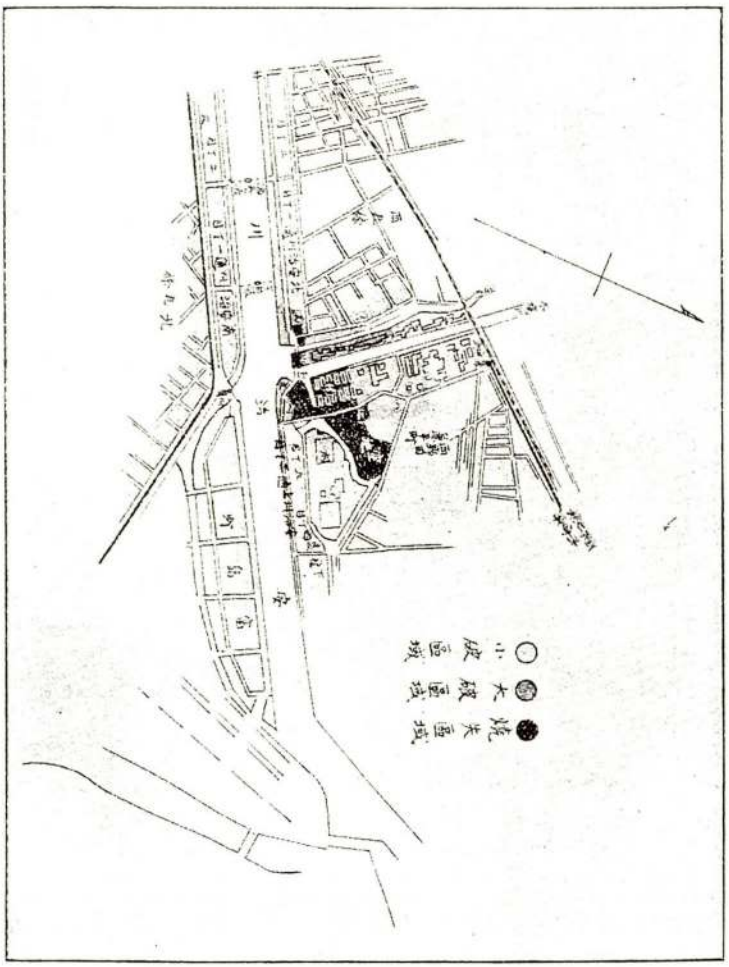
東京倉庫株式會社大阪支店芦分倉庫平面図

縮尺一分百五尺



よりIに至る鐵筋「コンクリート」造と稱するも小屋木骨、屋根は石綿盤を葺き切妻及「パラペット」壁は煉瓦を充塡しあり外部は「モルタル」塗仕上、採光は天窓に依り出入口は厚二吋鐵筋「コンクリート」造引戸を有す。大正元年八月起工、二年四月竣功せるものなり

西北部に在る一棟は三分して二十六番より二十八番に至る構造木骨金鋼張にして被覆防火用として「コンクリート」を塗り外部を「モルタル」仕上とす、小屋木骨屋根石綿盤葺平屋建にし大正六年四月落成せしものなり。東側に工事中のもの二棟ありI及Kと稱す構造は南部の鐵筋「コンクリート」造に倣ひたるもの目下壁部コンクリート假枠準備中に屬ぜり（倉庫事務所は木造の假建物にしてP倉庫の東に在りたり）



以上倉庫の概要を一覽すれば完全なる耐火構造物ならざる事を注意せざるべからず。煉瓦造倉庫も亦耐震的性質堅固ならず鐵筋「コンクリート」造と稱するものも亦變則なる構造法に依れりこれ主として東京倉庫大阪支店の方針として安價なる準耐火構造を採用せる爲めならん、屋根は凡て木造とし被覆に瓦又は石綿盤を使用して一時的防火に備へ自火の場合は上方に燃出すべく固壁は類燒の憂なからしむる爲に耐火構造とせるものなり二十六

番より二十八番に至る一棟の如きは物價騰暴の折柄明かに此安價構造法を採用せるものなるを示す。而も不幸にして今回の災害を甚大ならしめたるI倉庫は特別に耐火構造を徹底せしむる目的に依り、屋根をも鐵筋「コンクリート」造とせし事は災後判明せるものにして今回の災害に重大なる關係あり、後章詳論の要を認む。

ロ 薩分倉庫と收藏貨物

本事件突發の原因は勿論收藏貨物の性質並に配列分布の狀況に依る。今各倉庫内收藏物品を一覽せんか實に多種多樣の貨物輻輳しありて如何に注意の必要なりしかを思はずんばあらず

殊に吾人の忘るべからざるは危險性貨物の多量なりし事にして、實際東京倉庫は營業上顧客の便を計らん爲、止むなく危險性貨物を保管し薩分倉庫に特に集中したるものなり。而して今回の災厄を惹起せし一棟GHIにありては、就中危險性を帶ぶるものを堆載したるものにしてI號の如きは更に之等貨物を收藏するを目的とせる事分明せり。殊に「アルコール」「ベンゾール」「ナフタリン」「ワニス」「ペンキ」等の揮發性にして且つ引火し易き貨物の存在せる事、又塩酸加里、塩素酸曹達、及過酸化曹達等の單獨に熱、或は衝撃のため爆發すべき貨物の多量が相隣接して山積せられありし事は實に其過然ならざるを思はしむ。而してH號が主として引火性貨物を有しG及I號が爆發性貨物を有せし事は災害の經路及び其慘狀を首肯せしむるに足るものあり。I號にありては鹽酸加里の量はG號に及ばざるも最も危險なる過酸化曹達を包藏し、加ふるに屋根をも鐵筋「コンクリート」造とせるため抵抗力の著しく增大せし所以は爭ふべからざる所にして、今各號庫内の容積（キユービックコンテント）を比較する時は實に左の如くなるを見る。

G	七一五七六、五九立方尺
H	五五一三六、〇七
I	三二八五二、一六

則ちI號倉庫は陸屋根なりしだけ其容積は最小なりし事は收藏物品の發生せる瓦斯体の壓力がいやが上にも蓄積せられ到底他の二庫に比較し得べくもあらざりし事想像するに難からざるなり。

九號倉庫に於ける多量なる智利硝石は危險物視せらるゝ貨物なれども、幸にして單獨に山積せられ又二十一號倉庫に於ける「カーバイト」の如きは亦一種の危險貨物なれども周圍の情況が安全なりし丈此回の災害の因に加はざりしも、如何に危險性貨物の保管狀態が周到なる注意を要すべきかに就いて參考の資料たるを失はず。

今左に各號倉庫の在庫物品を列擧すれば左の如し

◉貳號倉庫

物品名	數量	一箇の量
米	三、九七三箇	約四斗
石棉板	五五	五六〇封度
硫酸アンモニヤ	七九二	一〇封度
パルプ	三九六	一九〇—四八封度
蓄音機針	一二	七五—一九〇封度
重石	六〇	一三—一五貫
染料	三	八〇斤

◆參號倉庫
紡績棉　一〇〇
硫黄　三
古護謨　二
鋼鐵　六〇
植物性油類　二、九七八
棉實　一、五九四
◆四號倉庫
米　二、五六〇
重曹　一、〇五七
パルプ　一、一〇七
蕃薯　一五三
澁エキス　一
◆五號倉庫
アスベスト製品　一七九
石棉板　一〇
米　一、六〇〇
硼砂　一五三
染料　三四
硫酸バリウム　二〇
帽体紙　二一
三極　一三
炭酸加里　一〇
◆六號倉庫
アスベストファイバー　八〇
米　一、九七五
パルプ　五三三
三極　三〇
ウイス　二
◆七號倉庫
アスベストファイバー　一二八
石棉　二〇七
パルプ　七一四

一〇貫
一八貫

一〇〇弗
約二斗
一〇〇封度

約四斗
一一二封度
一九〇—三七三封度
六八—一二〇封度
一〇貫

一〇〇—五〇〇封度
三六〇封度
四斗
一〇〇封度
四〇—八〇封度
一〇〇斤
二五貫
一〇貫—二七貫
一二貫

一二五弗
四斗
四四八封度
一二貫
一八貫

一一四封度
一〇〇封度
二七七—四四八封度

米　六二五
◆八號倉庫
曹達灰　五、三七九
◆九號倉庫
智利硝石　六、八四一
鹽化加里　一四八
◆十號倉庫
黑糖　四四二
米　二
◆十一號倉庫
パルプ　二〇〇
黑糖　一、二九〇
◆十二倉庫
黑糖　一、三九五
タンパーク　六〇〇
棉實　一五〇
姜黄　三〇〇
◆十三號十四號倉庫
姜黄　四〇二
棉實　一、五三二
タンパーク　一二〇
メリヤス製品　四〇
パルプ　二〇〇
◆十五號倉庫
綿綿　一、三四〇
◆十六號倉庫
黑糖　三、三一〇
◆十七號倉庫
黑糖　一、二六二
タンバーク　二一六
パルプ　三〇〇
◆十八號倉庫
パルプ　一、七七五

約四斗
二二四—二五〇封度
二四貫

一二〇斤
四斗

三七四封度
一二〇斤

一二〇斤
一三貫
一六〇斤
平均三、〇〇〇斤

平均三、〇〇〇斤
一〇〇斤
一二〇封度
二〇打
三七四封度

三〇〇斤

一二〇斤

一二〇斤
一三貫五百匁
二八〇弗

一九〇封度

硫化アンモニア　一、二〇七
棉實粉　二〇七
骨粉　一
蹄粉　五七
硫酸加里　二三
◆十九、二十號倉庫
原棉　二、二八六
◆二十一號倉庫
石綿及石綿板　二四九
硫化曹達　五〇
精製硝石　二九八
アスファルト　一〇九
蓚酸　一六
重クローム酸加里　五
米　二五〇
カーバイト　三、〇八〇
黒糖　一
◆二十二號倉庫
棉實　六〇〇
パルプ　二、五八五
石灰窒素　七一八
◆二十三、二十四、二十五號倉庫
植物性油類　三、〇〇〇
米　一、〇七四
黒糖　三、九八〇
◆二十六、二十七、二十八號倉庫
原棉及製綿　一〇、二一六
◆G倉庫
鹽素酸曹達　三一六
晒粉　五
鹽酸加里　一、四九五

一〇貫
二〇貫
一〇貫
二六貫
一二貫

三〇〇—三八〇封度

二〇〇—五九〇封度
七五〇封度
一〇〇封度
四〇〇封度
五六〇封度
一〇〇封度
四斗
五〇—一〇〇封度
一二〇封度

九六斤
三七三斤
一九〇封度

二斗
四〇〇封度
二斗

三八〇—三〇〇斤

一一二封度
五〇封度
一一二封度

マリンフリユーピッチ　三五
ワニス　一一一
◆H倉庫
アルコール　一、二五二
ベンゾール　二四
ナフタリン　四〇五
スモークドシート　五〇
ペンキ　一〇〇
◆I倉庫
鹽酸加里　一、〇二三
過酸化ソーダ　一一七
鹽素酸ソーダ　二一〇
鹽酸加里　三〇
◆上屋下及野天積
硫化ソーダ　五〇
鹽化アンモニウム　九七
蠟粉　八三
硫酸加里　三一六
曹達灰　九七
黒糖　二〇五
石灰窒素　七五
曹達　三〇
鹽化フンヅュール　八五
蓬灰　三五
鐵　六二
糖密　五
樹脂　一四四
苛性ソーダ　五
硫酸　一二七
パルプ　二三〇
紡績綿　三五〇
以上

三三〇封度
一二ガロン

二斗
一三〇封度
一〇〇封度
二二四封度
二八封度

一一二封度
五〇封度
一一二封度
一一二封度

七五〇封度
七〇〇封度
一六貫
一五貫
二二四封度
一二〇—一六〇封度
六貫
一〇貫
五二〇封度
五二〇封度
一七〇封度

五〇〇封度
七〇〇封度
一〇〇封度
七貫
一〇貫

斯くの如き種類雜多の貨物充滿せるうち損害を免れたるは實に二三、二四、二五、二六、二七、各號倉庫内の貨物あるのみにして、如何に多額の損害なりしか察するに難からず。而して二一號倉庫内の「カーバイト」の如きは約一週間赤熱の狀態にありし程なり、されば餘焰は數日の間鎭火すべくもあらず、僅に四號内の重曹、及九號倉庫の智利硝石は災後尚山積して其舊態を止めたるも他は概ね燒失したり。

八　爆發の原因と經過

爆發の原因は輸送入庫中の塩酸加里の一樽をG倉庫入口にて同倉庫仲仕某々が取落したるに基因す。而して此の危險なる貨物は遠く倫敦より發送し來れる大阪長瀨商店の依賴品なり。百樽の中既に東京汐止驛に到着運送中の物にて發火燃燒せるもの四箇あり。大阪に到着せる二十五箇は梅田驛より車上運搬せるものにして、危險物なる事を略知れる仲仕は途上大に警戒し運送せし由なり。

發火するやG倉庫内に山積せし塩素酸曹達に引火し忽ち同倉庫は非常なる爆音をあげて爆破壞滅に歸したり（安治川上流兩岸の各會社商店の硝子窓が破損せるは主として此第一回の爆破並に第二回の爆破による震動の影響なり）幸にして之等仲仕は東方に逃走せし爲め倉庫が一種の防禦物となり多くは生命を全ふしたりと雖當事者は言語を發する能はざる負傷を受けたり。

G號倉庫の爆破するや分餘を措きてH號倉庫の爆破となれり蓋しG倉庫の周壁は炸裂倒壞し屋根は高く冲天に飛散せる瞬間なればG及Hの界壁は勿論大破せられたる也、而してH號の爆破後五分餘にしてI倉庫は最も猛烈に最も偉大なる第三回の大爆破をなし、周壁はいはずもがな基礎となれる南部の護岸は四散して大噴火口の如き慘狀を呈せり。此の五分餘の小閑は實に附近の人をして防火に駈け付くる餘裕あらしめたる丈け死傷者多く、四散せる破片は西南方面に亘り約三町餘の範圍に雨下散降し、震動のため倒壞せる家屋、狼狽混亂せる民衆に更に猛烈なる慘害を蒙らしめたり。

西南方面の混亂に引換へて風位は東東北方面に向ひたる爲め猛火は忽ちにして同倉庫全部を襲ひ、煉瓦造並に鐵筋「コンクリート」造各倉庫は前後三回の振動に堪へず南北側壁悉く倒壞して貨物及屋根は引火燃燒し黑煙天を掩ひ倉庫事務所を燒き振ひ更らに道路を越へて木造二階建の蒸分小學校を一掃し進んで大阪電燈會社の製作工場を烏有に歸せしめたり。

二　爆破後の蒸分倉庫

爆破後の蒸分倉庫は大樣四種の狀態となれり

一、壞滅に歸したるもの……I HG

二、大破後猛火に襲はれたるもの……A…F、2…22

三、燒失の厄に遭遇したるもの……28及事務所

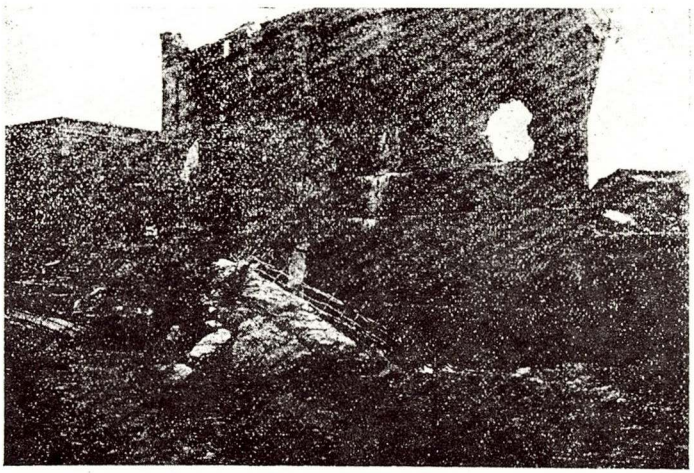
四、小破を蒙りたるもの……23

而してJK號は工事中なりしと東側に在りたる爲殆んど損害を受けず、且煉瓦倉庫の側面に接せしため假枠にも類燒の跡なかりしは一つの敎訓たるを認むべし。

壞滅に歸したるGHI一棟の倉庫は僅かに基礎の大半を留め周壁の一部を殘傾せしめたる外四散して舊態無し只A…F

倉庫と同形なりしを以て其俤を偲ぶに過ぎず。G及Hの南側柱壁は入江に陷落して之を堰き、東側及北側入口部の壁は上半折倒倒斜して貨物の主として南側に堆積しありたるを思はしむ

GHの界壁は姿を止めずH及I號の界壁は中央の柱のみ東北に倒折しあるのみI號に至りては周壁飛散して跡なく僅かに北側の一部が四番倉庫内に亂入せるを見るのみ。南岸の護岸基礎及床の大半は噴火口の如く、護岸の石塊は入江の南岸に亂堆せるを見る。而してI號倉庫より飛散せる鐵筋「コンクリート」の大塊は如何なる邊に落下せしか、今吾人の眼に觸れたるものを擧ぐれば



（面北の庫倉號C）庫倉分薫の後破爆
（壁の庫倉Hはる在に中水）

イ、國津橋交番所を打破したるもの（約二丁餘）…軒桁
ロ、國津橋下に落下したるもの（約一二丁）…同
ハ、安治川通一丁目理髪屋を打破したるもの（約一丁半）同
ニ、西薫分橋西詰に落下せしもの（約一丁）…同
ホ、東薫分橋と西薫分橋との中間に（約半丁餘）…柱
ヘ、大阪製鑞會社工場に落下せるもの（約一丁）…軒桁
ト、同工場北部に落下せるもの（約一丁）…柱
チ、薫分橋東詰河中に落下せしもの（約十六間）…同
リ、水上署の西北部を打破せるもの（約四十間）…同
ヌ、水上署通用門附近に落下せるもの（約一丁）…軒桁
ル、第十三番倉庫に亂入せるもの（約二十間）…同

此等は皆鐵筋と結合したる儘の「コンクリート」塊にして軒桁にありては厚一尺、幅二尺五寸長六尺より九尺に至る大塊なり鐵筋（五分丸長十二尺もの四本を有し「スタラップ」八番線等舊位置を保ちつゝあり）は兩端の小屈折部は其儘に抱き壁の鐵筋（三分丸）のみ引切られてあるを見れば明かに振放されて飛行したるものにして安治川を越えて家屋を破壞せる如き如何に爆裂力の偉大なりしかを想像するに難からず。

柱に在りては重量大なりし爲め遠く飛行せざりしも其厚一尺幅三尺長十二尺に達するものあるを見て戰慄を禁ずる能はず、其他壁体の散亂せるものにありては約二尺角（厚四寸五分）の

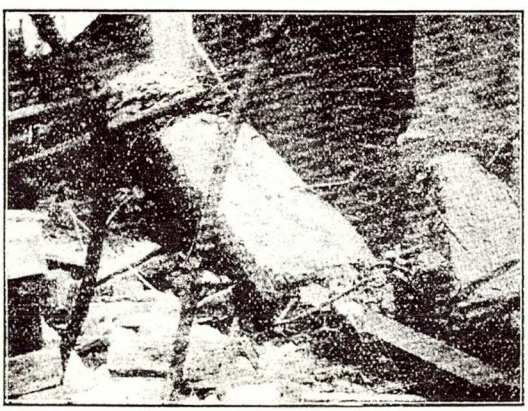
ものより小は五六寸角のものにして三分丸鐵筋十尺（舊狀のまゝ）ものを抱きて飛來せしもの數ふべからず、況んや小塊の四散分裂せしものに至りては雨下霰降も啻ならざりしは以て其の慘害の狀況をも窺ふ事を得べし。

AよりFに至る三棟の倉庫は鐵筋「コンクリート」造と稱するものにして構造上堅實ならざる爲め大振動に堪へずABCの南西壁の如きは大半外方に倒壞し去り爾餘の殘壁も大半傾斜頽破して見る影もなし、C號の切妻の如き軒桁より上部は北側に折れ柱部のみ鐵筋により懸垂し、充塡しありし煉瓦は振落されたり、Fの西妻亦同樣にして壁体はC同樣大孔を穿たれたり。

此等倉庫の小屋は木造なりし爲め燒失して影を留めず。思ふにABCに在りては振落後燒失したるなるべし。DEFにありては大部燒失落下せしなるべし。A……Eの各號は原綿山積しありたれば類燒頗る早かりしなるべく、Fに在りては壁の破孔より引火せしならん。



兩蘆分橋中間に落下せし「コンクリート桂」



水上署通用門壁を破りたる軒梁

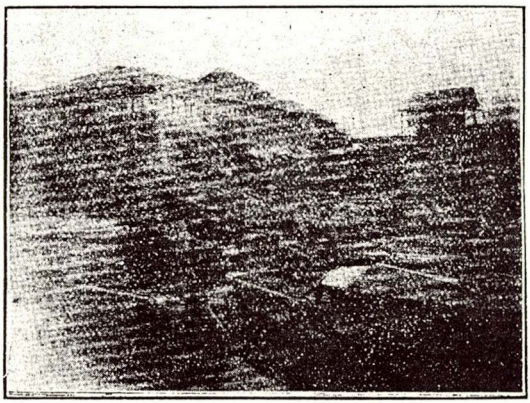
北部を占むる各番煉瓦造倉庫は振動のため南北兩壁は悉く倒壞して其耐力の薄弱なるに同時に振動の威力を思はしむ。只各番妻の壁及界壁の一部のみは振動の方向に平行せしためか倒壞を免れたり。而して二番倉庫の屈折部に小屋を受けありし鐵筋「コンクリート」造大梁は中央の孤立柱及兩端周壁内に造られたる鐵筋「コンクリート」造柱に支へられて些の損害を見ず、舊位置に殘留しあるは振動の方向に平行なりし爲なるべし。

二三、二四、二五番の一棟は幸に周壁に何等の損害なく只屋

根は「コンクリート」塊の落下を蒙りて大小破孔を穿たれたれざも貨物の損害殆んどなし。乍併二番より一二番に至る各倉庫内の貨物は猛火の襲來に一溜もなく燒失し殘堆尙煙を擧げ數日を經るも鎭火せざりしものあり。

二六、二七番倉庫は位置北に偏せしため貨物は早く搬出されて損害なく、屋根及南側壁は飛塊の爲小破を蒙りたるに過ぎざりしも、二八番倉庫は最北に在りながら燒失の不運を見たり。而して二八番と二七番との界壁は如何なる譯か煉瓦壁なりし爲め類燒の憂なかりしは偶々耐火構造の有利なるを見るべし。

其他各倉庫間に假設しありたる上家は木造なりしため單に燒失したるに過ぎざりしも、通路上に在りし貨物は同じ運命を免れざりき。



爆發後の慘狀・燒失せる四・五番倉庫及殘燒りたる九・十・十一番倉庫

F號倉庫の東に在りたる倉庫事務所は木造なりしため瞬時に類破燒失して跡を留めざる有樣なり。

ホ　爆發の影響と被害

爆發の影響による附近の被害は之れを大約四種に分つべしと雖多くは區別し得べからざる災厄を蒙りたり。

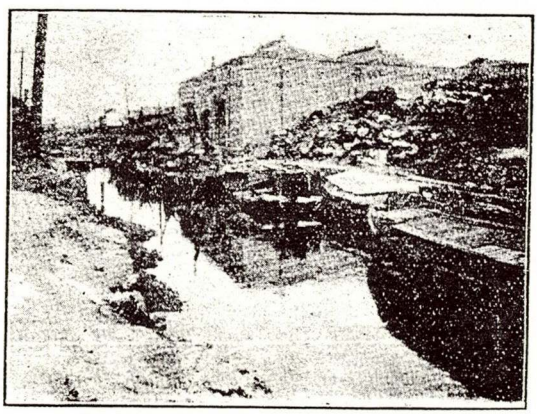
一、吹き揚げられたる小屋材の落下によるもの

二、振動の影響によるもの

三、「コンクリート」の降下によるもの

四、猛火の襲來によるもの

上天に吹き揚げられたる小屋材は寸斷せられ西北の風に送られて兼平町方面に降下し、附近住民を驚奔せしめたるも火焰を伴はざりしと物體の輕量なりしため重大なる損害なかりしはせめても幸なりしが尙長四尺に及ぶものありたり。



災害を免れたる廿六・廿七番倉庫

然るにG及H兩號の分餘を措きて引續き爆破せる影響は異常なる空氣の振動を捲き起したりと見ゐ、主として東南方面を襲撃し、大阪電燈會社工場を初め遠く大阪商船會社尼崎汽船會社等の安治川上流兩岸の各會社商店の硝子窓は悉く破壞せられ瓦葺家屋は大概破壞せられぬ、第二回の爆破により振動は國津橋を中心とせる安治川沿岸に再度襲來したるもの、如く附近住民は殆ど大地震の襲來せる如き恐怖に襲はれ周章狼狽言語に絶せり、此前後二回の爆破震動は第三回のものに比すれば雲泥の差ありしことを偲はしむ、例へば大阪電燈會社の大煙突及同社西南隅にありし高約四間の煉瓦壁体に何等の影響なかりしを以て證すべし、殊にG H倉庫の周壁は現場周圍に殘骸を止めたるを見て其屋根が木造なりし事が如何に周圍に其影響を與へたりしかの程度を對比考察し得らるゝ也、只不幸にして軒桁上端を充塡せる煉瓦並に「パラペット」を構成せし「コンクリート」は其爆勢に耐へずして剝脫飛散して極附近の家屋に損害を與へたるは詳細に現場を視察して斷案を下し得べく、安井町南部の民家及水上署は先づ此襲來を蒙りたるもの、如し。

而して第三回目の大爆裂は更らに五分餘を措きて實に偉大なる慘害を逞ふせり、前項に述べたる如く、I倉庫の周壁は殆んご其附近に殘骸を殘さずして千分萬裂して飛散し、西南方面は是が爲めに甚大なる修羅場を現出したり。蘆分橋附近に驅け付けたる消防夫等其他二十餘名が一時に其姿を消失したるが如きは實に其猛烈なる振動の結果にして、此の大振動の影響し此大破壞物の雨下とは附近の地を擧げて一噴火山の爆裂せるに異ならず、安治川沿岸の家屋はいはずもがな、遠く四丁餘を隔りたる安治川尋常小學校の硝子窓十數枚の破壞せる程なれば木場川逆川兩岸の家屋は殆んご一瞬時に頽破し、加ふるに「コンクリート」塊の數知れぬ落下に壓死打傷せる者算なく、阿鼻叫喚の巷は到底名狀すべからず、殊にI倉庫と面接せる水上署並に同官舍安井町民家、及兩蘆分橋附近一帶は混亂其極に達し慘狀目を當てられざりしなり、若し夫れ國津橋交番所を打破せる「コンクリート」大塊を見、蘆の湯?及理髮店を全滅せしめたる軒桁や、水上署の慘狀を視察したるもの、誰か慄然たらざるを得んや。

最後に猛火は忽ちにして倉庫全体を包みて狂ひ、忽ちにして蘆分橋附近の民家を燒き、更に蘆分小學校及大阪電燈會社製作所建物を烏有に歸したり、今同小學校跡及會社跡を見れば共に木造なりしことはいへ悉く燒盡して單に礎石の殘存せるを見るのみ、幸にして同小學校は放課後なりしと同時に破片の襲來は此方面に及ばずして人畜の死傷なく、倉庫當事者等が東方に逃走せるは蓋し全く僥倖なりし也。

今其主なる被害物を列擧すれば

大阪商船會社及同待合所	小破
尼崎汽船會社	小破
大阪電燈會社發電所	大破
同製作所(工場十一棟)	燒失
蘆分小學校(二棟)	燒失
攝津製油會社	大破
日本アスベスト會社	大破

水上署及同官舍　　頽破
大阪製壜會社　　大破
日本亞鉛鑛業會社　　大破
尼崎伊三郎氏邸宅　　大破
中塚鐵工場　　大破

而して倉庫民家建築物及運送用船等の破壞又は火災に罹りたるものを類別すれば左の如し

全燒	七八	（他に全燒船一）
半燒	六	（他に半燒船六）
全壞	七	（他に沈沒船一）
半壞	二三	（他に破損船三）

今蘆分倉庫に於ける貨物建物の損害額を擧ぐれば

貨物	金額概算	會社名
蘆分倉庫	一二〇、〇〇〇圓	明治火災保險會社
	二六〇、〇〇〇	明治火災保險會社
（尙同社は更に共同、横濱、東京、日本、海上の五會社に再保險を附せり）		
	一〇〇〇、〇〇〇	米井保險部
（フエニックス、ノーザン グリーデアン ロンドン カシアー）		
	一〇〇、〇〇〇	大倉保險部
（コンマーシヤルノー井ツク）		
	三〇、〇〇〇	スコチッシユニオン
	七〇、〇〇〇	千代田火災保險會社

第二章　建築界より見たる蘆分倉庫

イ　關西建築協會と蘆分倉庫

蘆分倉庫大爆破を知りたる各員は災後視察に出掛けたるも、非常線の警戒嚴重にして滿足なる究研を遂げたる者少なし、乍併建築家としての立場より見れば參考のため災後の狀況を一覽する事のいかに必要なるかは言を待たず、我建築協會は成立の日淺かりしを以て卽時委員を派出するの時機に達せざりしが、災後災害調査委員の任命あり、而して充分にして必要なる調査は寧ろ後日に於て材料を收集するの便利なる事ありと雖、失火當日の視察に於て參考に資すべきもの頗る多し、されば不時の災害に際し少なくとも各委員は特別に「失火場立入證」を其筋に下附を申請し置かざれば任務を遂行する上に不便尠からず、依つて協會の名を以て之れが下附を乞ふの必要を痛切に感ぜずんばあらず。

蘆分倉庫の爆發するや市民の驚駭此上なく、各新聞紙は急を報じ詳を訣き、更に此大事件に就いて或は其筋の爆發物取締の不備を攻擊し、或は倉庫會社の責任を論じ、或は保險業者の不注意を指摘し、紙上は本事件によりて埋められたるの觀あり、市民亦現場附近に群集して見舞人の往來織るが如し、各方面の會話も此事件に花を咲かし、市當局、府吏諸員の煩忙蓋し空前の事柄に屬す、而して災後の慘狀は震災と異ならず、之れが整理は今日尙ほ片付かざる程なるを見ても想像に難からず、此時に際し東京倉庫株式會社は岩崎男の視察を乞ひ重役會議の結果社會に對し陳謝の意を表し、併せて罹災者及其遺族に對する見舞金として金一百萬圓を提供し其分配方法を市長に委任するに到れり。

此時に方り建築家にして特に社會に對し警告を與へ世間の注意を喚起し以て將來を謀るの急務を論じたるもの曉天の星の如し、片岡氏の每日新聞に寄せたる論文、及び長野博士の日々新聞記者に漏されたる談論を數ふるに過ぎず。其筋の繁忙保險會社の驚駭、及び倉庫會社の困窮等は擧げて社會全般の用意を卜するに足り如何に平常の準備に於て缺陷の大なりしかを視るべし、而して此の悲慘なる事件も時日を經過するに從つ

て市民の腦裏より漸次に或は急速に消滅し行くべき順序ならざるなきか、果して然らば吾關西建築協會の事業の一部として常に此等の不用意を指摘し、我邦關西の一大都市として、消防機關の完備訓練、防火建築の奬勵、並に建築取締規則の改正、危險物取締規則の制定に關し、其急務なるを警告せざるを得ず。幸に府當局は危險物取締規則の調査に着手し最近に於て之が發表を見るに至り建築取締規則改正の機運に到達しつゝありと認めらるゝ由なれば、此際一層時務に適切なる改正を斷行するの要あるべし。消防機關の完備に到りては尚考察の餘地甚だ多し、何となれば如何に之れが完備改善を期したりとも都市を擧げて一時的建築に滿足し更に耐火耐震構造の必要なる所以を知らざれば到底完全なるを期すべからず、進んでは都市改良計畫を樹立し主要なる街路の沿道をして耐火構造の家屋を櫛比せしめ、以て市區の防火區域を數區に分劃するの案を採用し以て將來を謀らざるべからざる急務を感ぜずんばあらず、幸に都市改良委員會は他市に率先して我が大阪市に於て最近設けらるゝに至りたれば漸次調査改良の實を擧ぐるは期して待つべきなり、されど一般市民は尚且つ今日の不備なる建築構造の缺陷を知らず、安價住宅安價商店安價事務所に滿足して平然たるものあり、大に協會の努力を要する事火を睹るより明かなり、特に此圖の事件に際し痛切なる問題として切實に世の識者の注意を乞はざるを得ず。

○ 建築學會と蘆分倉庫

建築學會は蘆分倉庫爆發の報により建築學上に資すべき大事件なりとし特に委員を出張せしめ之れが調査を委託するに至れり、而して常設災害防止委員會の各委員は夫々公務多忙の折柄なりしも特に便宜を得て來阪するあり、東京に在る各學校にても此際專門家の派遣を急務とし此等相率ひて合計九名の建築家の西下を見たり、實に五月九日午前の事なりとす、其の氏名左の如し

工學博士	佐野利器	東大助教授（建築學會副會長）
工學士	內田祥三	同（同　正員）
同	笠原敏郎	警視廳技師（同　正員）
同	土居松市	（東京市嘱托（高工講師）（同　第二部　委員）
同	神木健介	美術學校講師（同　）
同	小林政一	大學院學生（同　）
同	西村好時	清水組技師（同　）
早大工學士	間瀨直一	早大助教授（同　）
	橋　節男	高工助教授（同　）

茲に於て我建築協會は大擧來阪の諸氏を案內するの勞を執り現場視察を遂げ同夜は特に招待會を開催して意見を交換したり、而して各諸氏は各自の用務により兩三日滯阪の上尚詳細なる視察調査を續行して歸東せり。

建築學會諸委員の見たる調査報告はいづれ建築學會雜誌の誌上に學術的研究の發表を見るべく期して待つべし、殊に蘆分倉庫に於ける災後の慘狀は之れを大火の跡として又震災の結果とも見るべし、又爆彈投下の被害とも見るべし、尚建物の種類雜多にして研究資料頗る多き事は各委員の大に諒とせし事柄に屬す、殊に最新構造法に則りしといへる鐵筋「コンクリート」倉庫の災害に關しては最も注意を集中せし處にして、我國建築界の權威たる學會は今春東京に於て此新構造法に關して研究討議會を開催せし程なれば、建築學上の論議調査研究に關しては建築雜誌上に之れが充分なる報告を發表せらるゝなるべし。

ハ 蘆分倉庫と倉庫建築

前項に述べたる如く同倉庫は舊式煉瓦造と新式鐵筋「コンクリート」造とより成り、他は地部に木骨「金鋼コンクリート」造の一棟ある已にして主として不燃失物構造を採用せしは明なり此等の主なる倉庫が悉く屋根を木造とせる事は如何なる理由に

依りたるか、聞く所によれば東京倉庫大阪支店の方針こして同壁は何處迄も耐火構造こすれごも屋上は自火の際上方に燃出して附近倉庫に損害を與へざる樣の計畫に基きたるものにして、同倉庫の中ノ島或は西長堀に在るもの皆同一方法に則れるを見る。而して外來飛火類燒の際に効果あらしめんため屋上は葺くに瓦又は石綿盤を用ひたるは蓋し倉庫事業上の打算こ防火こに意を注ぎたる細心の計畫こ謂ふべし。殊に最近の鐵筋「コンクリート」構造を採用して全く舊來の木造建築を排し進んで舊式煉瓦造を改築して時勢の要求に應ぜんこし、顧客の安堵に勉めたるは經營者の最も自信ある苦心こ謂ふべし。殊に貨物の腐蝕破損せざらん爲め通風換氣の裝置設備の如き、或は從來木造又は「モルタル塗」等の床を改めて「アスファルト」「コンクリート」を用ひ、採光は天窓により出入口は開閉を簡易にして且防火に意を用ひ、構內亦運搬荷扱の便に留意して建物の配置を定め、殊に平時貨物の集散に便ならしむる爲悉く平屋建にして軒高を充分にする等他會社倉庫に見ざる長所は擧げて數ふべからず。

乍併今回不慮の災害を惹起して過去の苦心經營は一朝にして水泡に歸し市民の憎惡を負ひたるのみならず數百萬圓の損失を負ひたるは實に遺憾の極こいふべし。幸にして社長の勇斷なる壹百萬圓の巨費を提供し以て市民に謝する所ありたるも千丈の堤尙蟻穴より潰へて如何こもすべからざるが如く殘痕今に新たなるは眞に同情に堪へず。乍併、今回不慮の因を究めんか、經營者の一失は當然自繩自縛の運命に遭遇せるものに非ざるなきか、其貨物吸收に意を注ぐの餘り之れが保管措置に大なる缺陷ありしを氣付かざりし事、神に非ざる限り如何こもすべからずこやいふべき。

兎も角鐵筋「コンクリート」造の名に安堵して貨物の取捨配按に科學的考慮の無かりしは主要原因の一なるべし。其爆發を勃發せし原因こ倉庫建築この關係を詳細に研究すれば明かに經營者及當事者の千慮の一失を認めざるを得ざる也。殊に危險物を收藏せし倉庫の破滅が不計も一大慘劇を演じたるは不運中の不運なりこするも危險物なき各倉庫が殆んご全滅の非運に遭遇せるは經營者の一大失策こいふべし。倉庫建築の設計實施は技術者の任務なれごも、之れが根本方針を立て指示を與ふるは經營者の最大責任なり、されば其方針が根本に於て正鵠を失せりこせば其責は經營者が負はざるべからず、若し保險會社が今回の如き災害に甚大なる損失を招きたりこせばそは明かに倉庫經營者の方針を容れたる保險業者の自繩自縛たるものにして、更らに社會保安維持の側より見るに、監督官廳が之等の危險の暗點の裡に存在せるを知らざりしは一面當局者の怠慢こいふべく亦社會全体の責任こはさるべからず。

今茲に倉庫建築こ經營者この關係より見て、貨物こ倉庫建築この交涉を研究調査するは必ずしも無益に非ざるべし。

倉庫に關係すべき貨物は之を二大別し得らる、乃危險性貨物こ危險性なき貨物こ之なり、更らに之れを細別せば危險性貨物も程度のあるあり、非危險性貨物にも差別あるべし。或は亦數者配合の上に於て多大なる危險性を帶ぶるも單一にては何等危險の恐なき貨物も尠なからず。又單獨にても數者配合の上にも

何等危險性なくして時に自火を引起すものもあるべし、平時安全なるも時に不安を含蓄するもあるべし、其差別異同は千差萬別なるは止むを得ざるべし、果して斯くの如しこせば之れを容るゝ建物は其收容すべき貨物の性質に順應して建てざるべからず、乍併斯くの如きは營業者に執りて到底堪ゆべからざる所にして實行不可能こいふべからざるも營業にならざるべければ大約之を二大別し、箇々の貨物に對しては更に特別の注意監視を執るを以て策の得たる者こ爲すべきか。

今蔗分倉庫の事情を檢すれば、縱へ雜多の荷物を保管せるにせよ、明かに特別危險性貨物を特別扱にしたる丈は明瞭なり、乍併科學的注意の不備こ科學的經營の缺陷こが不幸にして此の災厄を突現せるを見る、卽ち危險性貨物を頑健なる建物に集中したるも普通貨物を不安なる建物に保管せしこ是なり、而して前者は一大慘劇を惹起して人命及精神的損害を買ひ、後者は大倉庫を全滅の悲運に投じて物質上の大損害を招きたるなり、豈他あらんや。

二 普通貨物こ倉庫建築

普通貨物は之れを保管するに當りて多大の注意を拂ふを要せざるも、量に於て危險性貨物に十倍し營業上重要なるもの也、從つて之れが保管は最も安全なるべき倉庫に托せざるべからず。

今蔗分倉庫の中堅なる新式構造の倉庫に就いて災後の調査を綜合すれば、名は鐵筋「コンクリート」造こ稱すれごも其實なし又倉庫建築こして考ふるも徹底せる意義なしIHGは暫く措きAよりFに至る三棟について見るにFDEの如きは不完全ながらも其周壁は倒壞を免れて尙多少の抵抗力を殘しFの西妻及Cの北妻兩端壁体亦舊態を留めて上部を折落したる儘殘存し明かにGH二回の爆裂に際し相當の抵抗力を示せるは面白き事實なり、GHに在りては北側の一部を除きて四裂し南壁は河中に陷落せし程の慘狀を呈せるに係らず、F及Cの兩壁は尙餘裕ある姿を殘せしは其抵抗力の如何を見るべし、而してIの大爆發は次いで起れるなり、然らばGHの爆破力が東南方面に其威力を發揮せるに係らずDEの北壁すら殪す能はざりし理由は惹いてABCの南壁が必ずやIの猛烈激甚なる威力によつて倒壞せしこの推察を裏書するものにあらざるか、果して然りこせばF及Cの壁体の大破孔或は其妻の挫折はGHの襲撃よりはIの猛威によるこ考ふべからずや、何こなればH倉庫この界壁の北方に在りし柱が東北の方向に倒折しあるを見てHの爆發が此壁を西側に屈折せしめたる跡なきを證するものにして前後其威力の差實に甚しきことを知るに足る、殊に河中に墜落せるHの南壁はIの威力を加へられしこ見へ其護岸に平行せずして西端は南に寄りて(寫眞參照)沈沒しある如き、或はGの東妻が中段にて挫折されてFの壁に倚懸れる如きは亦以てC及Fの妻の柱が震力の來りし方面に懸垂せし理なりこ信ず。

斯くの如く考ふる時に於てA……F諸號の倉庫がGHの爆力に耐へたりこせば今少し構造上の堅實なる建築なりしなればIの威力にも遺憾なき抵抗を示せるこ同時にA……F各號は其勇姿を火焰の中に誇りたるべしこ確信す。

抑も鐵筋「コンクリート」造の建築構造は鐵骨構造の如く楯式建築にして柱は梁と協力して家屋の主体を形成し屋根、及壁は此等の柱梁の間隙を充塡して單一なる構体を造るものにして震災或は大火の際初めて其眞價を發揮するもの也、今蔗分倉庫を見るに、柱は鐵筋「コンクリート」造なるも屋根は木造なるか爲め之れを受くる必要より大なる持送を柱頭に有して恰も龍頭蛇尾の傾あり、而かも之れを直角に連絡すべき堅固なる梁桁のなかりし事は、頭大脚小の男が忽ちにして轉倒さるゝ如き結果を見たる所以ならずんばあらず。何となればＦＣの兩妻は側壁の背後に連絡支持せるが爲めに舊態を維持し得たるを見ても明かなり殊にＡの南壁Ｃの西側の如く可なりの長き壁は恰も木造の塀の如く大なる振動を蒙り振幅の大を自から招きて自滅せるが如き亦以て北部の煉瓦倉庫の兩壁が悉く倒れたると同一理に歸すべく、幸にして、ＤＣ及Ｆの側壁やＡＢＣの北側の柱が夫々妻及間隙切壁のために支へられ振幅の大ならざりしこと１の威力の同方面に大ならざりし爲めに依つて倒れざりしは察すべき也、果して然らば兩側の柱が夫々向合せに「鐵筋コンクリート」造の梁にて連絡しありたらば斯くの如き致命傷を蒙らざりし事を憶測するに難からず、況んや二番倉庫内の「コンクリート」大梁が柱と共に殘りたる適確なる事實なるに於てをや。

斯くして周壁の健在が其柱と横架材との結合連絡により保ち得られ屋上亦耐火屋根の構造により堅固に設計しありたりとせば庫内の原棉はＣ及Ｆの一部を燒きたるに止まりて大半は災厄を免れ得たる事確實なりしと信ず、例へばＤＥの如き若し屋上引火の因なくんば立派に其雄姿を誇りたりしなるべし、殊に陸屋根或は緩勾配とする事１の如くし妻の存在を必要とせざれば１の威力によりて壁の一部に破穴を穿たれしに過ぎざりしならん。

是を要するに周壁が耐火構造なりとするも屋根が可燃性にして且つ周壁と協力の効果なき構造に在りては震災の際破滅の運命を有するものとせざるを得ず、然らば如何に屋根を可燃失物にて掩ふたりとて無駄な譯にして震災と同時に大火の來襲するあらば全部烏有に歸すべし。

乍併此回の如き事變は稀有の災害に屬するものなれば左程迄堅實にするの要を認めざりとするか、そは甚だ遺憾なる質問なり、苟も新式構造を採用して其長所を發揚し得られざれば名實伴はずして何等益する處なくて終るべし、更らに考へざるべからざるは木造ならばいざ知らず此種の建築構造にありては一旦破滅せし後は之れが跡片付にも多大の困難を要す、修築ならば是を活用し得て費途も無用ならず却つて少額にて足らんも、之れが跡片付に多額の經費を要すとせば殆んど算盤に合はざるべし。

又平時の火災に際しては此の變則構造も可ならんとの質問もあるべし、乍併平時堅固なる倉庫を建てゝ貨物を保管するは非常の際に應ずるが爲にありとせば大火の際よく之れに抵抗し得べき程度に建設し置かざるべからず、殊に我國の如き木造建築の櫛比する都市に在りては小火と雖何時如何なる時に强風に煽

られて大火ニならざるも保すべからず、北區の大火の際には數尺の大材火焔を揚げて飛來せし程なり、此回の飛散物中に屋根木材の大材が加はれるを見て思半ばに過ぐ、而して屋上の抵抗之れに耐へずニせば遂に失敗に終るべく又猛火家を舐めて狂奔するの際は、風力に壓せられて來るを見る此の際輕易なる屋根被覆が果してよく其威力に抵抗し得るや否や。

斯く考へ來るニき徹底的耐火構造の有利有効なるは明瞭なる事實なり、而して之れが經費も差して多大なる譯に非ず、其利害を比較對照するニきは所謂損をして得を捕へるものに非ざるか否か、吾人は斯くの如く不完全なる鐵筋「コンクリート」造の名實伴はずして却つて不利を招く建築を賞讃する能はざるもの也。

更らに自火の際に於ける結果を論ずれば、益木造小屋を採用せるを否定せざるを得ず、自火の際早く燒失するの利を說く人あり乍然貨物倉庫の火災は木造家屋の燒失するが如き簡單なるものに非ず、其悠々ニして絕えず貨物の間より燃え昇る有樣は一種異樣の奇觀にして甚しきは數日の間火氣を絕たざる事多し斯くの如き遲鈍なる相手なれば之れが消防も氣を長くしてかゝらざれば得て利なし、勿論貨物の如何によるニ雖危險性貨物を除きては多くは遲鈍なるもの最も多量に存す、此等を保管する倉庫に在りては可燃性屋根は燒失せしむる丈損耗なり、盛んに火焔を放出せしめ周圍附近に心配を掛くる丈損失を免れず、此點は經營者の一考を煩はしたき主要點なり。

要するに普通貨物に在りては徹底的耐火構造の有利にして且經濟的なる事を認むるものにして堅固なる煉瓦造倉庫は之れが屋根を純耐火構造ニせる場合は之れに次ぎ、蔗分倉庫の如き變則なる鐵筋「コンクリート」は却つて其害を大にして利なきとを認むるもの也、煉瓦造倉庫にして舊式の石灰「モルタル」を使用したるものゝ如きは同倉庫會社にも早晩改築する豫定たりしなるべく一朝震災に際しては今回の如き結果を見るべきとは茲に論ずるの必要なかるべし。

ホ　危險貨物ニ倉庫建築

危險性貨物は、これを如何なる倉庫に保管すべきか、或はいふ、斯くの如き常に災害を惹起すべき貨物はこれを市外の廣濶なる地域に區劃貯藏せしめざるべからず、之れを市内の家屋櫛比の裡に保管貯藏せしめたるは監督官廳の一大失態にして一大責任なりニ。乍併大阪市の如き商工業によりて成立せる大都市に在りては、此等の危險物を別途に保管區劃するは到底實行し得べくもあらず、然らば之れが保管取扱者に甚大なる注意を拂はしめ此れが倉庫をして特別なる構造を採用せしむるは如何ニ是に於て危險物取締規則の必要ニ其倉庫建築の研究は一日も忽かせにすべからざるとニなれり。これ卽ち當局官憲が此回の災變に際し狼狽して之れが調査を開始し不日其公布を期するに到りたる所以にして、遲時ながら尚且つ爲さゞるよりは賞讃すべきとなり、乍併今回の災害に恐怖し其取締を嚴にして我大阪市の商工業を萎微せしむるは識者の採らざる所にして、充分なる調査研究を遂げざるべからざるは云ふをまたず、是が保管を爲すべき倉庫を如何すべき乎も亦重大なる研究事項ならざるべか

らず。

今蔗分倉庫の災後に就いて考察すれば、前項記述せる如くG號倉庫出入口に勃發せる過失が最も危險なりし貨物をして目醒しくも自發失火せしめたる也、營業時間中の出來事にしてしかも入庫運搬中の失策なり、而してG號庫内には引火性貨物充滿して恰も此の大失策を待ちつゝありし也、爆發は當然の成行にして必ずしも一仲仕を責むる能はざるものあり、何ごなれば其入庫中なりし貨物は東京に於て或は神戸に於ても發火せしものゝ同樣のものなりしが如し而して後者は僅少の損失に終りたるも前者は遂に一大災厄を惹起したりし也何ぞ夫れ不運なる。

G倉庫はH及I倉庫と一棟に建てられ且つ二個の界壁にて三分せしもの、東端に在りて床坪最も大なるもの也、全平面圖形は櫛形をなし東側壁は中央に一出入口を有し北側は各庫ごも一出入口を有す、南側は入江の護岸の上に基礎を置き屋根は腰折木骨石綿竪葺にして東側は腰折切妻形をなす。

G　四七、九八　腰折屋根(木造石綿竪葺)
H　三六、九〇　同　(同　上)
I　二七、八六　陸屋根(鐵筋コンクリート造)

採光は皆天窓によれり、換氣通風の設備A……Fに異ならず只Iに在りては特に鐵筋「コンクリート」造陸屋根とし「バラペット」の内部に兩樋を設け西妻は形平坦(寫眞參照)なりし也。

唯不幸にして本員は其重要なる陸屋根の構造不明にして詳細を知る能はず、附近に落下せる材料について充分調査せしも手掛なく、唯H倉庫間に鐵筋「コンクリート」造の大渠發見せるのみ幅一尺厚約二尺、七分丸鐵八本を有し兩端に持送を附着し二折して横はり居たり思ふに他の大渠及屋根床は爆破の際四分五烈して其舊体を失せしためなるべし、本倉庫設計者は其筋の質問に其鐵筋「コンクリート」造屋根なりし事を明言せる由なれば確かなる事實ごと認め得べし。

此の一棟三號はGより始め順次に爆發せるもの其各出入口部が開放の儘現場に近く倒壞しあり而して其他の周壁が凡て倒壞或は四散せる事實は偶々主要なる危險貨物が南側に堆積しありたるごと各扉開放しありし爲め出入口部のみ殘存せるなるを認め得べし、二個の境界の内西部のものは上部は屋上に突出してHの西妻を形成せしごとは明かなるも他の妻の如く煉瓦を充塡しありしが如し。

然らはG號の先づ爆破するや、屋上は飛んで散亂し四周壁体は分烈して倒壞するに至れり、只西面の界壁はH號庫内の空氣の抵抗力に差へらて却つて大破孔を穿たれ殊に上方は煉瓦部を破られたりしならん、而して第二回の爆破によりてI號に接する界壁は更らに破孔を穿たれしなるべけんも約五分餘を隔てしを見ればしかく大破孔には非ざりしなるべく或は出入口より襲ひしか。

最後にIの爆發起れり、これは四周上下總て堅固に打堅められありしごと庫内の容積の割合に危險貨物の量多大なりし爲めに最も猛烈に大爆破を遂げたるなるべき事推察に難からず、而して外は附近家屋の頽破に人畜の死傷を出し、内は南北の各庫を猛襲して遂に全滅せしめたるは各建築の薄弱なりしごと亦其威

力の度さを偲ばしむ。

今此等の經過を總合し前項陳述の被害倉庫の程度を參考として考ふればG及H號各庫の爆破は數多會社に損所を與へたれごもIの如き猛威を振ひ得ざりし事丈は至極明瞭なり、是に於てIかGHと同樣なる構造なりせば倉庫經營者の主意が初めて其有効の結果を擧げて今少し適切なる實物教訓を殘したるやも未だ知るべからず、されご事實は頗る甚大なる不幸を經營者並に市民へ分配されたる也。

以上の事實を綜合すれば明かに危險物の取扱に於て又危險物を收藏する倉庫の建築に就いて尙且つ明瞭なる教訓を殘せるを見る、

若し危險貨物が完全なる耐火耐震構造の倉庫に收藏したりこせば、自發の災害を惹起せざる限りは外來の災害に對して至極良好の結果を擧げ得べき也、乍併危險貨物が時に不慮の過失によるか或は不明の原因によりて自發の災厄を引起したる場合には此等徹底的構造の倉庫は却つて甚大なる不幸を釀すに至らん是に於て初めて周壁を堅固にして屋上を輕易なる耐火構造こするの止むなきを見る、又周壁の堅固は幾何の程度になすべきか或は周壁の更に周圍は幾何の餘地を殘すべきや等の問題は爆發物の量や各種事情の如何によりて一定の繩墨を建つる能はざるも此回の事實を一例こして參考に資するは無益に非ず。

されご此等危險物收藏の倉庫の周圍附近には必ずや耐火耐震構造の建物を以て包圍するの必要を見逃す能はず、過失當事者並に倉庫責任者がF倉庫の方面に逃れて死を免れ、蔗分橋附近に露出せし住家見物人が慘害を蒙りたるを見て思半ばに過ぐるものあり。

要するに此種の災害を縮少せしむる主要件は他なし此等貨物を取扱ふべき當事者及責任者が家畜を養ふが如き細心の注意こ器械を扱ふ如き科學的理解こを必要こするものにして法令を以て之れが取締を嚴にするは第二次の要件にかゝる、加ふるに倉庫經營者及火災保險業者が更らに一段の覺醒を呼び起して以て愚者の誨ふべからざるを誨ふに至らば大事なきに到らん。唯夫れ「人事を盡して天運を待つ」こかや誠實なる失策は天も或は恕すべし相率いて怠慢を之事こするに到らば災厄は更らに猛烈に襲來すべき也。

第四章　結　論

蔗分倉庫に於ける今回の大爆發事件に就ては吾關西建築協會の參考資料こすべき調査材料尙頗る多し、乍併之れを詳細本誌に發表するの餘白なきを以て茲に其最も主要なる部分を採錄して災害調査の報告書こせるは蓋し本委員會の一致せる意見に據れり。此空前の大事件に關する報告書こしては他日機を得て詳細發表の期あるべしこ信ず。

要するに、本事件は異常なる災害を大都市の一部に勃發して不幸なる慘禍を市民の頭上に加へたりこ雖、其影響する範圍より視、其齎らせる結果より打算すれば、天意の教戒が其處に重大なる暗示を市民に與へたりこ推察するを得べし、何こなれば往年北濱の一角に爆發事件の突發するや、世上の注目を惹きた

るにも係らず、慘禍の少なりし爲か、殆んど毎年ならずして忘れられたるに近し。次いで大正三年の夏、暑熱の酷烈に因り安田倉庫の保管せる「セルロイド」は轟然爆發して、同倉庫の一部を燒き、市民に一驚を喫せしめたりしが、幸か不幸か、收藏貨物の損害は多大なりしに係らず今回の如き慘害に到らずして止みたるため、折から歐洲戰亂の勃發に際會したる爲め滿都市民の注意は寧ろ彼に集注して此は忽ち忘却せられぬ。亦最近に於て横濱市に發生せる爆發事件の如きは尚吾人の記憶に新たなる所なれども尚市民の注意より除外せられたり。而して今回の大災厄は起れるなり、是に於て市民の驚駭は言語に絶し、倉庫當業者の不注意を責め、保險業者の迂滑を指摘し、更に府市當局者の失態を絶叫するあり、惹いて市内到る處危險貨物の保管收藏せらるゝに戰慄して之れが取締規則の急設を要望するに到れり。斯くて、市民の驚倒は却つて其の覺醒を促し、一面各自の印象の深刻にして各自の危險物品に關する智識を喚起し、一面に府當局者此等危險貨物の取締規則の調査を開始したるは市の將來にとりて如何ばかり幸福なるべきか、殊に倉庫會社及保險會社の得たる高價なる教訓は求めんとして必ずしも得らるべからざる種類に屬す。

而して今回の災害が勃發の眞因に在りては必ずしも一仲仕をのみ責むる能はざると、大阪病院燒失の一看婦をのみ責むる能はざるに等し。又倉庫當業者や、保險業者や、市府當局者等の失態に依るとするも亦必ずしも責むる能はざる理由なきに非ず何となれば斯の如き重大異常の災厄は其結果の慘烈なるに非ずんば誰か此の大危險の暗點の裏に包藏せられたるを推知して覺醒の實を擧げ得べき、若し夫れ最も責任の重大とせらるゝ倉庫當業者が平常危險貨物を取扱ふ爲めに如何に危險を犯して從業しつゝありしかを思ひ、又如何に之れが保管について苦心しつゝありしかを推察する時に於て必ずしも倉庫業者の失態を特に責むる能はざるべし、されど不幸にして科學的智識の缺陷が竟に此の災厄を産むに到りては、結局我國社會の全般が科學的智識の缺乏を實證するものに外ならず。知らず此等無識の仲仕人夫或は輕率なる看護婦の存在する社會に於て過失の隨所に行はるゝ場合に確かに之を未然に防止し得べきや否や。知らず世の科學的智識の專門家が此社會的缺陷を了知しつゝ果して幾何の警告を市民の頭上に加へたるや否や。是に於て吾人は此等の不幸なる災害を多少なりとも防壓し得べき献策として、徹底的耐火耐震及び建築を推賞すると同時に、完全にして永久的の都市建築法規や、適切なる危險物取締規則の實施勵行を見んことを要望して止まざるものなり、而して社會の識者並に先覺者が進んで耐火耐震建築の最も必要なる所以を稱道して一時的可燃性建物に滿足せる時代を過去に葬らしめんとに努力せらるゝを期待する事大なり。

社會の世相は素より複雜にして多方面觀を有すると同時に幾多の犧牲を拂ふても大多數の幸福安寧を期劃するの必要なり、而して永遠なる安寧は遠大なる計畫に據らざるべからず。

禪家の悟道に「生あるものは必ず滅し、形あるものは必ず碎く」とあり是や消極的觀念の歸一する提唱なるべしと雖も近代

都市としての我大阪市が商工業の大都市として果して消極的方策に將來を託して可なるべきや。

今や此一大事件の齎せる結果は各方面に亘りて深甚なる印象を刻銘せるの時、大阪市にては都市研究調査會の設立あり、永久的都市經營の方策について積極的研究を開始せるあり必ずや近き將來に於て根本案の樹立せらるべく則ち主要なる街路の兩側は是非徹底的耐火耐震構造の建築を櫛比せしめて以て一種の防火帶を構成し、都市の整然たる美觀を發揮すると同時に災害を小部分に限らしめ、各倉庫會社各工場會社等の建築をして一定の方則に從はしめ、危險貨物の貯藏に就いても適切なる一定の規定に依らしめ、可燃性建物の存在を縮少せしむるに至らば眞に消防機關の改善と相俟つて斯くの如き災厄の再來を杜絶せしむべき理想を實現し得べしと確信す。

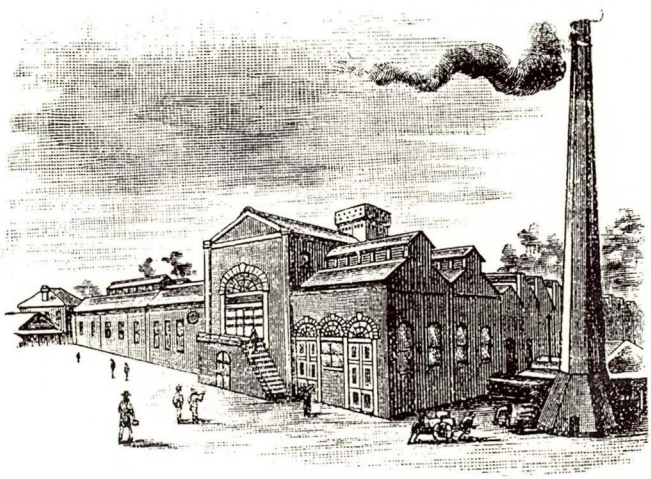
斯くの如き理想は蓋し必要より迫られたる當然の要求にして倫敦、巴里、伯林等の大都市が着々實行しつゝある事實なるを思はゞ之れを空想として等閑視し去るべきにあらず、殊に大阪市の如き經濟並に生産の大都市に在りては避け得らるゝ丈、不生産的建築を排除し行かざれば將來に於て益此等の事件の襲來を蒙り、其度毎に甚大なる苦痛を經驗することゝ言を待たず。若し夫れ年々歳々疫病の流行地として有名なりし過去の大阪市が大規模の水道計畫成りてより如何に衞生的都市としての價値を增大せしかを想ひ、轉じて往年二度の大火を經驗したる後、市府當局者の決斷ある所置によりて市區の改革を斷行し得道路の擴張交通機關の市營等着々効を奏し來り他市に率先して改良の實を擧げつゝあるを視れば、更らに一歩を進めて都市經營の根本問題より出立して幾多の災害を根本的に絶滅し得ると決して難事に非ざるべきを信ず。

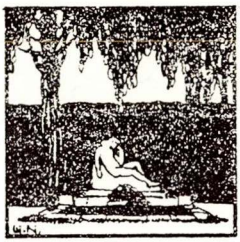
乍併、たゞへ當局者の手腕に俟つべきもの多大なりとするも社會一般の歸向が覺醒の域に一歩を進め、相協力して努力せざれば到底完全なる或効は望むべからず、今や監督官廳は此度の災害に鑑み危險物取締規則を發布せり、又市にては都市經營の第一歩を着手するあり。卽ち大阪市の安寧と改善は既に嚮ふ所を定めたるものにして此の成果を觀ん事一に懸りて市民協力の努力に待つもの、實に多大なるを知るべし、

終りに臨んで吾人は更らに徹底的耐火耐震構造の有用なるを切言す、乍併鐵筋「コンクリート」造の名に安堵して其實の如何を究めずして多大なる損害を招きたる如きは吾人の採らざる處なりと同時に市民一般が鐵筋「コンクリート」造の眞價値を知らずして所謂「羹に懲りて膾を吹く」の譬の如く鐵筋「コンクリート」造建築の將來を呪ふものあらばそは實に憂ふべき現象なり今日耐火耐震構造としては鐵筋「コンクリート」造か鐵骨煉瓦造かに優るものあらず。而して今回の如き特別なる事情の下に變則なる結果を見て此新構造法の前途を封するが如きあらば識者の一考を煩はすべき問題なり。須らく其因を究め果を識りて以て將來を計るべきなり、工場こいはず倉庫（危險物倉庫は特に考慮を要す）こいはず銀行、會社、商店等の各建築が今一歩を進めて耐火性及耐震性の抵抗力を增大するならばたゞへ一朝不慮の災厄突發するも怖るゝに足らざるべし、今回の災厄に就い

て見るも類燒の厄に遭ひたる建築、倒壞頽破を蒙りたる建築が主として木造建物なりしとを思はざるべからず、例へば蔗分小學校水上署等の損害は多額とは云ふべからざるも其苦痛は甚大なり、況んや大阪電燈製作所が數十萬圓の損害を蒙り折角の事業も一頓挫を來したる如きは被害者側より見て將來の參考とすべからずや、若し今回の災厄が人爲的ならずして大地震の如き天災の突發せしならば如何、徒に安治川沿岸の損害に止まらざるべく又損害の賠償を提供すべき相手なくして天道是乎非乎の歎を視んと必せり、識者の猛省を乞ふ所以なり。

是を要するに、本事件は前代未聞の大災厄にして關係者並に大阪市民の一部が蒙りたる損害は甚大なるに同情に堪へざる所なり。乍併此大事件の影響は其範圍頗る多く將來の大阪市にとりては數多の教訓と暗示とを得たるものにして事實に於て危險物取締規則の發布を視、且つ關係當業者の面目は更に一新せらるべく市民の覺醒は益良効なる結果を産むべし、斯くして今回不慮の災厄に遭遇したる不幸なる犧牲者は以て瞑すべき也、殊に我建築界の與へられたる資料は多大にして本稿のよく盡す處に非ず、一言犧牲者の冥福を祈り負傷者の健在を祝し同時に關係當事者當局者の苦衷を瞭とし其發奮努力によりて將來の回復發展を期し、進んで大阪市民の安寧幸福を祈るものなり。





會報

序

大正の御代數ふればはや六歳、甲寅の夏歐洲の大戰亂勃發してより既に三年、今や世界の國てふ國を擧げて此の大破瀾の渦中に卷き込まれつゝ前途茫々亦漠々。何人か果して此大慘劇の大團圓を豫言し得るものぞ。

聖代愈隆昌一度山東の一角に砲火飛び、南洋の邊海に砲煙擧りたるも日昇族の躍る處亦敵影なく太平洋の波打寄する峯に平和の浦風靜かなる、實にや武威八紘に振ひ日東帝國の前途は淨々たる春の海に似たり。

文武は並び進まざるべからず。武勳赫々たる帝國の反面は如何一等國の內容果して如何大八洲を輝らす文化の光は兩洋の魚鼈を警かし得るや否や。外交に內治に科學に文藝に教育に宗教に哲理に音樂に、はた亦商業界の前途や工業界の現狀や思ひ半ばに過ぐるもの多々慨れ然り。

吾建築界の趨勢亦一層の努力を要す、一言以て之れを掩へば「混沌たり焉明治聖代の建築界は所謂過渡期として活動したるも汲々乎として泰西建築術の輸入吐嚼に努力したるの時機也、今や舞臺は一轉しつゝある也回轉しつゝある也否急轉しつゝある也されど大勢の歸向に着眼しつゝあるの識者を除いては多くは無我無中也只管過去の「スケール」を以て現在を測らんとす唯是明治後期の順潮に舟を放てる也而して舟中の棹夫多くは夢を讀いて太平を說く。

關西の建築家は多くは駄眠同舟の水夫と異なるなかりしやも知れず、世に「打てば響く」の語に眞理ありとせば關西の建築家は實に太平の春夢を驚かされて醒めたる也東の岸を洗ふ波は西の岸をも打つ一波起りて萬波伴ふとかや、況んや舟中の水夫をや。

醒めたるものは覺らざるべからず、大正の建築界の前途之を如何にすべき乎、知らず建築家は自己のために建築を建てつゝ滿足すべきか否乎、建築家はあまりに目前の事務に吸々として自我的小天地に跼蹐しつゝあるにあらざるなき乎、今須らく眼界を大にして對社會的に活路を求むる要なきや否や進んでは國民を指導して國家的建築の建設に努力すべきに非ざるか、斯くして建築家は自側を離れて社會と接觸し國民と同化して以て大正の建築を建設するの急務を認めずや、果して然らば同志の糾合を謀り意思を疏通して各自の小我を捨て一致團結據つて以て社會を指導すべき團体の組織は豈徒事ならんや。

機運は自から來る。蓋し天意なるなからんや關西の建築家は東風吹く丁巳の二月以來響に應ずる琴線の如く今更らに過去を顧みて前途の發展を期するに一致せり、斯界是より多事ならざるを得ず、斯くして吾關西建築協會は櫻花笑まんとする三月下旬呱々の聲を擧ぐるに至る。

本會の創立（前記）

關西建築家の有志は大正六年の二月以來春夢閑眠漸く醒めて各々期する處ありしが談すれば斯界の前途を語らざるなし、さればにや片岡波江兩氏の名によりて一片の檄文飛ぶこと五十二枚期せずして北區魚岩樓に會する建築學會正員の關西在住者實に三十有九名要は關西の建築家の團結を謀り相互の意思を疏通して建築界の向上發展を期するに在り。依つて五名の委員を擧げて創立案を委囑するに至れり。

當日會合の案內を發せし氏名左の如し

○は出席者、◎は創立委員（イロハ順）

一井九平　◎池田寅
○石田信夫　○今林彥太郎
伊部貞吉　○原田俊雄
○濱野三郎　○橋本勉
○長谷部銳吉　○德永庸
○大林賢四郎　○小笠原銅
○置盛章　○渡邊節
◎片岡安　河合浩藏
○河合幾次　○加護谷祐太郎
○葛野壯一郎　○金剌森太郎
龜岡末吉　○田中勸
○田中大作　○田中豐輔
◎武田五一　◎宗兵藏
◎波江悌夫　○中西甚作
○永瀨狂三　○內藤太郎
○村井三吾　○牛村喜勇

○野村一郎　久保田小三郎
山本鑑之進　○山田靜
○吉本久吉　○松田亥作
○松本禹象　藤田旭之助
舟橋喜一　藤井厚二
○小林悉　天沼俊一
○佐藤彰美　○佐藤四郎
○北村耕造　○木子七郎
○光安梶之助　◎設樂貞雄（當日欠席）
本野精吉　瀬戸文吾

創立委員五名は三月十七日夜會合の結果有力なる團体を組織して親睦を計り併せて建築界の興隆に就き各自の意見を交換し前途の方針を確立せんため次の會則案を作成之れを諸氏に配布し更に會合して一同の同意を得んとす

議案

會名　本會を關西建築倶樂部と稱す

目的　會員相互の親睦を計り併せて建築界の興隆に就き常に各自の意見を交換するを以て目的とす

會員　當分建築學會正員の關西在住者を以て組織す
但し會合の場合には建築學會一般會員をも招待する事なるべし

會合　毎月（十三日）一回例會として茶話會を開き春秋二季に大會を開催す（講演會及晩餐會）

役員　理事五名を選擧し庶務會計を司らしむ
理事の互選により理事長を選定す、役員の任期は一年とし内三名を半期毎に改選す

本會の創立（後記）

大正六年三月三十日創立委員の檄文により創立總會を大阪ホテルに開く

出席者左の如し

井尻艮雄（三月來阪）　池田寶
石田信夫　今林彦太郎
伊部貞吉　原田俊雄
濱野三郎　長谷部鋭吉
德永庸　大林質四郎
小笠原銅　置盛章
片岡安　葛野壯一郎
金剌森太郎　田中勘
田中大作　田中豐輔
武田五一　宗兵藏
波江悌夫　永瀨狂三
村井三吾　牛村喜勇
山本鑑之進　吉木久吉
松本禹象　藤田旭之助
舟橋喜一　藤井厚二
小林悉　佐藤彰美
佐藤四郎　木子七郎
光安梶之助　設樂貞雄
本野精吉　瀬戸文吾
日高胖（來阪中にて出席）

片岡安氏押されて座長となり議案をして左の會則を議了し引續き役員の選擧を行ひ左の五名當選す

會則

會名　關西建築協會と稱す

目的　我國建築界の堅實なる發展を期するに在り

會員、當分建築學會正員の關西在住者に限る
但し會合の場合には一般有志にも及ぼすことあるべし

會合、毎月十三日例會を開き春秋二季大會を催す

會員、毎月金五十錢とす

役員、理事長一名、理事四名を選擧す、役員の任期は一年とす、理事の改選は半期毎に半數とし引き續き再選するを得ず

役員

理事長　片岡安㉟
理事　武田五一㉜　池田寶㉕
葛野壯一郎㉓　宗兵藏⑰
次點
設樂貞雄⑰　波江悌夫⑰

當日武田五一氏の發議により十年前より經續し來れる關西建築家の會合なりし「オキナ」會を解散し本協會に合併せん事を附議し舊會員一同の贊成にて直ちに解散し其所有財産たりし金四十三圓〇三錢を本會に寄附することに決議せり

尚葛野壯一郎氏の發議により先月二十七日會合の折參會並びに招待を受けたるものは定額を擧金し片岡、波江兩氏の名によりて本會に寄附する事を附議し直ちに一同の贊成を得て擧金は葛野氏に委托せられたり

第一回例會

日時　大正六年四月十日（都合により今月に限り十日とせり）

會場　北區堂島中二丁目中央電氣倶樂部

會費　一圓（但し晩餐會を開く）

議題　本會の着手すべき事業

出席者
池田、井尻、今林、伊部、原田、濱野、長谷部、德永、大林、小笠原、置塩、片岡、加護谷、葛野、吉木、田中(勘)、田中(大作)、宗、園部、波江、中西、内藤、村井、牛村、野村、松田、松本、舟橋、藤井、佐藤(彰)、佐藤(四)、北村、木子、光安、設樂、瀬戸、以上三十六名

記事

片岡氏座長席に就き將來本會の執るべき方針に就き希望を述べ理事に於て研究すべき事項及會の事業として建築法規の研究經濟と都市建築の關係其他に就きての感想を敷衍ぜり會員波江氏は本會の執るべき手段方法に就き水曜會有志十一名より成る會合の研究の結果を發表し一同の注意を喚起ぜり

理事は更らに愼重審議の要を認め役員及び會員十名を以て特別委員會を組織し着手すべき本會の事業に就きて研究する事を提案し一同贊成委員の選定は理事に一任ぜり

特別委員左の如し

濱野、德永、加護谷、波江、村井、牛村、野村、木子、光安、設樂

尙會費の徵集は出席の際に行ひ缺席會員は適宜集金郵便其他の方法に依る事とせり

特別委員會（附理事會）

日時　大正六年五月三日
會場　大阪公會堂建設事務所樓上
出席者
理事長　片岡
理　事、武田、宗、葛野
委　員　設樂、村井、加護谷、牛村、木子、濱野、德永、波江

記事

午後四時半より理事會を開き議案について協議し同六時より委員會に移れり

武田理事座長に推され議事の進行を計る議題は大体方針として現在緊急と認むるものより漸次に調査の歩を進むべきか又は調査の組織的部門を立つるかを先決問題とせり後者は卽ち池田案にして之れを次の四部門に分たんとす

一、建築行政に關する部
二、建築經濟に關する部
三、社會問題に關する部
四、雜部

右兩者に就き審議の結果緊急と認むる事項より漸次之れを委員若干名に附托して調査の歩を進むる事に決定し次いで理事より提出の緊要事項及委員より提出ぜる事項に就き採決し全會の一致を得たるもの次の如し

①現行大阪府建築取締規則の改正
②都市建築法規
③經濟上より見たる建築材料
④建築施工上の改良
⑤仕樣書及契約書の案
⑥下級民住宅問題
⑦建築に關係する時事問題
⑧建築從事者及職工に關する問題
⑨建築に關する迷信及傳說の調査
⑩建築に關する報酬問題
⑪建築士法案
⑫都市住宅

以上十二の項目に就き更に審議し第一次着手の研究事項として左の五項を選定ぜり

①現行大阪府建築取締規則の改正
②仕樣及書契約書案
③下級民住宅問題
④建築に關係ある時事問題
⑤建築に關する迷信及傳說の調査

尙ほ秋季大會準備委員を設くるを心要と認め選定する事に決定し更に以上の各項に對し左の三規約を決議ぜり

一、委員は理事會にて選定する事
二、委員は辭する事を得ず
三、委員會は毎月一回以上會合し其成績は毎月の例會に報告せしむる事

第二回例會

日時　大正六年五月十二日
會場　中央電氣倶樂部
議題　特別委員會の經過報告及審議
出席者
片岡、葛野、池田、吉木、藤田、瀨戸、設樂、光安、佐藤(彰)、小林、大林、原田、中西、山本(治)、園部、本野、小笠原、山本(鑑)、牛村、木子、石田、德永、濱野、永瀨、波江、置塩、松田、田中(勘)、松本

記事

葛野理事座長席に就き片岡理事長より委員會の經過を報告し十二項目は全部是認異議し依つて緊急事項五項目を第一次調査として着手する事を謀り字句の修正の後可決ぜらる

一、現行關西の建築取締規則の改正
二、仕樣書及契約書　案
三、細民住宅問題
四、建築に關する時事問題
五、建築に關する迷信及傳說の調査

六、秋季大會の準備
是に於て各項目を其順番に依りて各部委員會を組織するに決し委員の選定は會員の希望を徴し理事會之を適宜按配する事を承認し理事は別室にて臨時理事會を開き當日の出席者の希望により左の如く各部委員を指名せり
第一部委員（現行關西の建築取締規則の改正）
吉木、藤田、瀨戸、設樂、光安、佐藤（彰）
小林—主査野村
第二部委員（仕樣書及契約書案）
大林、原田、中西、山本（治）—主査武田
第三部委員（細民住宅問題）
園部、本野、小笠原、山本（鑑）牛村—主査片岡
第四部委員（建築に關する時事問題）
木子、石田、德永、濱野—主査池田
第五部委員（建築に關する迷信及傳說の調査）
永瀨、波江、置塩—主査葛野
第六部委員（大會準備委員）
松田、田中（勤）、松本—主査宗
尙各部委員會は本日の欠席者をも機會と希望とを待ちて便宜加入せしむる事を決議し以上議了後各部委員は夫々打合をなして隨時散會せり

第三回例會

日時　大正六年六月十三日
會場　中央電氣倶樂部
議題　各部委員會報告及重要議事
出席者
宗、池田、葛野、片岡、木子、牛村、佐藤（四）田中（勤）、久保田、瀨戸、小笠原、佐藤（彰）山本（鑑）、長谷部、吉木、今林、中西、園部、原田、松田、加護谷、濱野、波江、本野、石田、光安、大林、德永
記事
宗理事座長席に就き各部委員會の報告を順次聽取する事として各部主査或は委員に於て夫々經過及調査要領の報告を爲し且夫々希望要求する處あり是より先き理事は理事會を開き協會の重要案件に就き協議する處ありしを以て次の諸項を提出し一同に謀らんとし理事長より各項に就き說明ありたり
一、第一部委員に二門を設け甲は關西の建築取締規則の改正を研究し乙は根本的建築條例の研究を開始するの案
二、第四部委員會に二門を設け甲は專ら災害の調査に從事し乙は主として社會問題に就き調査をなすの案
三、雜誌を發行して內は本會の事業を補助し外に向つては本會の事業を紹介し進んで社會との接觸を圖らんこと刻下の急務なるを以て此際之れが調査委員を設くるの案
四、會員增加の案
五、定款を起草して本會の基礎を確立せんとするの案
以上の提出案は會員一同の希望する處なりしも之れが實行に就き多少の異見あり審議の結果大体の贊同を得（三）（四）（五）は理事會の調査に一任し（一）は原案通確定し片岡、池田兩氏は乙門委員に加入し兩門共野村主査の指導に賴る事となり（二）は主査に於て適宜委員を增加し且按配する事となり尙は片岡理事長より大阪市都市改良調査委員會に於ける議事に就き報告あり同會に於て我建築協會へ宛都市計畫の一大項目たる「都市建築條例の調査」を一任したき議に關し內諾を與へたる旨を述べ一同の贊否を問ひ結局滿場一致之を快諾せりかくて右重要議事の審議を主として議了せるを以て各部委員會に關する質疑は次回に是を謀る事としたり

特別理事會

日時　大正六年六月二十一日
記事
第三回例會に於ける決議により會則の起草會誌の發刊、役員及會員の增加、編輯員の任命につき協議し會則の起草は池田、葛野理事之に當り會誌發行に關する調査は片岡理事長及武田理事に委托し尙其他の事項に就き意見の交換をなせり
出席者
武田、宗、葛野、池田（理事）片岡（理事長）

第四回例會

日時　大正六年七月十三日
會場　中央電氣倶樂部
議題　會則及細則案の審議
出席者
葛野、宗、池田（理事）片岡（理事長）
波江、內藤、木子、佐藤（四）、濱野、藤井
井尻、今林、金剛、牛村、大林、加護谷、
德永、田中（勤）光安、長谷部、石田、中西
吉木、瀨戸、設樂、佐藤（彰）一井、小林、
前田、河合（幾）、野村、橋本、舟橋、原田

置盛、小笠原、計三十六名

記　事

午後六時より理事會を開き午後七時より例會を開く宗、理事座長席に就き先づ各部委員會の報告あり次いで今回提出の會則案を審議す（會則及細則に關する書類は豫め會員に配布し置きたるものにして將來に於て之を定款及會則に變更改訂せんとするものなり）

議事に先つて理事會は第一部乙門委員として左の四名を追加指名せり置盛、濱野、吉木橋本

尙第六部委員會は秋季大會に關する準備に就き研究の大要を了り今秋十一月十一日（日曜日）を以て期日とし天王寺公會堂を講演會々場に大阪ホテルを晩餐會々場と決定せるを以て一先づ之れを解散し更に改めて第六部委員全部を以て大會準備委員會を組織する事に決定せり

會則案確定協議

「第一條より順次協議する時間なきを以て一括して討議する事とせり

內修正したる條項左の如し

第四條中　會員たらんと志望する者は會員五名以上の紹介を以て入會志望書及履歷書を本會に提出し「理事會之を詮衡し其諾否は例會に於て議決す」に改む

第六條中　「物件書」を「物件」に改む

第十二條中　役員の任期に「二年」とす理事の改選は「每年」半數とす但し引續き重任することを得ずに改む

第十五條中　委員長及委員は會員中より理事會之を指名し「委員長は互選とす」に改む

第二十條中　末尾に「一時金百圓以上を納むるものは爾後會費を免除す」を加入す

以上の修正により會則全案可決確定せるを以て理事の補缺選擧を行ふ事に決したるも創立總會に於て同點にて落選せる設樂、波江兩氏を便宜上推選するの動議成立し直ちに可決確定せり

尙細則案は之を次回に讓る事とし十時半閉會せり

臨時役員會（附編輯會）

日時　大正六年七月二十三日

出席　片岡、武田、葛野、池田、波江、佐藤

記　事

一、役員の分擔を左の如く定む

主計　池田

主記　波江

編輯　葛野、武田、宗

（編輯補　佐藤（四）、本野、波江）

二、會誌は「關西建築協會雜誌」と名づけ菊版約七十頁位とし第一號は九月上旬發刊の豫定とし各部詳細に就き協議する處あり

三、臨時例會を來る二十五日に開催し細則の審議を一日も早く議了したき事

四、會員の增加を第一着手とし紹介入會の手續を進んで取計ふ事

臨時例會

日時　大正六年七月二十五日

會場　中央電氣倶樂部

議題　細則に關する審議

出席者

池田、葛野、波江、片岡、今林、佐藤（四）、德永、原田、立木、光安、小林、瀨戸、置盛、山本（鑑）、內藤、牛村　計十六名

記　事

片岡氏座長席に就き細則案審議をなす（本夕は天神祭日に相當し會員に支障多く出席者少數なれば議決をなす事能はざるを以て修正協議をなせり）

本夕の協議にて修正せんとする條項左の如し

第三條中　志望書を希望書に各贊助員申込綴を申込書綴とし末尾「時々之に記載加削す」を削除し「但付くことなすこと」

第四條中　「各自公德を守り修養に勉め」を削除し「相互の」を加入、「會員志望書」を削除し「入會希望書」と改むこと

第十二條中　「金三圓」に「以上」を追加する事

第十三條中　第四行に「理事會の決議により」を加入する事

第十四條中　委員長及委員は「理事會の同意を經るにあらざれば辭することを得ず」を加入すること

主査は「當該委員會を經るにあらざれば辭することを得ず」を加入すること

第十六條中　「會員の半數以上」を「會員數の三分の一以上」と修正「例會の講演會は」を「例會には場合により」と改正すること

第十八條中　「不德義なる建築家の排斥」を「建築家の品位向上」と修正

「不德義なる請負者の撲滅」を「建築請負業の指導改善」と修正すること

第二十一條中　「會員數の三分の二以上」を「會員數の二分の一以上」と修正すること

第二十二條中　「本則は」を「本細則は」に修正すること

右細則案協議終了後座長より七月二十三日開會せる理事會及編輯會の報告をなせり

閉會午後十時

（以下次號）

●第一集 第一号 掲載広告一覧（掲載順）

渡辺建築事務所
河合幾次建築事務所
河合浩蔵建築事務所
神戸建築事務所
辰野・片岡建築事務所
宗建築事務所
木子建築事務所
茂・野村建築事務所
橋本料左衛門
大倉組大阪支店土木部
大林組
竹中工務店
長瀬兵馬
久保田工務所
山本鑑之進工務所
山中建築部
鴻池忠三郎
木村建築部

清水組大阪支店
清水福太郎
須賀商会
松尾和助商店
米国貿易会社
大阪窯素
斎藤省三営業事務所
桜セメント
みよし組大阪支店
高田商会
大阪煖房商会

關西建築協會細則

第一條　本會ノ事務所ハ當分東區今橋一丁目十一番地ニヲ置ク

事務所ノ變更ハ經費ニ關係ナキ場合ニ限リ理事會之ヲ專行スルコトヲ得

第二條　支會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第三條　本會ハ役員名簿、職員名簿、各部委員名簿、會員名簿、各賛助員名簿、會員履歷書綴込、會員希望書綴、各賛助員申込書綴、財產記錄簿、會計簿、會費收納簿、入會金收納簿、寄附金記錄簿、寄附物件記錄簿、賛助費收納簿、本會記錄、本會日誌、理事會記錄、會員照考錄、各賛助員照考錄其他必要ナル書類ヲ調製シ之ヲ事務所ニ備ヘ付ク

第四條　會員ハ本會ノ目的ヲ遂行スルタメ相互ノ親睦ヲ計リ知識ヲ交換シ協同一致ノ態度ヲ保持スベシ

第五條　特別賛助員及普通賛助員ノ申込書ノ樣式ハ別ニ之ヲ定ム

第六條　會員ノ除名ハ脫會ニ勸告ニ應ゼザルトキニ限ル

前項ノ規定ハ賛助員ニ之ヲ準用ス

第七條　會頭副會頭ハ常分之ヲ欵ク

第八條　理事會ハ理事長及理事ヲ以テ組織シ理事長其議長トナル

理事會ハ毎月一回以上隨時之ヲ開ク

理事會ニ要スル費用ハ本會ノ負擔トス

第九條　役員ノ選擧ハ無記名投票ニ依ル但シ理事ニ付テハ連記トス

同數ノ投票ヲ得タルモノ二名以上ナル時ハ年長者ヲ上位者ト看做ス役員ハ理事會ノ同意ヲ經ルニアラザレバ辭スルコトヲ得ズ

第十條　役員ニ缺員ヲ生ジタルトキハ之ヲ選補スヘシ

選補セラレタル役員ノ任期ハ前役員ノ殘期間トス

第十一條　主記主計編輯事故アル時ハ理事會ハ役員中ニ於テ臨時代理ヲ定ム

第十二條　編輯補ハ當分參名トス

書記ハ當分參名トシ月手當金參圓以上ヲ給ス

第十三條　委員會ハ毎月一回以上隨時之ヲ開ク

委員會ノ經過ハ委員長之ヲ當該委員會記錄ニ記載ス

委員會ニ要スル費用ハ自辨トス但シ理事會ノ決議ニ依リ其全部又ハ一部ヲ補給スルコトアルベシ

第十四條　委員長及委員ハ理事會ノ同意ヲ經ルニアラザレバ辭スルコトヲ得ズ

委員長ハ當該委員中ニ於テ主査ヲ指名スルコトヲ得

主査ハ當該委員會ノ同意ヲ經ルニアラザレバ辭スルコトヲ得ズ

第十五條　例會ハ十三日ヲ以テ定日トシ午後六時ヨリ十時ニ至ル

但シ土曜日、日曜日又ハ祝祭日ニ當ルトキハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更ス

例會會場ハ當分北區堂島中二丁目九番地中央電氣倶樂部ヲ以テ之ニ充ツ

第十六條　例會ノ議決ハ會員數ノ五分ノ二以上出席スルヲ要ス

第十七條　大會ニ關スル規程ハ別ニ之ヲ定ム

第十八條　本會ノ調査研究スベキ事項大要左ノ如シ

一、建築法規ノ制定及改正
二、建設計畫工事規程
三、建築設計書類標準
四、建築ニ關スル災害
五、建築ニ關スル時事問題
六、都市計畫
七、細民住宅ノ改善
八、建築教育ノ更新
九、建築思想ノ普及
十、建築經濟ニ關スル諸說及式事
十一、建築經濟ニ關スル係說及式事
十二、建築職工ノ指導改善及救濟
十三、建築家ノ品位向上
十四、建築諸業ノ指導改善
十五、建築諸業ノ指導改善

第十九條　會誌ノ發刊ハ當分隔月一回トス

第二十條　會費ハ前納スベキモノトス

會費ハ例會會場ニ於テ主計ニ之ヲ月賦分納スルコトヲ得

主計ハ例會ニ出席セザル會員ノ未納會費ヲ集金郵便ニ依リテ分收スルコトヲ得

第二十一條　會則ノ變更ハ會員數ノ二分ノ一以上ノ出席セル例會ニ於テ出席會員ノ三分ノ二以上ノ贊成ヲ得タル場合ニ限ル

第二十二條　本則ハ例會ノ決議ニ依リ之ヲ變更スルコトヲ得

本誌及廣告料定價表

本誌	册數	定價	郵稅
	一册	金參拾錢	貳錢
一箇年六册	金壹圓八拾錢		拾貳錢

廣告料	種別	金額
	半頁	八圓
	一頁	拾五圓
裏表紙表		貳拾五圓

大正六年九月十二日印刷
大正六年九月十五日發行（毎月壹回十五日發行）

發行兼編輯人　大阪府東成郡古市村大字森小路六百五十二番地　山本辰次郎

印刷所　大阪市西區土佐堀四丁目十二番屋敷　合名會社三有社

發行所　大阪市東區今橋一丁目十一番地　關西建築協會　電話本局二二四一番

大正六年九月十四日第三種郵便物認可
大正六年九月十五日發行（毎月一回十五日發行）

コルクタイル
コルク粒板

「專賣特許第三〇三七四號」

床張の優秀材料

特長

(1) コルク獨特の彈撥性あるを以て踏み心地よく音響を發せざるが故に衞生的なり
(2) コルクは他の床張材料の如く滑べる憂更になし故に床張用として安全第一なり
(3) 冷熱共に絶緣の効あるが故に夏季は涼しく冬季は冷氣を防ぎ且つ保熱の力あり
(4) コルクタイルの耐久力は彈撥性あるを以てリノリユームに比較し二倍以上なり
(5) 又他の寄木床張の如く隨意の意匠を施し得て而も價格遙に寄木床張より廉なり
(6) 粒板は下敷としてリノリユームの耐久力を增し而も踏心地よく價格も亦廉なり
(7) 石鹸又は稀薄なる酸の溶液にて洗拭すれば容易に汚れを去り得故に經濟的なり

製造所
大阪府東成郡城東村字鴫野
コルク工業合資會社
電話鮫江四三番

一手販賣所
大阪市南區心齋橋筋二丁目
高島屋飯田合名會社裝飾部
電話南三一より三五番